Integra

SACD & DVD オーディオ／ビデオプレーヤー

DPS-1

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

目次

使ってみよう

準備をする

接続をする

基本の再生

その他

こんなことも

いろいろな機能

いろいろな再生機能を使う

いろいろな設定

特長

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは製品の色を表わす記号です。色は異なっても操作方法や仕様は同じです。

■ THX※1ウルトラ規格に準拠

■ ドルビー※2デジタル／DTS(ディーティーエス)※3／PCMデジタル出力端子（光：2／同軸：1）装備

■ コンポーネント（色差）映像出力、D1/D2映像出力／コンポジット出力／S映像出力端子装備

■ 192kHz(キロヘルツ)/24bit(ビット) D/A(ディーエー)（デジタル→アナログ）コンバーター搭載

■ VLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）回路

■ 108MHz(メガヘルツ)/12bit(ビット) ビデオD/A(ディーエー)（デジタル→アナログ）コンバーター搭載

■ 本体でもリモコンでも簡単にメニュー＝操作ができるCURSOR(カーソル)/ENTER(エンター)ボタンと、4つの操作ボタン（TOP MENU(トップメニュー)/MENU(メニュー)/RETURN(リターン)/SETUP(セットアップ)）

■ DVDオーディオ、DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW、CD、CD-R、CD-RW、SACD、MP3、ビデオCD対応

※1 ルーカスフィルムTHX及びTHXは、THX社の商標です。
※2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。ドルビー、Dolby、プロロジック、Pro Logic及びダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
※3 本機はデジタル・シアター・システムズ社からのライセンスに基づき製造されています。
“DTS”、“DTS Digital Surround”は、デジタル・シアター・システムズ社の商標です。

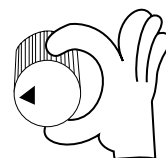
THXウルトラ

品質と動作に対する厳しい検査をクリアしてきたホームシアター機器に対してのみ、THXウルトラの承認が与えられます。THXロゴの付いたホームシアター機器は将来的にも優れた機能が保証されています。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。

隣近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

お互い心を配り、快い生活環境を守りましょう。

オーディオ機器の正しい使い方

オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警告

■ 故障したままの使用はしない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない

分解禁止

● 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
● 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 100V以外の電圧で使用しない

● 本機を使用できるのは日本国内のみです。
● 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

■ 放熱を妨げない

● 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や低部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。
  ● 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
  ● 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
  ● テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上に置いて使用しないでください。
  ● 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない

水場での使用禁止

● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

■ 水の入った容器を置かない

● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災・感電の原因となります。

⚠警告

■ 中に物を入れない

● 本機の通風孔、ディスク挿入口などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■ 中に水や異物が入ったら

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない

● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。
● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない

接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、製品本体や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 乾電池を充電しない

● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

⚠注意

■ 設置上の注意

- 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
- 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■ 次のような場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について

- 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

■ 使用上の注意

- 電源を入れる前にはアンプ等の音量(ボリューム)を最小にしてください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
- お子様がディスク挿入口に手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。
- キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。
- ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しないでください。ディスクが機器内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因となることがあります。
- レーザー光源をのぞき込まないでください。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

■ 電源コード、電源プラグの注意

- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

⚠注意

■ 電池について

- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

■ 点検・工事について

電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

ディスクについての予備知識

再生できるディスク

● 本機はNTSC（日本のテレビ方式）に適合していますので、DVDビデオまたはビデオCDのディスクやパッケージに「NTSC」と表示されているディスクをご使用ください。
● 以下のマークはディスクレーベル、パッケージ、または ジャケットに付いています。

再生できるディスクの種類とマーク		
DVDビデオ	DVD-R*1	DVD-RW*2
DVDオーディオ		
ビデオCD		
CD	CD-R*3	CD-RW*3
SACD		

*1 本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD-Rディスクを再生することができます。
*2 本機はDVDビデオフォーマットで記録されたDVD-RWディスクを再生することができます。1世代のみコピーすることを許可された映像素材を録画したDVDディスクは本機では再生できません。
*3 本機は音楽CDフォーマット、ビデオCDフォーマット、またはMP3の音楽データが記録されたCD-R／CD-RWディスクを再生することができます。
*4 使用するディスクがファイナライズされていないとき、また録音したレコーダー部の記録特性やディスクの特性、傷、汚れ／結露等により再生できない場合があります。
※ 詳しくはレコーダーの取扱説明書をご覧ください。

コピーコントロールCDの再生について
コピーコントロールCDの中には、正式なCD規格に合致していないものもあります。それらは特殊ディスクのため、本機で再生できない場合があります。

■本機で再生できないディスクの種類

・リージョンが「2」「ALL」以外のDVDビデオ
・DVD-ROM・DVD-RAM
・フォトCD・CD-Gなど

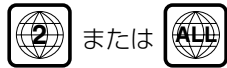
DVDに表示されているマークについて

DVDのディスクレーベル、またはパッケージには以下のようなマークが表示されています。

マーク	意味
②))	記録されている音声の数
2	記録されている字幕言語の数
3	記録されているアングル数
16 : 9 LB	記録されている映像のアスペクト比
2 ALL	地域番号を表わします。本機は地域番号「2」、または「ALL」と表示されたディスクを再生することができます。

リージョン番号（地域番号）について

DVDビデオによって、リージョン番号が指定されているものがあります。リージョン番号は地域を限定するもので、日本はリージョン番号「2」が指定されています。
リージョン番号が指定されたディスクにはそれを表わすマークがプリントされています。本機では以下のマークのついたディスクを再生することができます。

 または

これ以外のリージョン番号マークのついたディスクを再生しようとすると、再生できない旨の表示（「Wrong Region No.」）が画面にでます。

ディスクについての予備知識

DVDの操作制限について

DVDでは、ディスク制作者の意図により、操作方法を変更したり、特定の操作を禁止しているものがあります。このためディスクによって操作方法が異なったり、特定の操作ができないことがあります。本機ではディスクによって禁止されている操作をしたときは画面に「ディスクによる禁止」マーク( )を表示します。また、メニューや再生中に対話式の操作が可能なディスクでは、リピートやプログラムなどの一部の操作ができないことがあります。このような場合、本機では画面に「プレーヤーによる禁止」マーク( )を表示します。

ビデオCDについて

本機はPBC付きビデオCD（バージョン 2.0）に対応しています。（PBCは、Playback Controlの略です。）
ディスクによって、2種類の再生を楽しめます。

ディスクの種類	楽しみかた
PBCなしビデオCD（バージョン 1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（画像）を再生できます。
PBC付きビデオCD（バージョン 2.0）	PBCなしのビデオCDの楽しみかたに加えて、テレビ画面のあるソフトを使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（メニュー再生）。この取扱説明書で、説明されている機能が働かない場合があります。

MP3の再生について

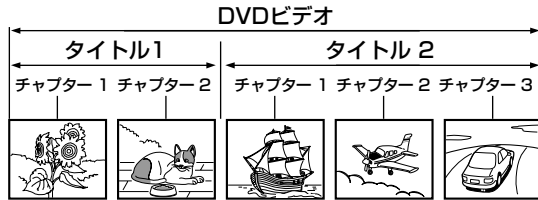
- MP3とは、MPEG1オーディオレイヤー3というファイル形式で圧縮した音楽データです。「.mp3」という拡張子の付いたファイルをMP3ファイルと呼びます。MP3ファイルが入っているフォルダーには「F_001、F_002・・・」、フォルダー内のファイルには「T_001、T_002・・・」というように自動的に番号をつけます。
- ISO9660CD-ROMファイルシステムに従って記録してください。
- MPEG1オーディオレイヤー3のサンプリング周波数44.1kHz、または48kHzの固定ビットレートで記録されたファイルに対応しています。それ以外で記録されたファイルは「UNPLAYABLE MP3 FORMAT」と表示され、再生することができません。
- 可変ビットレート（VBR: Variable Bit Rate）には対応していません。
- 「.mp3」、または「.MP3」という拡張子がついたMP3ファイルのみ再生することができます。
- マルチセッションには対応していません。マルチセッションディスクのときは、最初のセッションのみ再生します。
- フォルダー／トラックの名前は最大8文字まで表示します(半角英数字で入力された文字のみ)。半角英数字以外で入力されているフォルダー／トラックの名前は「F_001」／「T_001」のようにMP3ナビゲーター、またはプログラムの画面に表示されます。また、本体表示窓にも半角大文字英数字以外を表示できないことがあります。
- フォルダー／総トラック数はそれぞれ250まで対応しています。251以降のフォルダー／トラックを再生することはできません。
- 音質的には、記録ビットレート128kbpsを推奨します。

ご注意

MP3ファイルとその他のファイルが同一CD-ROMに記録されているディスクを再生すると、「UNPLAYABLE MP3 FORMAT」と表示されることがありますが、MP3ファイルについては問題なく再生できます。

ディスクに関する用語について

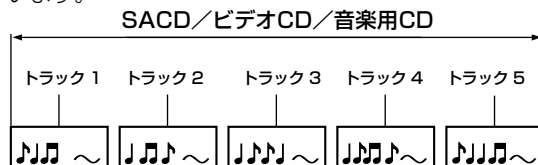
● DVDビデオは、「タイトル」という大きな区切りと、「チャプター」という小さな区切りに分かれています。

DVDビデオ
タイトル1　タイトル 2
チャプター 1　チャプター 2　チャプター 1　チャプター 2　チャプター 3

タイトル　DVDビデオの内容を、いくつかの部分に大きく区切ったものです。短編集の第1話、第2話の「話」に相当します。

チャプター　タイトルの内容を、場面や曲ごとにさらに小さく区切ったものです。上記「話」を分割する第1章、第2章の「章」に相当します。

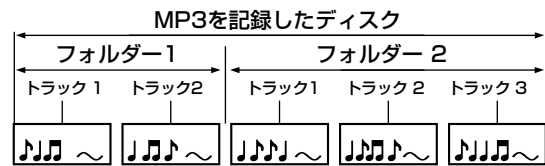
● DVDオーディオは、「グループ」という大きな区切りと、「トラック」という小さな区切りに分かれています。

DVDオーディオ
グループ1　グループ 2
トラック 1　トラック 2　トラック 1　トラック 2　トラック 3

● SACD／ビデオCD／音楽用CDは、「トラック」で区切られています。

トラック　ビデオCD／音楽用CDの内容を曲ごとに区切ったものです。

それぞれのタイトルやチャプター、トラックには順番に番号がふられています。これらの番号を「タイトル番号」、「チャプター番号」、「トラック番号」といいます。
（ディスクによっては、各々の番号が記録されていないものもあります。）

● MP3を記録したディスクは、「フォルダー」という大きな区切りと、「トラック」という小さな区切りに分かれています。

MP3を記録したディスク
フォルダー1　フォルダー 2
トラック 1　トラック2　トラック1　トラック 2　トラック 3

フォルダー　ディスクの内容を、いくつかの部分に大きく区切ったものです。

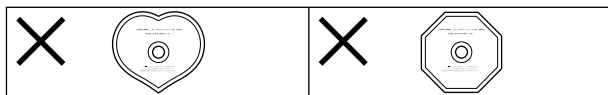
トラック　フォルダーの内容を、曲ごとにさらに小さく区切ったものです。

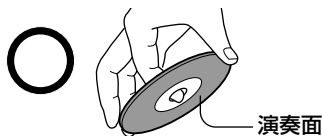
それぞれのタイトルやチャプター、トラック、フォルダーには順番に番号がふられています。これらの番号を「タイトル番号」、「チャプター番号」、「トラック番号」、「フォルダー番号」といいます。
（ディスクによっては、各々の番号が記録されていないものもあります。）

ディスクについての予備知識

ディスクについてのご注意

■ 異形ディスクについて

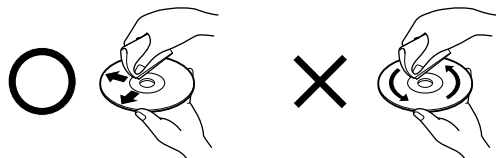
ハート型や八角形など特殊形状のディスクは使用しないでください。機械の故障の原因となることがあります。

■ 取り扱いについて

演奏面に触れないように、両端をはさむように持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

演奏面はもちろんレーベル面に紙やシールを貼ったり、文字を書いたりしないでください。またキズなどをつけないようにしてください。

■ レンタルディスクの注意について

ディスクにセロハンテープやディスクのラベルなどののりがはみ出したり、剥がしたあとがあるものはお使いにならないでください。そのまま本機にかけますと、ディスクが取り出せなくなったり、故障する原因となることがあります。

■ お手入れについて

汚れにより信号読み取りが低減し、音とびや画像の乱れが生じることがあります。汚れている場合は、演奏前に演奏面についた指紋やホコリを柔らかい布でディスクの内周から外周方向へ軽く拭いてください。

汚れがひどい場合には、柔らかい布を水で浸し、よく絞ってから汚れを拭き取り、そのあと柔らかい布で水気を拭き取ってください。
アナログレコード用スプレー、帯電防止剤などは使用できません。また、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品は表面が侵されることがありますので絶対に使用しないでください。

■ 保管上の注意について

直射日光のあたる場所、暖房器具の近くなど、温度が高くなるところや、極端に温度の低い場所はさけて保管してください。
必ず専用ケースに入れて保管してください。

コピー防止について

本機はアナログコピー防止システムに対応しています。
ディスクによっては、コピー禁止信号がはいっているものがあり、そのようなディスクを本機で再生してビデオデッキで録画しても、コピー防止システムが働いて正常に録画されません。

著作権について

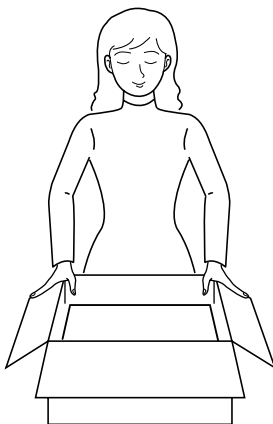
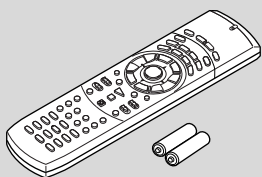
ディスクを無断で複製、放送、上映、有線放送、公開演奏、レンタル（有償、無償を問わず）することは、法律により禁止されています。

本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用はマクロビジョンコーポレーションの許可が必要であり、マクロビジョンコーポレーションの許可なしでは、一般家庭用または他のかぎられた視聴用だけに使用されるようになっています。改造または分解は禁止されています。

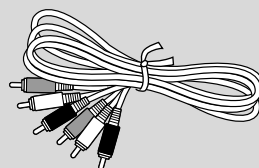
結露について

本機を冷えた所から、暖かい部屋に持ち込んだり、寒い部屋をストーブなどで急に暖めた場合、本機の内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。そのままでは正常に働かないばかりでなくディスクや部品を痛めてしまいます。本機をご使用にならないときは、ディスクを取り出しておくことをお勧めします。
結露しているおそれがある場合は、本機の電源を入れて約1時間放置してからご使用ください。

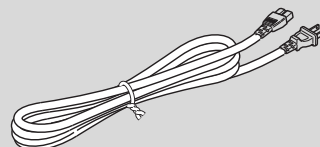
付属品を確認する

本機には以下の付属品が同梱されています。お確かめください。
［　］内の数字は数量を表わしています。

●リモコン（RC-499DV）[1]
● 単3乾電池 [2]

● Sビデオコード [1]
Sビデオ映像を送るコードです。

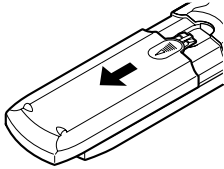
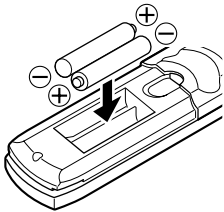
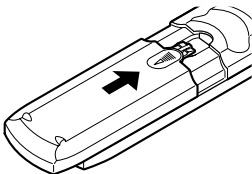
● RI ケーブル [1]
RI端子付きオンキヨー／インテグラ製品とのシステム接続をするケーブルです。（RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。）

● オーディオ・ビデオ用ピンコード [1]
アナログ音声と映像を送るコードです。

● 取扱説明書 （本書）[1]

● 保証書 [1]
（外箱に添付しています。）

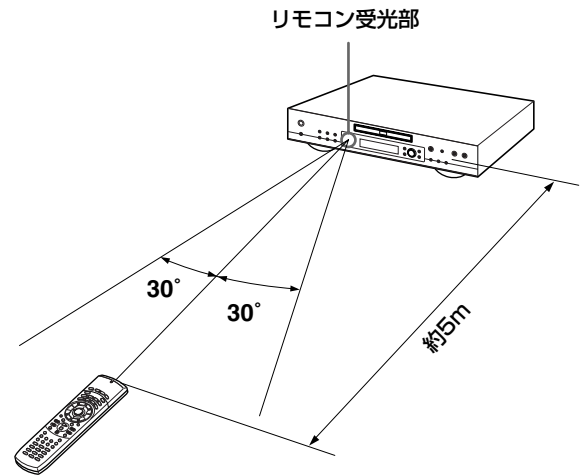
● 電源コード [1]

リモコンを準備する

乾電池を入れる

① カバーを矢印の方向に押し上げてはずす。

② 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる。

③ カバーを戻す。

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、ただちに古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。電池は、単3型（AA／UM-3）をご使用ください。

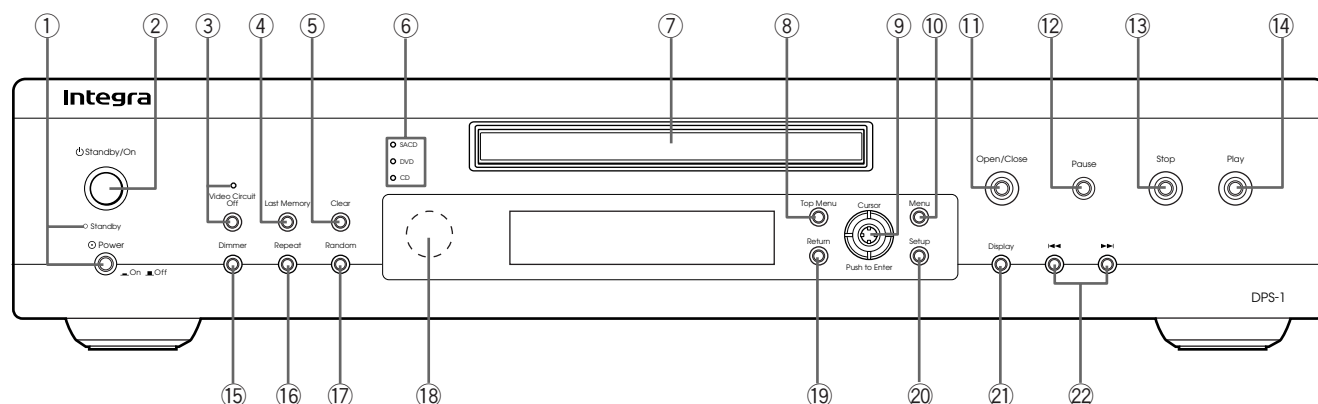
リモコンを使う

リモコンをDVDプレーヤーの受光部に向けて使用してください。

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

各部の名称

［　］内のページは、参照ページを示しています。

■ 本体前面

① 電源 Power スイッチとStandbyインジケーター［24］
本機の主電源を入れます。Standbyインジケーターが点灯します。もう一度このスイッチを押して切（■Off）の状態にすると主電源が切れます。

② Standby/On ボタン［24］
スタンバイ状態で押すと、電源が入ります。もう一度押すと、スタンバイ状態になります。

③ Video Circuit Off ボタンとインジケーター［43］
映像信号の処理を一時的に切ります。

④ Last Memory ボタン［41］
つづきから見たい場所を記憶したり、呼び出したりします。

⑤ Clear ボタン［34、36、38］
リピート再生、ランダム再生、プログラム再生で設定した内容を取り消します。

⑥ ディスクインジケーター［28］
再生中のディスクの種類に対応して点灯します。

⑦ ディスクトレイ［28］
ディスクを出し入れするときに、Open/Close ボタンで開閉します。

⑧ Top Menu ボタン［31］
DVDソフトの最上層のメニュー画面を表示します。

⑨ カーソル（◄/►/▲/▼）／Enter［25、31、33、35］
設定項目を選択するときカーソルを上下左右に動かします。
Enterを押して設定した項目を実行します。

⑩ Menu ボタン［31、33］
DVDのメニュー画面を表示します。MP3ではMP3ナビゲーター画面を表示します。

⑪ Open/Close ボタン［28］
ディスクトレイを開閉するときに押します。

⑫ Pause ボタン［29］
映像や音声を再生中に押すと、映像が静止画になり、音声が一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

⑬ Stop ボタン［29］
ディスクの再生を止めます。

⑭ Play ボタン［28］
ディスクを再生します。

⑮ Dimmer ボタン［29］
本機の表示部の明るさを4段階に調節します。

⑯ Repeat ボタン［34］
リピート再生するときに押します。

⑰ Random ボタン［38］
ランダム再生するときに押します。

⑱ リモコン受光部［14］
リモコンからの操作信号を受けます。

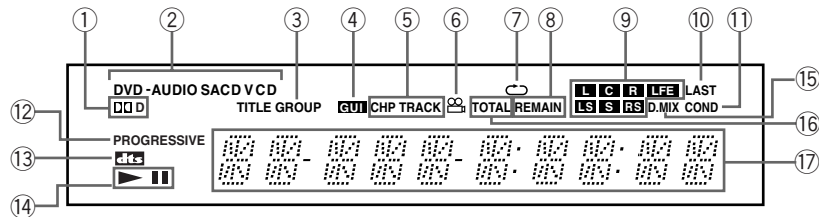
⑲ Return ボタン［25］
初期設定画面やメニュー画面が表示されているときに押すと1つ前の項目に戻ります。

⑳ Setup ボタン［25、46］
初期設定画面を表示します。

㉑ Display ボタン［44、45］
ディスクの情報を表示します。

㉒ ⏮/⏭ ボタン［29、30］
場所や曲の頭出しをします。
押し続けると早戻し／早送りします。

各部の名称

■ 表示部

① DD インジケーター
ドルビーデジタル音声を選んで再生しているとき点灯します（ドルビーデジタル音声で記録されているDVDのみ）。

② ディスク（種類）インジケーター［28］

③ TITLE/GROUP インジケーター

④ GUI（Graphical User Interface）インジケーター
初期設定、プログラム、画質調整、またはディスク情報などの画面が表示されているとき点灯します。

⑤ CHP/TRACK インジケーター

⑥ アングルインジケーター［39］

⑦ REPEAT インジケーター［34］

⑧ REMAIN インジケーター
タイトル、チャプター、またはトラックの残り再生時間が表示されているとき点灯します。

⑨ プログラムフォーマットインジケーター
再生しているDVDに収録されている音声チャンネルに対応するインジケーターが点灯します。
L　：左フロントチャンネル
C　：センターチャンネル
R　：右フロントチャンネル
LS　：左サラウンドチャンネル
S　：サラウンドチャンネル（モノラル）
RS　：右サラウンドチャンネル
LFE　：LFEチャンネル

⑩ LAST インジケーター［41］

⑪ COND インジケーター［42］

⑫ PROGRESSIVE インジケーター
映像出力でプログレッシブが選ばれているときに点灯します。

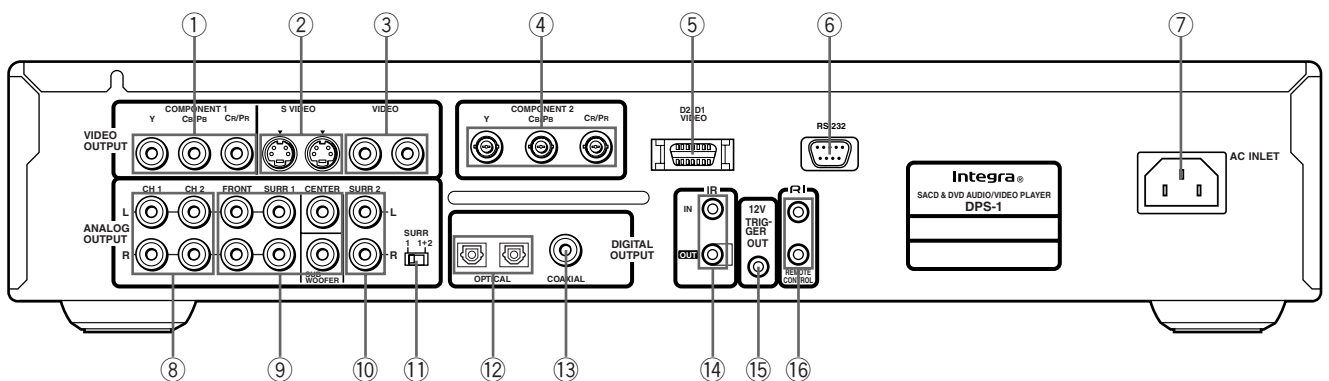
⑬ DTS インジケーター
DTS音声を選んで再生しているとき点灯します（DTS音声で記録されているディスクのみ）。

⑭ ► II インジケーター［28］

⑮ D.MIX インジケーター
DVDオーディオやドルビーデジタル、DTS、またはMPEGなどのマルチチャンネル音声をダウンミックス（チャンネル変換）しているとき点灯します。例えば、5.1チャンネル音声を2チャンネル音声に変換しているとき点灯します。

⑯ TOTAL インジケーター
総タイトル数、総トラック数およびトラックの総再生時間表示中に点灯します。

⑰ 多目的表示部

■ 本体背面部

① VIDEO OUTPUT COMPONENT1 端子［21］
コンポーネント（Y/CB/CR）映像入力端子またはD入力端子のあるテレビなどと接続するときに、市販のコンポーネントビデオ用ピンコードまたは変換ケーブルを使って接続します。

② VIDEO OUTPUT S VIDEO 端子［21］
S映像入力端子のあるテレビまたはAVアンプなどと接続するときに、付属のSビデオコードを使って接続します。

③ VIDEO OUTPUT VIDEO 端子［20］
テレビまたはAVアンプなどと接続するときに、付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードを使って接続します。

④ VIDEO OUTPUT COMPONENT2 端子［21］
コンポーネント（Y/CB/CR）映像入力端子またはD入力端子のあるテレビなどに接続するときに、市販のBNCタイプのコードまたは変換ケーブルを使用して接続します。

■ 本体背面部

⑤ D2/D1 端子［21］
D映像入力端子のあるテレビに接続するときにD端子ケーブルを使って接続します。

⑥ RS232 コネクター
外部機器を使って本機を操作するときに接続します。

⑦ AC INLET［24］
本機に付属の電源コードをつなぎます。

⑧ ANALOG OUTPUT CH 1/CH 2 端子［20、21、23］
ステレオアンプまたはテレビなどと接続するときに、付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードを使って接続します。

⑨ ANALOG OUTPUT FRONT/SURR1/CENTER/SUBWOOFER 端子［23］
5.1チャンネル音声入力を持つアンプを接続するときに、市販のオーディオ用ピンコードを使って接続します。

⑩ SURR2 OUTPUT 端子［23］
7.1チャンネル音声入力を持つアンプと接続するときに使用します。⑪でSURR1＋2を選んだときにSURR1と同じ音声を出力します。

⑪ SURR1/1＋2 切り換えスイッチ［23］
5.1チャンネル音声入力を持つアンプと接続しているとき「1」を7.1チャンネル音声入力を持つアンプと接続しているとき「1＋2」を選びます。「1」のときはSURR2 OUTPUT 端子から出力はありません。「1＋2」のときは出力レベルが「1」のときより3dB低く出力されSURR2端子とSURR1端子からは同じ音声が出力されます。

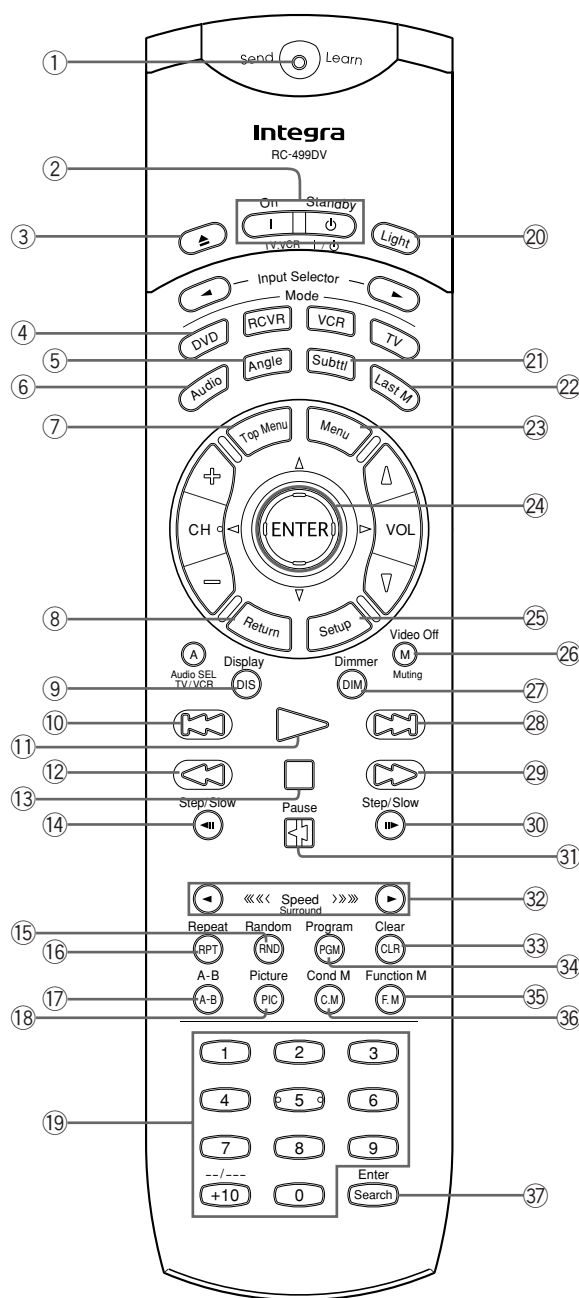
⑫ DIGITAL OUTPUT OPTICAL 端子［22］
デジタル入力端子のあるアンプなどと接続するときに、市販の光デジタルケーブルを使って接続します。

⑬ DIGITAL OUTPUT COAXIAL 端子［22］
デジタル入力端子のあるアンプなどと接続するときに、市販の同軸ケーブルを使って接続します。

⑭ IR IN/OUT 端子
別室からリモコン操作したいときや本機をラックに入れたときにリモコンセンサーを取り付けたり、リモコンでさらに別の機器を操作するための端子です。
別室から本機を操作するためには、この端子にマルチルームシステム用のキットを接続することが必要です。2002年8月現在では、このシステムは日本国内で販売しておりません。

⑮ 12V TRIGGER OUT 端子
この端子のトリガー信号により、電動スクリーンなどの制御が可能です。本格的なホームシアターを実現します。
本機をオンにするとこの端子から12V／100mAの電圧／電流を出力します。

⑯ RI端子［22、23］
RIマークの付いたオンキヨー製AVアンプなどにつないで、AVアンプなどのリモコンで本機を操作できます。付属のRIケーブルを使って、本機のRI端子とAVアンプなどのRI端子を接続します。RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

■ リモコン（本機の操作ボタン）

① Send/Learn インジケーター［62］
他のリモコンのコードを登録するときや制御コードの登録時、送信時に点灯・点滅します。

② On/Standby ボタン［24］
Onを押すと本体に電源が入り、Standbyを押すとスタンバイ状態になります。（Standbyインジケーターが点灯します。）

③ ▲ ボタン［28］
ディスクトレイを開／閉するときに押します。

各部の名称

■ リモコン

④ **DVD ボタン**
リモコンをDVDモードにするときに押します。DVDプレーヤーを操作できます。

⑤ **Angle ボタン［39］**
マルチアングルで記録されているDVDビデオを再生する場合、ディスクに記録されているカメラアングルを選択するときに押します。

⑥ **Audio ボタン［40］**
DVDビデオに記録された音声／言語を選択するときに押します。

⑦ **Top Menu ボタン［31］**
DVDソフトの最上層のメニュー画面を表示します。

⑧ **Return ボタン［25］**
初期設定画面やメニュー画面が表示されているときに押すと1つ前の項目に戻ります。

⑨ **Display ボタン［44、45］**
ディスクの情報を表示します。

⑩ **|◀◀（ダウン）ボタン［29］**
場所や曲の頭出しをします。

⑪ **▶（再生）ボタン［28］**
ディスクを再生します。

⑫ **◀◀（早戻し）ボタン［30］**
早戻しするときに押します。

⑬ **■（停止）ボタン［29］**
ディスクの再生を止めます。

⑭ **Step/Slow ◀| ボタン［30］**
DVDを逆方向にスロー再生するとき、コマ送りするときに押します。

⑮ **Random ボタン［38］**
ランダム再生するときに押します。

⑯ **Repeat ボタン［34］**
リピート再生するときに押します。

⑰ **A-B ボタン［34］**
ディスクの一部分を繰り返し再生したいときに押します。

⑱ **Picture ボタン［52］**
設定画面の画質調整画面を表示するときに押します。

⑲ **数字ボタン［32、35］**
見たい／聞きたい場所を指定するときに押します。

⑳ **Light ボタン**
リモコンのボタンを点灯／消灯するときに押します。

㉑ **Subttl ボタン［40］**
DVDビデオに記録された字幕言語を選択するときに押します。

㉒ **Last M ボタン［41］**
つづきから見たい場所を記憶したり呼びだしたりします。

㉓ **Menu ボタン［31、33］**
DVDのメニュー画面を表示します。MP3ではMP3やナビゲーター画面を表示します。

㉔ **▲/▼/◀/▶／ENTER ボタン［25、31、33、35］**
設定項目を選択するときカーソルを上下左右に動かします。ENTERを押して項目を実行します。

㉕ **Setup ボタン［25］**
初期設定画面を表示します。

㉖ **Video Off ボタン［43］**
本機を音声の再生専用に使用するときに押します。

㉗ **Dimmer ボタン［29］**
本体表示部の明るさを4段階に調節します。

㉘ **▶▶|（アップ）ボタン［29］**
場所や曲の頭出しをします。

㉙ **▶▶（早送り）ボタン［30］**
早送りするときに押します。

㉚ **Step/Slow |▶ ボタン［30］**
DVDやビデオCDを正方向にスロー再生するとき、コマ送りするときに押します。

㉛ **Pause ⏸ ボタン［29］**
映像や音声を再生中に押すと、映像が静止画になり、音声が一時停止します。もう一度押すと再生を再開します。

㉜ **Speed ◀ ボタン［30］**
押すごとに、逆方向にスロー再生から早もどし再生に切り換わります。

Speed ▶ ボタン［30］
押すごとに、スロー再生から早送り再生に切り換わります。

㉝ **Clear ボタン［34、36、38］**
リピート再生、ランダム再生、プログラム再生で設定した内容を取り消します。

㉞ **Program ボタン［35］**
好みの順にタイトル／チャプター／トラックの再生をするときに押します。

㉟ **Function M ボタン［61］**
初期設定項目を登録します。

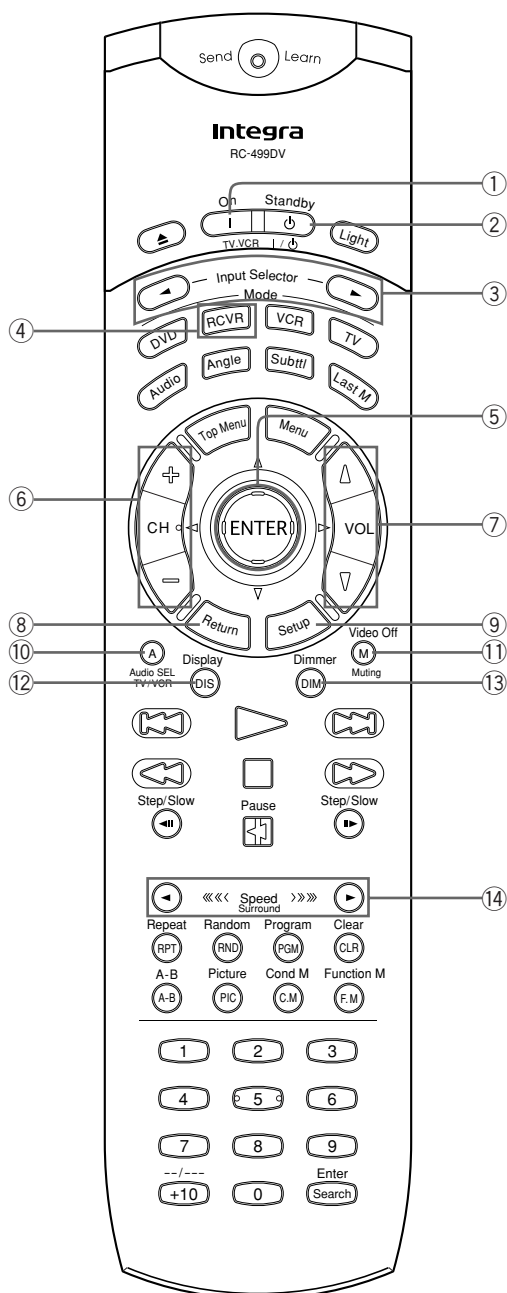
㊱ **Cond M ボタン［42］**
DVDの設定を記憶します。

㊲ **Search ボタン［32］**
再生を始めたい場所を探すときに押します。

■ リモコン（オンキヨー製AVアンプ／レシーバー操作ボタン）

オンキヨー製のAVアンプ／レシーバーを本機に付属のリモコンで操作するときは、RCVRを押します。以下のボタンでオンキヨー製のアンプ／レシーバーを操作することができます。各機能について詳しくは、AVアンプ／レシーバーに付属の取扱説明書を参照してください。

ご注意

AVアンプ／レシーバーによっては、操作できない場合もあります。

① On ボタン
電源を入れるときにOnを押します。AVアンプ／レシーバーにもよりますが、Onを押せば、電源オンとスタンバイを切り換えることができます。

② Standby ボタン
スタンバイにするときはStandbyを押します。

③ Input Selector ボタン
入力を選択するときに押します。このボタンはDVDモードでも使用できます。

④ RCVR ボタン
リモコンをレシーバーモードにするときに押します。AVアンプ／レシーバーを操作できます。

⑤ ▲/▼/◄/►／ENTER ボタン
セットアップメニューを操作するときに押します。

⑥ CH +/– ボタン
レシーバーのチューナーを使用する場合、プリセットした放送局を選局するときに押します。

⑦ VOL ▲/▼ ボタン
音量を調節するときに押します。

⑧ Return ボタン
セットアップメニューをひとつ前に戻すときに押します。

⑨ Setup ボタン
セットアップメニューを表示したり、終了するときに押します。

⑩ Audio SEL ボタン
オーディオ入力を切り換えるときに押します。

⑪ Muting ボタン
ミュート機能をオン／オフするときに押します。

⑫ Display ボタン
表示部の表示を切り換えるときに押します。

⑬ Dimmer ボタン
表示部の明るさを切り換えるときに押します。

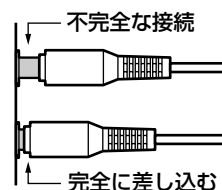
⑭ Surround Mode ボタン
リスニングモード（サウンドモード）を切り換えるときに押します。

テレビと接続する

接続する前に

- テレビとの接続は、ビデオ端子（20ページ）、コンポーネントビデオ端子、D端子、またはSビデオ端子（21ページ）のいずれか1つを接続すれば、映像が出力されます。
- 接続するテレビの取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、テレビの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- 本機はテレビと直接接続してください。ビデオデッキなどを経由してテレビと接続した場合、コピープロテクトされたディスクを再生すると画像が歪みます。
- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 本機には、以下のコードが付属されています。
  - オーディオ・ビデオ用ピンコード（1本）
  - Sビデオコード（1本）

付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードを使って接続する

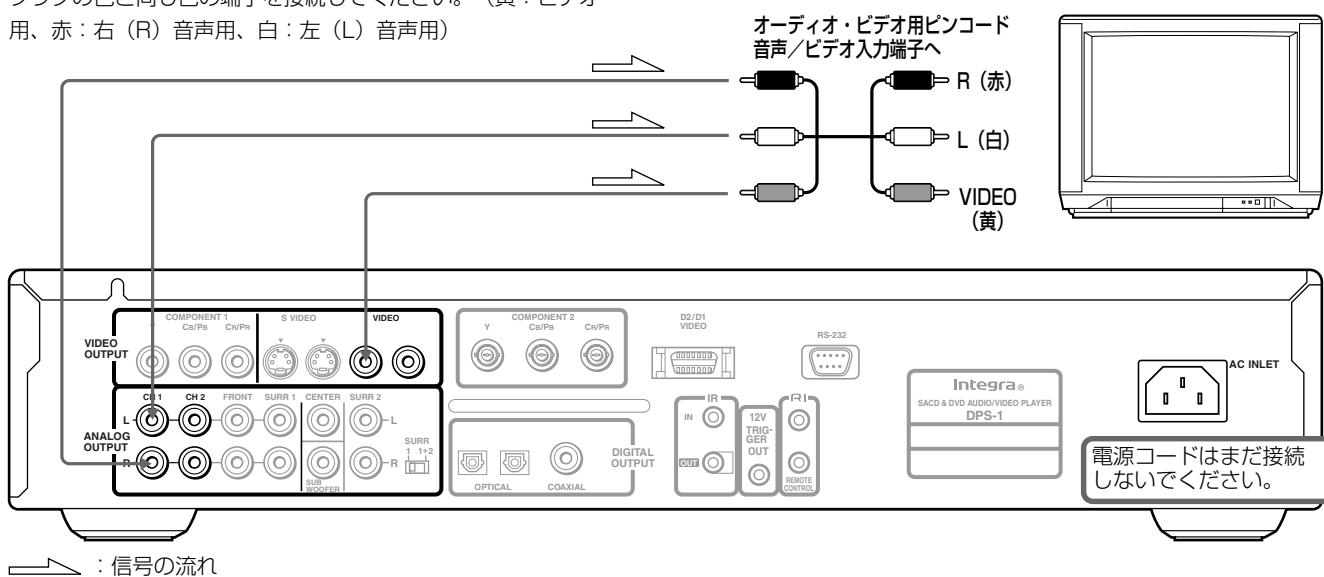
接続したテレビに合わせて、本機のセットアップナビゲーター（☞25ページ）または初期設定画面（☞46ページ）で映像を設定してください。

付属のオーディオ・ビデオ用ピンコードを使って、ANALOG OUTPUT CH 1（またはCH 2）L／R端子とテレビの音声入力端子を接続します。同様にVIDEO OUTPUT VIDEO端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。

お知らせ

プラグの色と同じ色の端子を接続してください。（黄：ビデオ用、赤：右（R）音声用、白：左（L）音声用）

オーディオ・ビデオ用ピンコード
音声／ビデオ入力端子へ
R（赤）
L（白）
VIDEO（黄）

電源コードはまだ接続しないでください。

：信号の流れ

お知らせ

- 本機の映像出力は、直接テレビに接続してください。
  本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しているため、本機をビデオデッキを通してテレビに接続したり、ビデオデッキで録画して再生すると、正常な再生ができないことがあります。
- 本機の VIDEO OUTPUT VIDEO 端子、および S ビデオ出力端子からはプログレッシブ出力されません。

■ テレビのD端子入力について

本機のD1/D2端子は、接続するテレビのD1、D2、D3、またはD4のいずれの入力端子にも接続することができます。

D端子	方式
D4	525i(480i)、525p(480p)、1125i(1080i)、750p(720p)
D3	525i(480i)、525p(480p)、1125i(1080i)
D2	525i(480i)、525p(480p)、
D1	525i(480i)

i ：インターレース（飛び越し走査）を表しています。
p ：プログレッシブ（順次走査）を表しています。
（　）内は有効走査線数で数えた場合の別称です。

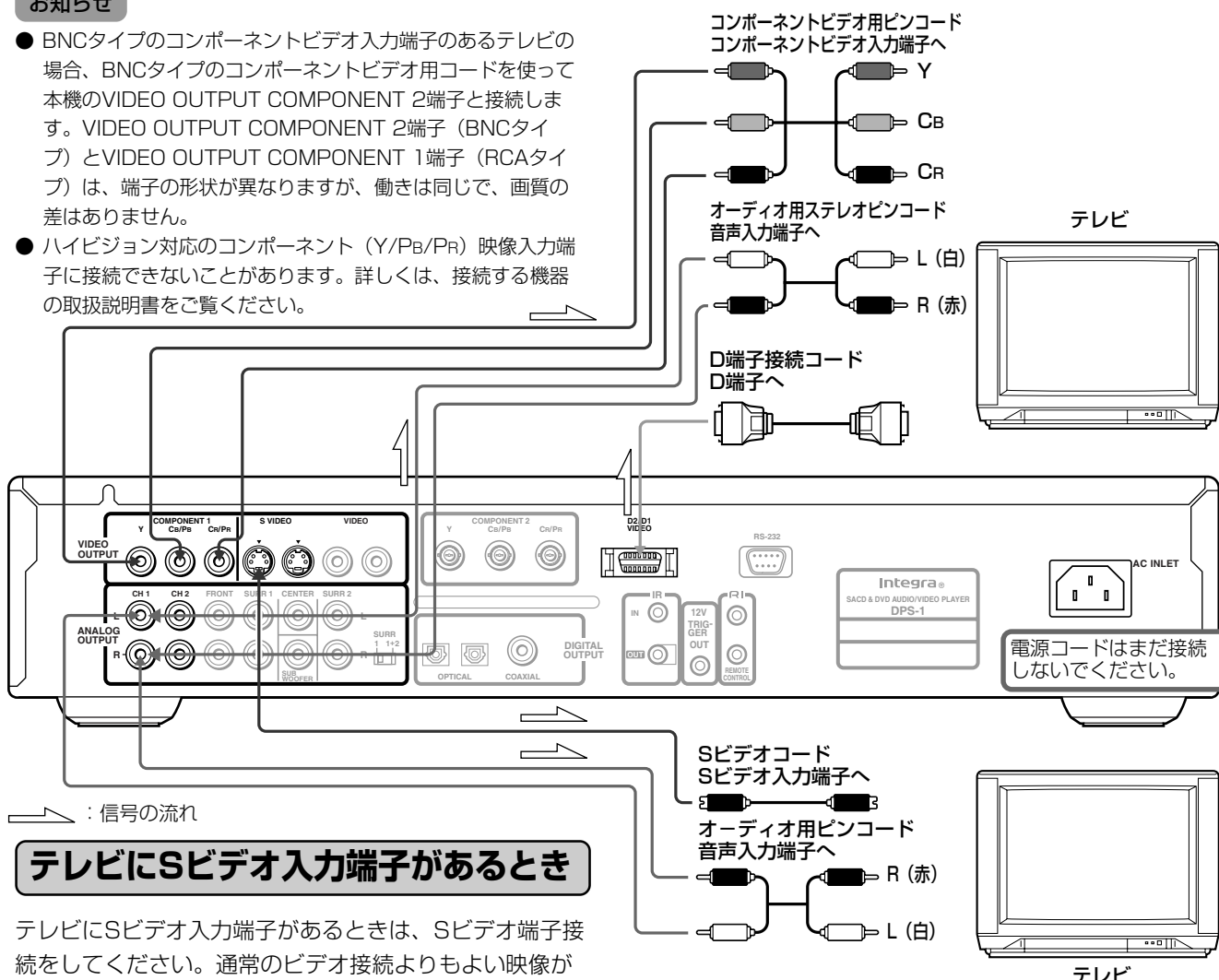
テレビにコンポーネントビデオ入力端子またはD入力端子があるとき

コンポーネントビデオ入力端子接続をすると、Sビデオ接続よりさらによい画像を得ることができます。
D入力端子接続では、専用コード1本でコンポーネントビデオ入力端子接続と同等の画質が得られます。プログレッシブ対応のテレビと接続するとプログレッシブ映像がお楽しみいただけます。

お知らせ

- BNCタイプのコンポーネントビデオ入力端子のあるテレビの場合、BNCタイプのコンポーネントビデオ用コードを使って本機のVIDEO OUTPUT COMPONENT 2端子と接続します。VIDEO OUTPUT COMPONENT 2端子（BNCタイプ）とVIDEO OUTPUT COMPONENT 1端子（RCAタイプ）は、端子の形状が異なりますが、働きは同じで、画質の差はありません。
- ハイビジョン対応のコンポーネント（Y/PB/PR）映像入力端子に接続できないことがあります。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

- コンポーネントビデオ入力端子の名称は、メーカーにより異なります。(例：Y/R-Y/B-Y、色差信号、コンポーネント映像等)
- テレビやモニターによっては再生時の色の濃さ（カラーレベル）がわずかに薄くなったり、色合い（ティント）が変わったりする場合があります。この場合は、テレビやモニターを調節して、ベストな状態にしてください。

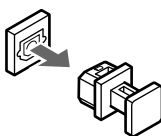
接続したテレビに合わせて、本機のセットアップナビゲーター（☞25ページ）または初期設定画面（☞46ページ）で映像を設定してください。

テレビにSビデオ入力端子があるとき

テレビにSビデオ入力端子があるときは、Sビデオ端子接続をしてください。通常のビデオ接続よりもよい映像が得られます。

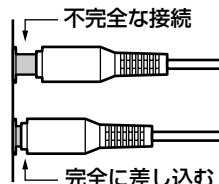
アンプを接続する（音声効果を楽しむために）

本機の音声は、前ページの接続をすることで、テレビのスピーカーからでも出力できます。しかし、本機をアンプに接続することで、より高音質でダイナミックな音声を楽しむことができます。
ドルビーデジタルサラウンド、DTS（ディーティーエス）サラウンド音声を再生するときは、それぞれのデコーダーが備わっているアンプと接続する必要があります。

接続する前に

- アンプの取扱説明書も参照してください。
- 接続するときは、接続するすべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。本機の電源コードはまだ接続しないでください。
- ビデオ切り換え付きのアンプをご使用の場合は、映像信号はアンプを通してモニターに出力するようにしてください。
- デジタル端子に接続するときは、キャップをはずしてください。デジタル端子を使用しないときは、必ずキャップをはめてください。

- プラグは奥までしっかり接続してください。
- 本機には、以下のコードが付属されています。

— **オーディオ・ビデオ用ピンコード（1本）**
このピンコードでアナログ音声接続をするときは、黄色のプラグを接続しないで使用してください。

— **RIケーブル（1本）**
- RIケーブルを使ってオンキヨー製のアンプと接続すると、アンプのリモコンを使って本機を操作することができます。
- RI端子の上下2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。RIケーブルで接続した場合も、オーディオ用ピンコードは必ず接続してください。

AVアンプと接続する

DIGITAL OUTPUT OPTICAL端子とAVアンプの光デジタル入力端子を市販の光デジタルケーブルで接続します。または、DIGITAL OUTPUT COAXIAL端子とAVアンプの同軸デジタル入力端子を市販の同軸ケーブルで接続します。

お知らせ

同軸ケーブルはAC-3RF入力端子（ドルビーデジタルレシーバーなどにあるLD専用の端子）には接続しないでください。

接続したアンプの種類に合わせて、本機のセットアップナビゲーター（☞25ページ）または初期設定画面（☞46ページ）で音声を設定してください。

オーディオ用ピンコード
アナログオーディオ入力端子へ

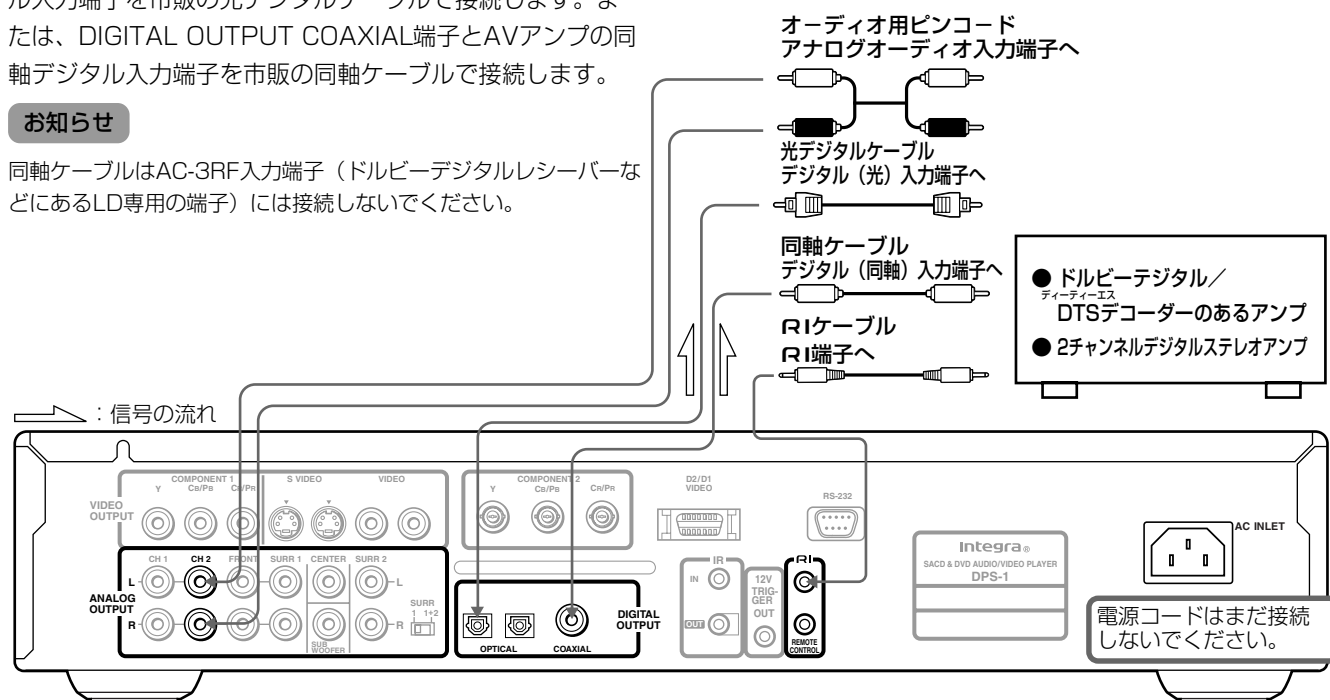
光デジタルケーブル
デジタル（光）入力端子へ

同軸ケーブル
デジタル（同軸）入力端子へ

RIケーブル
RI端子へ

- ドルビーデジタル／DTS（ディーティーエス）デコーダーのあるアンプ
- 2チャンネルデジタルステレオアンプ

⟹：信号の流れ

電源コードはまだ接続しないでください。

お知らせ

デジタル出力でドルビーデジタル /DTS の 5.1 チャンネルを楽しむには

- ドルビーデジタル /DTS の 5.1 チャンネル音声をお楽しみいただくためには、ドルビーデジタル /DTS デコーダー内蔵 AV アンプなどのほか、5 チャンネルスピーカー（フロント左右 / センター / サラウンド左右）＋サブウーファーが別途必要になります。

DVD オーディオのデジタル出力について

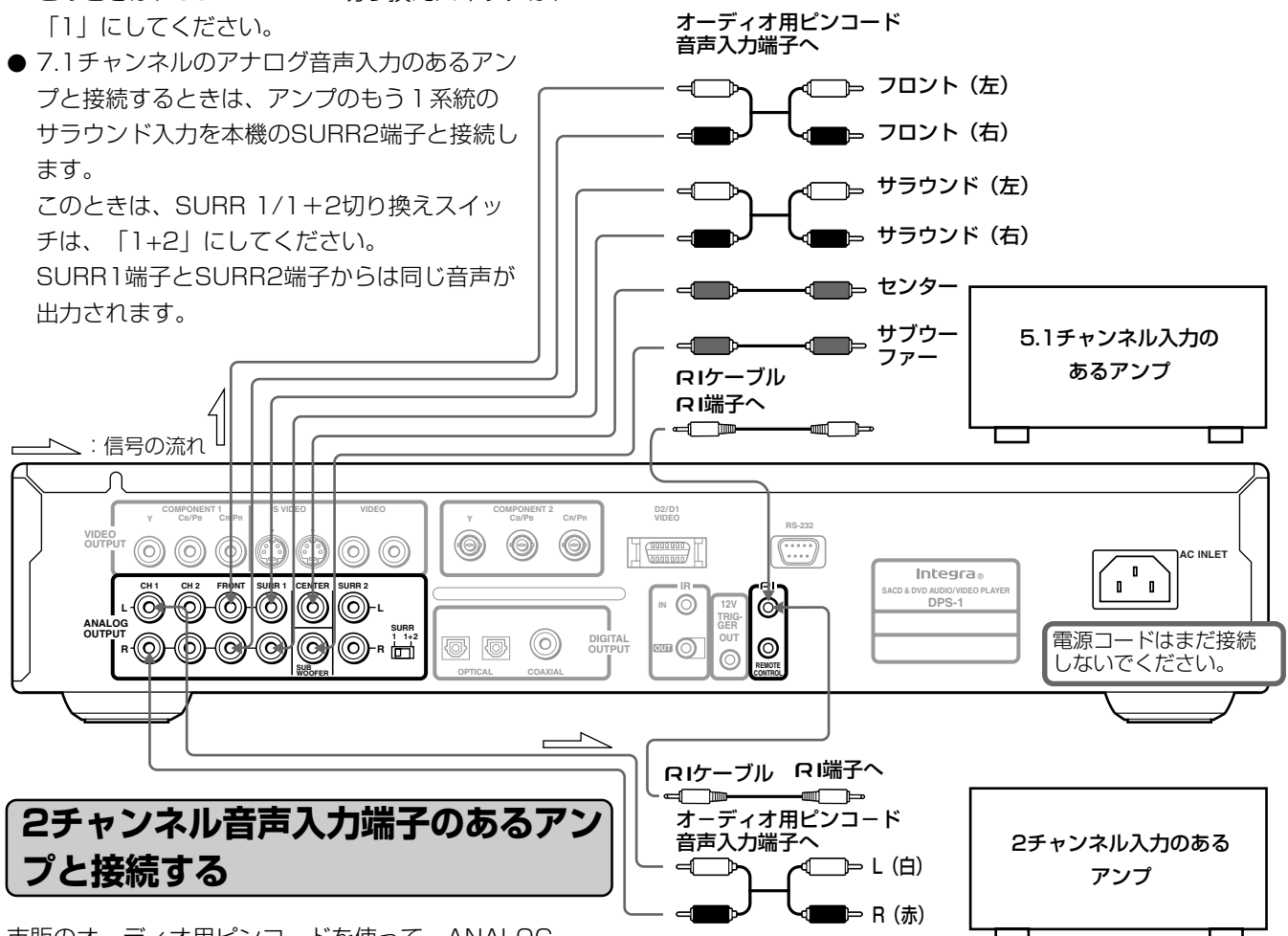
- DVDオーディオのマルチチャンネル音声はデジタル出力されません。2チャンネル音声にダウンミックスして出力されます。マルチチャンネル音声をお楽しみいただくためには「5.1チャンネルアナログ入力端子のあるAVアンプと接続する」(☞23ページ)をしてください。
- DVDオーディオの192kHz/176.4kHz音声はデジタル出力されません。96kHz/88.2kHz、または48kHz/44.1kHzに変換して出力されます。ディスクによってはデジタル音声が出力されないことがあります。
SACD ではデジタル音声が出力されません。「2 チャンネル音声入力端子のあるアンプと接続する」、または「5.1 チャンネルアナログ入力端子のある AV アンプと接続する」（☞23 ページ）をしてください。

5.1チャンネルアナログ入力端子のあるAVアンプと接続する

接続したアンプの種類に合わせて、本機のセットアップナビゲーター（☞25ページ）または初期設定画面（☞46ページ）で音声を設定してください。

ANALOG OUTPUT端子からDVDビデオ／オーディオ、SACD、ソースのマルチチャンネル音声を出力します。ANALOG OUTPUT FRONT、SURR1（サラウンド）、CENTER、SUBWOOFER端子とAVアンプのマルチチャンネル音声入力端子を接続します。

お知らせ

- 正しく再生できるように、本機と接続したチャンネルが同じかどうか確認してください。
- サラウンド出力は2系統あります（SURR1、SURR2）。2系統とも同じ音声を出力します。
- 5.1チャンネルのアナログ音声入力のあるアンプと接続するときはアンプのサラウンド入力を本機のSURR1端子と接続します。
  このときは、SURR 1/1＋2切り換えスイッチは、「1」にしてください。
- 7.1チャンネルのアナログ音声入力のあるアンプと接続するときは、アンプのもう１系統のサラウンド入力を本機のSURR2端子と接続します。
  このときは、SURR 1/1＋2切り換えスイッチは、「1+2」にしてください。
  SURR1端子とSURR2端子からは同じ音声が出力されます。

2チャンネル音声入力端子のあるアンプと接続する

市販のオーディオ用ピンコードを使って、ANALOG OUTPUT CH 1またはCH 2 L/R端子とアンプの音声入力を接続します。

お知らせ

- プラグの色と同じ色の端子を接続してください。
  （赤：右（R）音声用、白：左（L）音声用）
- 接続する機器のPHONO端子またはTUNER端子には、本機を接続しないでください。

本機の電源をつなぎ、電源を入れる

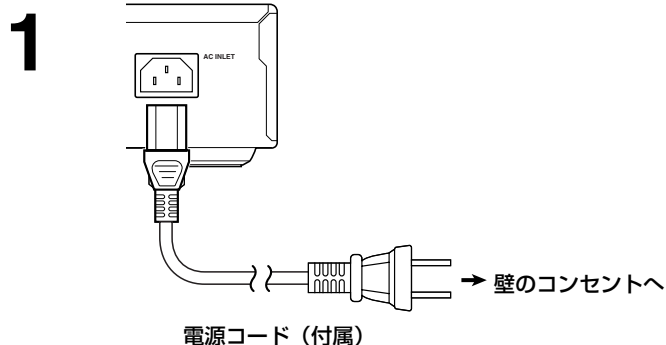
接続する前に

- 工場出荷時、本機の主電源（Power）はオン（▂ On）に設定されています。電源コードを初めて接続すると、スタンバイインジケーターが点灯し、スタンバイ状態になります。（操作2と同じ状態）
- 20〜23ページの接続がすべて終了しているか確認してください。（本機はテレビ画面を使って設定や操作をします。テレビとのビデオ接続は必ず行ってください。）
- 本機の電源を入れると瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントにつなぐようにしてください。

1 付属の電源コードを本体背面のAC INLETにつなぎ、プラグを壁のコンセントにつなぐ

お知らせ

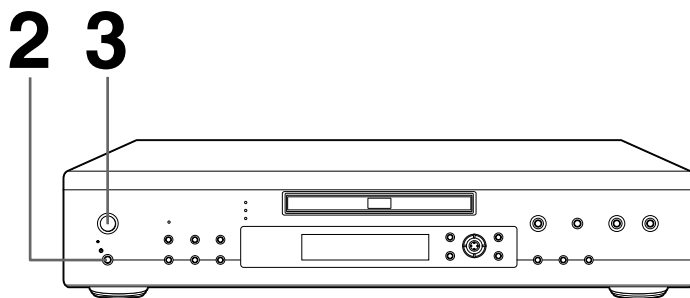
- 本機に付属されている電源コード以外の電源コードは使用しないでください。また、本機以外の機器にも本機に付属の電源コードは使用しないでください。
- 感電の原因となるため、電源コードのプラグを壁のコンセントに接続したまま、本体背面から電源コードを抜かないでください。壁のコンセントに電源コードのプラグをつなぐときは最後に行い、プラグを抜くときは最初に行ってください。

1

2 Powerスイッチを押して、主電源を入れる

本機がスタンバイ状態になります。

お知らせ

- Power（パワー）スイッチがオフ（Off）になっていると、リモコンのボタンははたらきません。
- 主電源を切るには、Power（パワー）スイッチをもう一度押します。

2 3

3 本機のStandby/Onか、リモコンのOnを押して、電源を入れる

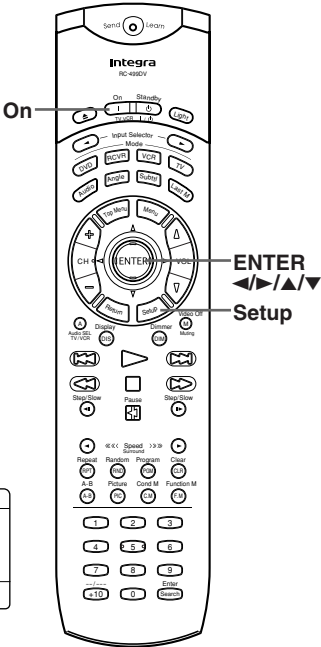
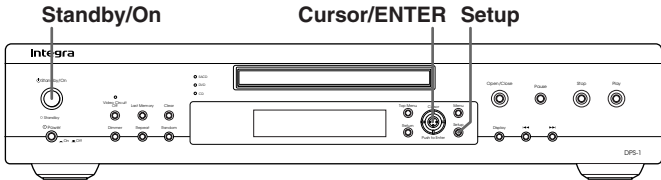
電源が入り、本機のOpen/Closeの回りが青く点灯します。もう一度本体のStandby/Onを押すか、リモコンのStandbyを押すとスタンバイ状態に戻ります。

お知らせ

スタンバイ状態からOpen/CloseまたはPlayを押すと電源が入ります。

セットアップナビゲーターを使って設定する

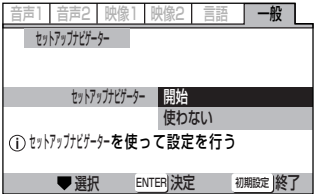
セットアップナビゲーター によりテレビ画面をみながら対話形式で本機の設定を行います。表示される質問に答えていくと、本機の設定が自動的に完了します。この機能を再生中に使うことはできません。セットアップナビゲーターを開始すると以下の順に質問されます。
言語（画面表示言語） ➡ テレビとの接続（テレビの種類） ➡ アンプとの接続
本機とテレビが映像コードで接続されていないと、画面が表示されません。

On
ENTER
◀/▶/▲/▼
Setup

セットアップナビゲーターを使って設定する

リモコンのOnまたは本体のStandby/Onを押す

すでにディスクが入っているときはディスクを取り出してください。

Setupを押す

セットアップナビゲーター画面がテレビ画面に表示されます。

開始：
セットアップナビゲーターを開始するとき選択します。
使わない：
セットアップナビゲーターの設定がすでに完了しているとき選択します。『使わない』を選ぶと次回からSetupボタンを押してもセットアップナビゲーターの画面は出なくなり、個別の設定をする画面が表示されます。詳しくは「いろいろな設定」（46ページ)をご覧ください。

ENTERを押す

セットアップナビゲーターを開始します。

■設定の途中で前の設定画面に戻るには

◀を押します。

お知らせ

ⓘマークは情報（information）を意味しています。画面に選択している項目の簡単な説明が表示されますので、設定内容がわからない場合は参考にしてください。

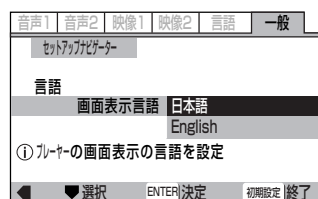
■セットアップナビゲーター画面などの画面表示について

画面下部に操作に対応するリモコンのボタンが表示されます。これらはリモコンの以下のボタンに対応しています。

画面表示	リモコンのボタン
◀▶▲▼	◀/▶/▲/▼
ENTER	ENTER
初期設定	Setup
プログラム	Program
画面表示	Display
リターン	Return

セットアップナビゲーターを使って設定する

■画面に表示する言語を選ぶ

日本語、または英語を選ぶことができます。▲/▼を操作して選び、ENTERを押します。

日本語：

画面に表示される言語が日本語になります。

English：

画面に表示される言語が英語になります。

お知らせ

画面表示言語で選んだ言語が、字幕言語、および音声言語に自動的に選択されます（☞55ページ）。

■接続したテレビの種類を選ぶ

本機に接続したテレビの種類を設定します。▲/▼を操作して選び、ENTERを押します。

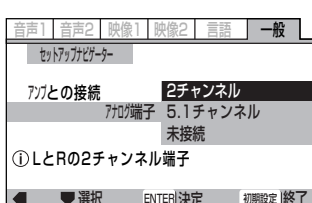
ワイド（16:9）：

ワイド（16:9）のテレビと接続したとき選択します。

標準（4:3）：

従来サイズ（4:3）のテレビと接続したとき選択します。

■アナログ端子を選ぶ

アンプやレシーバーとのアナログ接続の種類を設定します。▲/▼を操作して選び、ENTERを押します。

2チャンネル：

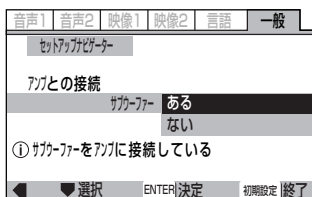
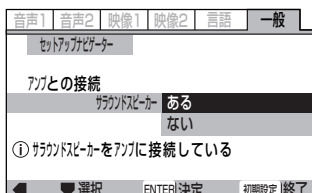
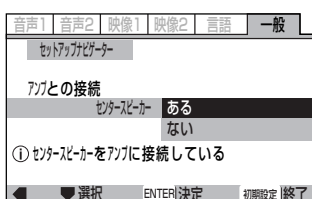
アンプやレシーバーに2チャンネルアナログ接続したとき選択します。

5.1チャンネル：

アンプやレシーバーに5.1チャンネルアナログ接続したとき選択します。

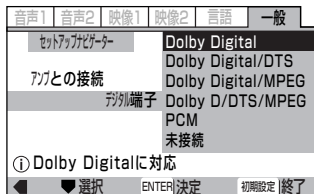
未接続：

本機をアンプやレシーバーにアナログ接続していないとき選択します。

『5.1チャンネル』に設定したときは、アンプに接続されているスピーカーを設定します。

お知らせ

本機をテレビに直接接続しているときは『2チャンネル』に設定してください。

■アンプが対応しているデジタル信号を選ぶ

22ページで接続したアンプがどのデジタル信号に対応しているかを設定します（お手持ちのアンプの取扱説明書も合わせてご覧ください）。▲/▼を操作して選び、ENTERを押します。

Dolby Digital：
本機と市販のデジタル音声ケーブルで接続しているAVアンプなどがドルビーデジタル対応のとき選択します。

Dolby Digital/DTS：
本機と市販のデジタル音声ケーブルで接続しているAVアンプなどがドルビーデジタルおよびDTS対応のとき選択します。

Dolby Digital/MPEG：
本機と市販のデジタル音声ケーブルで接続しているAVアンプなどがドルビーデジタルとMPEG対応のとき選択します。

Dolby D/DTS/MPEG：
本機と市販のデジタル音声ケーブルで接続しているAVアンプなどがドルビーデジタル、DTS、およびMPEG対応のとき選択します。

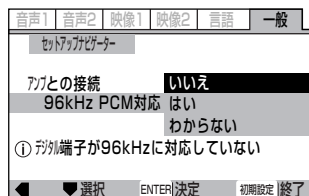
PCM：
本機と市販のデジタル音声ケーブルで接続しているアンプがステレオアンプ、またはドルビープロロジック対応アンプのとき選択します。

未接続：
付属のアナログ音声ケーブルのみでアンプなどと接続しているとき、またはアンプがどのデジタル信号に対応しているかわからないとき選択します。この項目を選択すると次の『96kHz PCM対応』の設定は必要がないため、「セットアップナビゲーターを終了する」へ移ります。

警告

- DTS音声に対応していないアンプと接続しているとき『Dolby Digital/DTS』、または『Dolby D/DTS/MPEG』を選択しないでください。大音量が出て、聴覚やスピーカーを損傷する恐れがあります。
- 2チャンネルのデジタルステレオアンプと接続しているときは『PCM』を選択してください。『PCM』以外を選択すると、大音量が出て聴覚やスピーカーを損傷する恐れがあります。

■接続したアンプがリニアPCMの96kHz音声に対応しているかを選ぶ

本機と接続したアンプがリニアPCMの96kHzに対応しているか、対応していないかを設定します。▲/▼を操作して選び、ENTERを押します。

いいえ：
本機と接続したアンプがリニアPCMの96kHzに対応していないとき選択します。

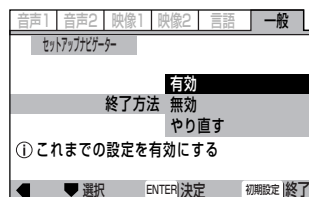
はい：
本機と接続したアンプがリニアPCMの96kHzに対応しているとき選択します。

わからない：
本機と接続したアンプがリニアPCMの96kHzに対応しているかどうかわからないとき選択します。

お知らせ

『いいえ』、『わからない』を選択したときは、DVDの音声がリニアPCMの96kHzであっても48kHzに変換した信号を出力します。

■セットアップナビゲーターを終了する

今まで設定した項目を有効にして終了するか、無効にして終了するか、またはやり直すかを選択します。▲/▼を操作して選び、ENTERを押します。

有効：
これまでの設定内容を有効にして終了します。

無効：
これまでの設定内容を無効にして終了します。

やり直す：
セットアップナビゲーターを使って行った設定を『画面表示言語』の設定からやり直します。

お知らせ

- セットアップナビゲーターでは基本的な設定を行います。より細やかな設定は初期設定画面で行います（☞47ページ）。
- セットアップナビゲーターの設定を出荷時に戻すには、電源を待機状態（スタンバイ状態）にして、本体の■を押しながら本体のStandby/Onを押してください（☞61ページ）。（リモコンでの操作はできません。）

ディスクを再生する

再生を始める前に

- SACD、DVDビデオ、DVDオーディオ、ビデオCD、音楽用CD以外は再生しないでください。（☞「再生できるディスク」、9ページ）
- ディスクを再生するときは、テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機器を接続した入力に切り換えてください。

SACD DVD DVD-V DVD-A VCD CD MP3 マークについて

DVD はDVDビデオとDVDオーディオの操作に関する説明です。
DVD-V はDVDビデオの操作に関する説明です。
DVD-A はDVDオーディオの操作に関する説明です。
VCD はビデオCDの操作に関する説明です。
CD は音楽用CDに関する説明です。
MP3 はMP3を記録したディスクに関する説明です。
SACD はSACD（スーパーオーディオCD）に関する説明です。

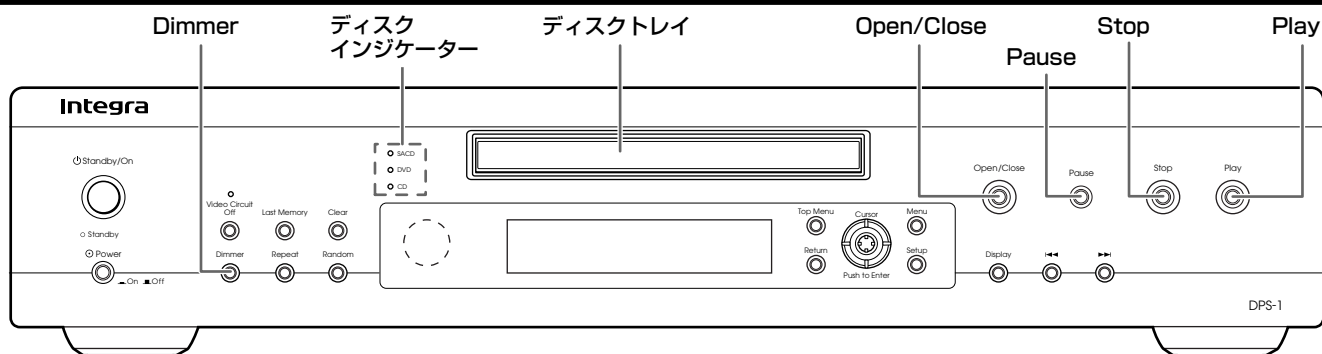
警告

音声を、以下の方法で出力している場合は、DTS（ディーティーエス）方式で録音されたディスクを再生しないでください。アナログ端子からノイズが過剰出力され、接続した機器が損傷する場合があります。

- アナログ接続したアンプを通して出力している場合
- テレビのスピーカーから出力している場合

DTS（ディーティーエス）方式の音声を再生するには、DTS（ディーティーエス）デコーダーが備わったアンプとデジタル端子による接続をする必要があります（☞22ページ）。

DVD VCD CD SACD MP3

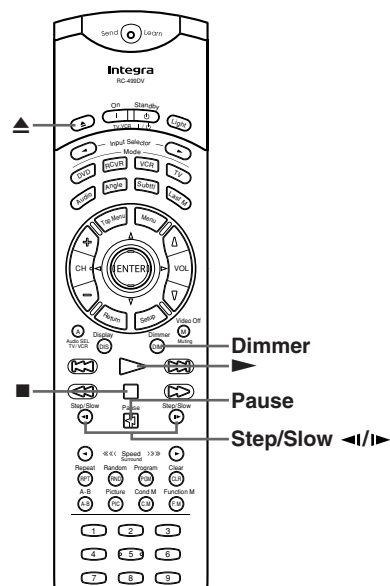
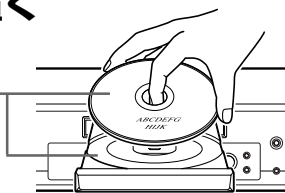
ディスクの基本的な再生

1 Open/Close（またはリモコンの▲）を押す

ディスクトレイが開きます。

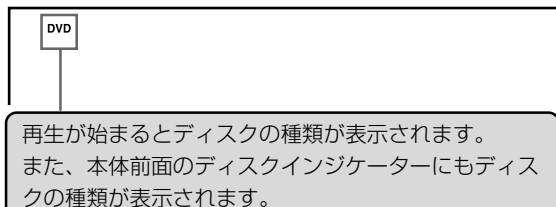
お知らせ

本機がスタンバイ状態のときに、Open/Close（または▲）を押したときは本機の電源が入り、ディスクトレイが開きます。このときは、ディスクトレイが開くのに数秒かかります。

2 ディスクをディスクトレイに置く

ディスクのラベル面を上にします。
ディスクには2種類のサイズがあります。トレイのそれぞれのガイド内に収まるように置いてください。

3 Play（またはリモコンの►）を押す

ディスクトレイが閉まり、再生が始まります。
ディスクによっては、手順**2**の後でOpen/Close（または▲）を押してディスクトレイを閉じると、自動的に再生が始まります。

再生が始まるとディスクの種類が表示されます。
また、本体前面のディスクインジケーターにもディスクの種類が表示されます。

DVD VCD **テレビにメニュー画面があらわれたときは**

「ディスクメニュー、タイトルメニューを操作する」（☞31ページ）を参照してください。

DVD VCD CD MP3 SACD **音声が再生されないときは**

- 上記「警告」を参照してください。
- 接続と初期設定を再度確認してください。（☞20〜23、46ページ）
- 「ディスクに複数の音声方式が記録されているときは」（☞31ページ）を参照してください。

ご注意

ディスクトレイに手を入れないでください。指をはさみ、けがの原因となることがあります。

スクリーンセーバー画面について

スクリーンセーバー機能をオンにすると、ディスク再生中、一定時間以上一時停止（ポーズ）状態にした場合、スクリーンセーバーがはたらきます。（☞52ページ）
PauseまたはPlay（リモコンのPauseまたは►）を押すと再生画面が表示され、再度PauseまたはPlay（リモコンのPauseまたは►）を押すと再生が始まります。

DVD よりよい映像を得るためには

DVDビデオを再生すると、通常はあらわれないノイズが時折画面にでることがあります。これはDVDビデオが高解像度で情報量が多いためです。ノイズ量はテレビにもよりますが、ノイズがでるときは、テレビのシャープネスをマイナス方向に調整してください。

MP3 MP3 の再生について

本機で再生できるMP3ディスクについては10ページ「MP3の再生について」の項をご覧ください。

■再生を一時停止する DVD VCD CD SACD MP3

再生中にPauseを押す
再生を再開するには、再度PauseまたはPlay（リモコンのPauseまたは►）を押してください。

お知らせ

一時停止中は、音声は出力されません。

■再生を停止する DVD VCD CD SACD

Stop（またはリモコンの■）を押す DVD VCD
DVDビデオおよびビデオCDでは、本体の表示窓に「RESUME」と表示され、停止した場所を記憶します（リジューム機能）。SACD、CD、MP3およびDVDオーディオでは、リジューム機能は働きません。

最初から再生を始めるには

再生停止後、もう一度Stop（またはリモコンの■）を押してからPlay（またはリモコンの►）を押してください。

停止した場所から再生するには

Play（またはリモコンの►）を押してください。

リジューム機能を解除するには

以下のいずれかの操作をします。
- 停止中にStop（またはリモコンの■）を押す
- ディスクを取り出す
- リジューム機能は以下のときに解除されます。ディスクの入れ替えをしても、停止した場所や再生中の設定を記憶させておきたいときはラストメモリー機能（☞41ページ）をお使いください。
  - ディスクトレイを開いたとき
  - 『視聴制限』の設定を変えたとき（☞58ページ）や、『画面表示言語』を変えたとき（☞55ページ）

■表示窓の明るさを変える DVD VCD CD SACD MP3

Dimmerを押す
Dimmerを押すたびに、本機の表示窓の明るさが4段階に切り換わります（ふつう→やや暗い→暗い→表示窓消灯→ふつう）。表示窓消灯時にボタン操作を行うと、しばらくの間「暗い」状態になります。

■見たいチャプター／トラックにスキップする DVD VCD CD SACD MP3

チャプター／トラックを頭出しします。押した回数だけスキップします。

見たいチャプター／トラックに進むには

再生中に►►|を押す

見たいチャプター／トラックに戻るには

再生中に|◄◄を押す

■ディスクを取り出す DVD VCD CD SACD MP3

Open/Close（または⏏）を押して、ディスクトレイを開く
ディスクが完全に開いたら、デイスクを取り除きます。その後、再度Open/Close（または⏏）を押してトレイを閉じてください。

お知らせ

- 停止中は、表示窓にディスクの種類（DVD、VCDなど）が表示されます。
- MP3ディスクは、停止中、再生中とも表示窓にMP3と表示されます。
- 再生中は本機を移動したり揺らしたりしないでください。ディスクを傷つけるおそれがあります。
- ディスクトレイを開け閉めするときはOpen/Close（またはリモコンの⏏）を押してください。また、ディスクトレイが動いているときは、トレイに触れないでください。故障につながります。
- ディスクトレイを上から押さないでください。また、本機で再生可能なディスク以外のものをのせないでください。故障につながります。
- 映画などの再生が終わると、多くの場合メニュー画面があらわれます。メニュー画面を長く表示させているとそれがテレビ画面に焼き付いて、画面を傷める場合があります。これを避けるため、再生が終わったら、Stop（またはリモコンの■）を押してください。
- DVDのなかにはディスクをセットするだけで再生するものもあります。このようなディスクの場合、電源を入れるだけでも再生しますので、本機をSTANDBY状態にするときはディスクを取り出しておくことをおすすめします。

ディスクを再生する

■早送り、早戻しをする DVD VCD CD SACD MP3

<u>早送りする</u>

再生中にリモコンの►►または本機の►►Iを押し続ける

スキャン中は画面に「►►1」が表示されます。DVDオーディオのときは、「►►2」が表示されます。MP3では「►►」と表示されます。

<u>早戻しする</u>

再生中にリモコンの◄◄または本機のI◄◄を押し続ける

スキャン中は画面に「◄◄1」が表示されます。DVDオーディオのときは、「◄◄2」が表示されます。MP3では「◄◄」と表示されます。

<u>通常の再生に戻すには</u>

見たい／聞きたい場所で指を離す

<u>早送りの早さを変えるには</u>

DVDビデオでは3段階（1→2→3）、DVDオーディオでは2段階（2→3）、SACD／ビデオCD／CDでは２段階（1→2）に切り換えることができます。MP3では1段階のみとなります。

再生中にリモコンの►►を押す

押すたびに早さが以下のように切り換わります。
（遅い）►►1→►►2→►►3（速い）

<u>早戻しの速さを変えるには</u>

DVDビデオでは3段階（1→2→3）、DVDオーディオでは2段階（2→3）、SACD／ビデオCD／CDでは2段階（1→2）に切り換えることができます。

再生中にリモコンの◄◄を押す

押すたびに速さが以下のように切り換わります。
（遅い）◄◄1→◄◄2→◄◄3（速い）

<u>通常の再生に戻すには</u>

►を押す

■画面をコマ送りで見る DVD-V VCD

一時停止中にStep/SlowI►を押す

押すたびにコマ送りします。

<u>逆方向にコマ送り再生するには</u>

一時停止中にStep/Slow◄Iを押す

押すたびに逆方向にコマ送りします。
ビデオCDでは逆方向のコマ送り再生はできません。

<u>通常の再生に戻すには</u>

►を押す

■静止画を再生する DVD-A

DVDオーディオには大きく分けて2種類の静止画が記録されていることがあります。

スライドショー

ディスクの設定にしたがって自動的に静止画が切り換わります。

ブラウザブルピクチャー

好きな静止画を選択して再生できます。

Step/Slow ◄I/I►を押して画像を選びます。

お知らせ

- Speed◄/►ボタンを押すと、スロー再生から早戻し（◄）または早送り（►）再生まで切り換えることができます。
- DVDでは、停止中にI◄◄または►►Iを押すと、それまで再生していたタイトルの始めから再生します。リジューム機能を解除しているとき►を押すとタイトル1の始めから再生します。
- 静止画、コマ送り、スロー再生中は音声が出力されません。
- 静止画の画像にブレがあるときは、初期設定画面の『ポーズモード』を『フィールド』に切り換えてください（☞54ページ）。
- ディスクによっては、逆方向のコマ送り再生中、画面が揺れることがあります。
- ディスクによっては、静止画再生、コマ送り再生、スロー再生のできないディスクもあります。その場合は、 マークまたは マークが画面に表示されます。

■画像をスローで見る DVD-V VCD

1 **再生中にStep/SlowI►を押す**
　一時停止（静止画）になります。

2 **Step/SlowI►を押し続ける**
　『1/16』と表示されます。指を離してもスロー再生を続けます。

<u>逆方向にスロー再生するには</u>

一時停止中（静止画像再生中）にStep/Slow◄Iを押し続ける

ビデオCDでは逆方向のスロー再生はできません。

<u>通常の再生に戻すには</u>

►を押す

<u>スロー再生の速さを変えるには</u>

スロー再生中にStep/SlowI►を押す

押すたびに速さが以下のように切り換わります。
1/16→1/8→1/4→1/2→1/16

<u>逆方向のスロー再生の速さを変えるには</u>

スロー再生中にStep/Slow◄Iを押す

押すたびに速さが以下のように切り換わります。
1/16→1/8→1/4→1/2→1/16
ビデオCDでは逆方向のスロー再生はできません。

DVD VCD

ディスクメニュー、タイトルメニューを操作する

ディスクメニュー※について DVD-V

DVDビデオには、複数の言語や複数の音声方式が含まれている場合があります。多くの場合、このようなDVDビデオは、メニューで言語（ディスクメニュー言語、音声言語、字幕言語など）や音声方式などを選ぶことができるようになっています。ディスクメニュー再表示するにはMENUを押してください。メニューが表示されないときはTOP MENUを押してください。ディスクによってメニューが含まれていない場合もあります。

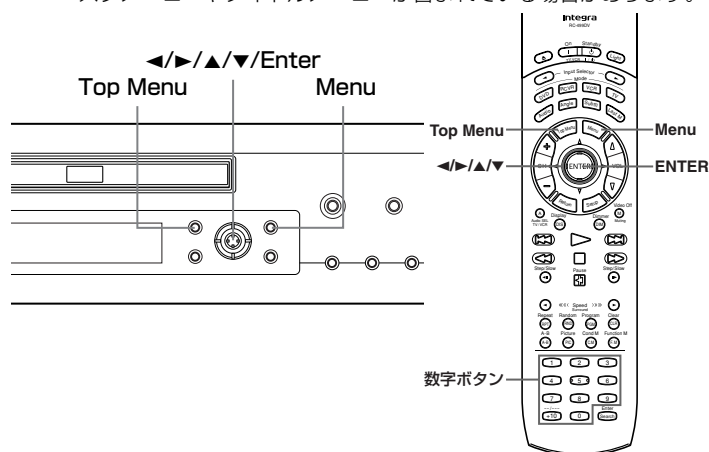
タイトルメニュー※について DVD VCD

多くの場合、DVDビデオや、PBC（Playback Control）機能付きのビデオCD（☞10ページ「ビデオCDについて」）は、メニューでタイトルやチャプター（☞11ページ「ディスクに関する用語について」）を選べます。タイトルメニューを表示するにはTOP MENUを押してください。メニューが表示されないときはMENUを押してください。ディスクによってメニューが含まれていない場合もあります。
メニュー画面を出さずに（PBC再生を解除して）再生するときは、停止中に⏮/⏭または数字ボタンを使って再生したいトラックを選びます。

DVDビデオの再生中にテレビ画面にメニューが表示されたときは、▲/▼/◀/▶で項目や設定を選び、ENTERを押して決定してください。
ビデオCDの再生中にテレビ画面にメニューが表示されたときは、数字ボタンで項目や設定を選んでください。

操作内容はディスクにより異なります。ディスクの指示に従ってください。

※ ディスクにより、ディスクメニューやタイトルメニューに違う名称がつけられている場合があります。また、メインのメニューにディスクメニューやタイトルメニューが含まれている場合があります。

DVD-V

ディスクに複数の音声方式が記録されているときは

本機をAVアンプに接続している場合、上記ディスクメニューで音声方式を選ぶときは、以下をご参考に選んでください。

デジタル端子接続をしたときは

□ **アンプにDTSデコーダーがあるときは**
→ 「DTS」または「dts」を選ぶ

□ **アンプにドルビーデジタルデコーダーがあるときは**
→ 「ドルビーデジタル」または「Dolby Digital」、「DD 6CH」、「DD 5.1CH」、「DOLBY DIGITAL」を選ぶ

□ **アンプにドルビープロロジックデコーダーがあるときは**
→ 「ドルビープロロジック」または「Dolby Pro Logic surround」、「DOLBY SURROUND」を選ぶ

□ **アンプが2チャンネルステレオタイプのときは**
→ 「ステレオ」または「Stereo」を選ぶ

アナログ端子接続をしたときは

□ **アンプにドルビープロロジックデコーダーがあるときは**
→ 「ドルビープロロジック」または「Dolby Pro Logic surround」、「DOLBY SURROUND」を選ぶ

□ **アンプが2チャンネルステレオタイプのときは**
→ 「ステレオ」または「Stereo」を選ぶ

□ **音声をテレビのスピーカーから再生するとき**
→ 「ステレオ」または「Stereo」を選ぶ

お知らせ

- トルビーデジタル、PCM、MPEG2信号はアナログ信号に変換され、ステレオ音声として出力されます。
- DTS音声はアナログ接続では再生することができません。

音声方式と音声効果について

DTS/ドルビーデジタル各サラウンド音声に最低限必要なスピーカー構成

センタースピーカー

左フロントスピーカー　　右フロントスピーカー

左サラウンドスピーカー　　右サラウンドスピーカー

DTS、ドルビーデジタル、MPEG2の、5.1チャンネルデジタルサラウンド方式は、5つ（左右フロント、センター、左右サラウンド）のフルレンジ（20Hz-20kHz）チャンネルと、低音域効果のためのLFE（Low Frequency Effect）チャンネルが独立して記録されており、それぞれのチャンネルを独立して再生することができます。これにより、劇場やコンサートホールの臨場感を再現することができます。

ドルビーデジタルサラウンド
DOLBY DIGITAL マークのあるDVDビデオがこの方式で記録されています。

DTSサラウンド
dts マークのあるDVDビデオや音楽CDがこの方式で記録されています。

ドルビープロロジックサラウンド
DOLBY SURROUND マークのついたVHSビデオ、VHS Hi-Fiビデオ、LD、DVDビデオがこの音声方式で記録されています。
このサラウンド方式は、4チャンネル（左右フロント、センター、左右サラウンド）で構成され、センターチャンネルを強調します。音楽や会話における音の移動や、フロント3チャンネルからの音の3次元空間を表現するのに効果的です。また、劇場の脇や後ろの壁から反響するサラウンド音声効果や雰囲気も強調します。

見たい／聞きたい場所を探す

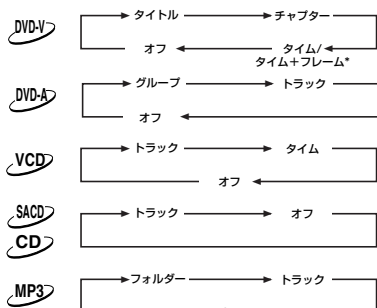
DVDビデオのタイトル／チャプター、DVDオーディオのグループ／トラック、ビデオCD／CDのトラック、MP3のフォルダー／トラック、さらに再生を開始する時間を指定（タイムサーチ）して、見たい/聞きたい場所を探すことができます。

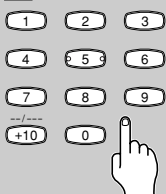
DVD VCD CD SACD MP3

サーチモードを使って見たい／聞きたい場所を探す

1 Enter Search

Searchを押す

サーチの種類を選びます。押すたびに以下のように切り換わります。

*フレームサーチをするときは初期設定画面で『映像1』のフレームサーチを「オン」にしてください

2

希望のタイトル、グループ、チャプター、フォルダー、トラック、または再生を開始したい時間を数字ボタンで選ぶ

タイトル／フォルダー、グループ、またはチャプター／トラック番号で探す

例
- 3を選ぶには、3を押します。
- 10を選ぶには、1と0を押します。
- 37を選ぶには、3と7を押します。

時間で探す（タイムサーチ）

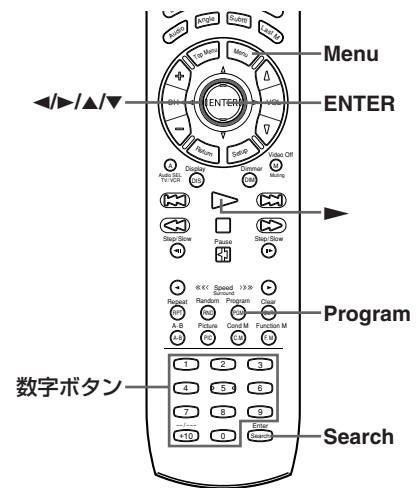
例
- 21分43秒を選ぶには、2、1、4、3と押します。
- 1時間14分（=74分00秒）を選ぶには、7、4、0、0と押します。

3

►ボタンを押す

指定した場所から再生します。『フレームサーチ』が「オン」のときは、指定した場所で静止画になります。

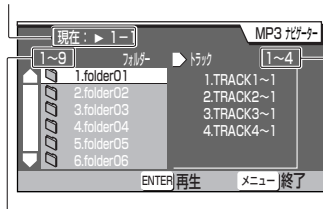
お知らせ

- ディスクによってはメニューを使ってサーチできるものもあります。メニュー画面を表示させて選択してください（☞31ページ）。
- ディスクによってサーチ機能を禁止しているものがあります。その場合は🚫マークが画面に表示されます。
- DVDまたはビデオCDでは指定時間より少しずれた位置から再生が始まることがあります。
- DVDでは、停止中にタイムサーチはできません。
- ビデオCDのPBC再生中、タイムサーチはできません。PBC再生を解除してください（☞31ページ）。
- DVDオーディオ、SACD、CD、およびMP3ではタイムサーチはできません。複数でセットになっているSACDではディスクの1曲目がトラック1でないことがあります。
- 映像は1秒間が30フレームで構成されています。フレームは0～29の番号で表示されます。
- 一時停止中、またはコマ送り中にフレーム番号を表示させることができます。初期設定画面で『映像1』の「フレームサーチ」を「オン」にして、画面表示ボタンを押します（☞52ページ）。
- ディスクによっては指定したフレームにサーチできないことがあります。

■MP3ナビゲーターを使って聞きたいトラックを探す

1 Menuを押す

MP3ナビゲーター画面が表示されます。

・ さらにプログラムに追加したいときはこの操作を繰り返します。

『例』 現在再生中のフォルダー番号ートラック番号　選択しているフォルダー内の総トラック数

総フォルダー数

2 ▲/▼で聞きたいフォルダーを選ぶ

▲/▼を押し続けると、前/次のフォルダーの選択画面に切り換わります。

さらにトラック（曲）を選んで再生するには

以下の手順で操作します。

① カーソル▶を押す。

選択項目がトラックの欄に移動します。

② カーソル▲/▼ボタンで聞きたいトラックを選ぶ。

カーソル（▲/▼）ボタンを押し続けると、前/次のトラックの選択画面に切り換わります。

③ 選んだトラックをプログラムして再生したいときはProgramを押す。

押した回数だけプログラムします。

「プログラムマーク（✓P）」が表示されます。プログラム再生するには「MP3をプログラム再生する」をご覧ください（☞37ページ）。

プログラムからトラックを削除するときはClearを押します。

3 ENTERを押す

選んだフォルダー／トラックを再生します。

本機に対応していないフォルダー／トラックを選んだときは「UNPLAYABLE MP3 FORMAT」と表示され、自動的にそのフォルダー／トラックを飛ばして再生を始めます。

■ダイレクトサーチ

数字ボタンを押すだけで見たい／聞きたい場所を探すことができます。

DVDビデオのタイトル、またはチャプターをダイレクトサーチするには

以下のいずれかの操作をします。

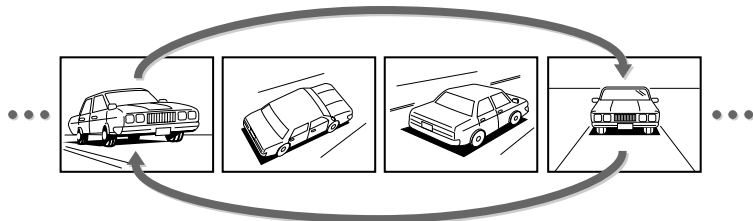
- **停止中に希望のタイトルを数字ボタンで選ぶ**
- **再生中に希望のチャプターを数字ボタンで選ぶ**

SACD／DVDオーディオ／CD／VIDEO CD／MP3のトラックをダイレクトサーチするには

希望のトラックを数字ボタンで選ぶ

繰り返し再生をする － リピート再生

Repeat
A-B
Clear

選んだタイトルやグループ、チャプター、トラックを繰り返し再生したり、
ある部分を選び、そこだけ繰り返し再生したりすることができます。

DVD VCD CD SACD MP3

選んだタイトル、グループ、チャプター、トラックをリピート再生する

再生中のチャプター／トラックを繰り返すには

Repeatを1回押す

DVD MP3

再生中のグループ／タイトル／フォルダーを繰り返すには

Repeatを2回押す

再生中のディスクを繰り返すには

VCD CD SACD

Repeatを2回押す

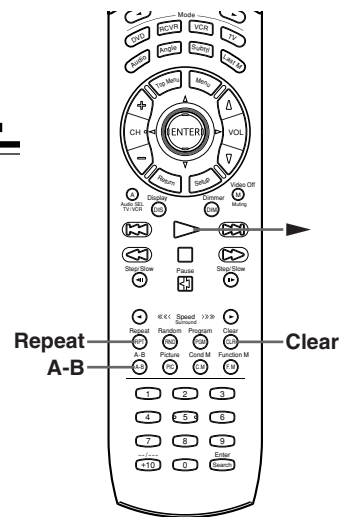
MP3

Repeatを3回押す

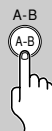
通常の再生に戻す

Clearを押す、またはRepeatを押してオフを選ぶ

お知らせ

- DVDではタイトルによってはリピート再生のできないものがあります。そのときは、マークが表示されます。
- ビデオCDのPBC再生中はリピート再生できません。PBC再生を解除してからRepeatを押します（☞31ページ）。
- プログラム再生中（☞35ページ）にRepeatを押すと、プログラムを繰り返し再生します。
- リピート再生中にアングルを切り換える（☞39ページ）とリピート再生は解除されます。

DVD VCD CD

選んだ部分だけを繰り返して再生する －A-Bリピート再生

A点とB点を選び、A点からB点までを繰り返し再生します。

指定した範囲を繰り返し再生するには

1. **再生中に繰り返したい場所の始めでA-Bを押す**
2. **繰り返したい範囲の終わりでA-Bを押す**

指定した範囲に戻って再生するには

1. **再生中に戻る先として指定したい箇所でA-Bを押す**
2. **戻りたいときに►を押す**

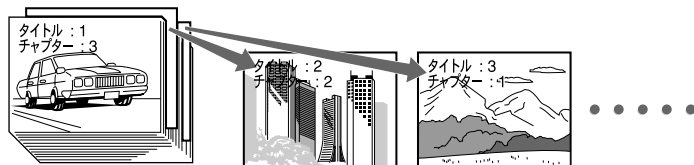
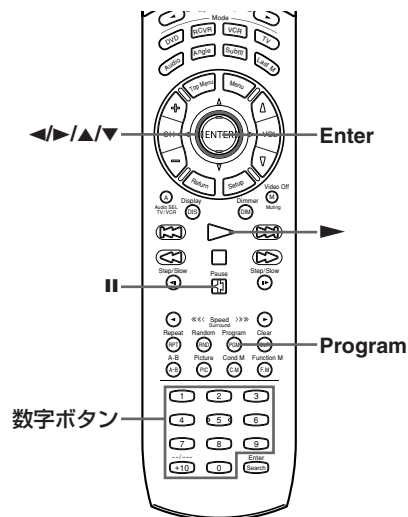
通常の再生に戻す

Clearを押す、またはA-Bを押してオフを選ぶ

お知らせ

- SACDでは、A-Bリピート再生はできません。
- DVDではタイトルによってはリピート再生のできないものがあります。そのときは、マークが表示されます。
- ビデオCDのPBC再生中はリピート再生できません。PBC再生を解除してからA-Bを押します（☞31ページ）。
- MP3ではA-Bリピート再生できません。
- リピート再生中にアングルを切り換える（☞39ページ）とリピート再生は解除されます。

お好みの順序で再生する– プログラム再生

DVDビデオのタイトル／チャプター、DVDオーディオのグループ／トラック、ビデオCD／SACD／CDのトラック、MP3のフォルダー／トラックを希望の順番に並べ換えて再生します。最大24ステップまでプログラムできます。

DVD VCD CD SACD

DVD／CD／VIDEO CD／SACDのタイトル／グループ／チャプター、またはトラックをプログラムする

1

Program

Programを押す

プログラム画面が表示されます。DVDのときは◄/►で『プログラムチャプター』、または『プログラムタイトル』を選びます。DVDオーディオのときは『プログラムグループ』または『プログラムトラック』を選びます。SACD、ビデオCD、またはCDのときは手順3に進みます。

例　DVDのプログラム画面　　プログラム入力画面

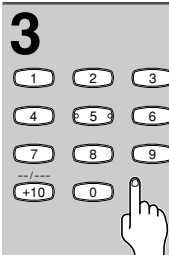
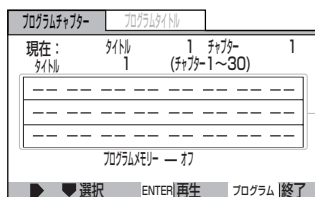
2

▼を押す

プログラム入力画面に移動します。『プログラムチャプター』または『プログラムグループ』の画面でタイトル番号を変えたいときは、以下の手順で操作します。

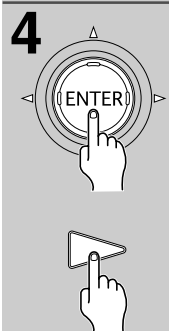
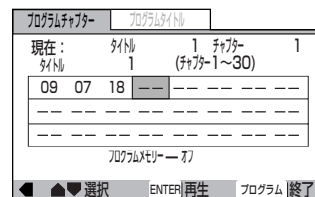
1　プログラム入力画面の最上段で▲を押す。

2　数字ボタンを押してタイトルを指定する。

3

プログラム再生したい順にタイトル／チャプター、グループ／トラック、またはトラックを数字ボタンで指定する

例

9、7、18の順にプログラムするには、9、7、+10、8と押します。

30の場合は、+10、+10、+10と押します。

4

ENTER、または►を押す

プログラムした順に再生が始まります。

プログラム再生しないでプログラム画面を終了するにはProgramを押します。

プログラム画面が自動的に消えたときはプログラムの内容が無効になります。有効にするにはENTER、または►を押してプログラム再生を始めるか、またはProgramを押してプログラム画面を終了してください。

お知らせ

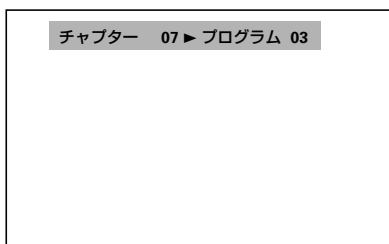
- DVDの中にはプログラム再生をすることができないものがあります。このようなディスクのときは画面にマークが表示されます。
- ビデオCDのPBC再生中にプログラム再生することはできません。PBC再生を解除してください（☞31ページ）。
- チャプターをプログラムするときは、同じタイトル内のチャプターのみプログラムすることができます。
- チャプターが変わるときに、プログラムしていないチャプターの画面が見えることがあります。これは故障ではありません。
- SACDではトラック100以降のプログラムはできません。

お好みの順序で再生するー プログラム再生

DVD／CD／VIDEO CD／SACDのタイトル／グループ／チャプター、またはトラックをプログラムする

■再生中のチャプター／トラックを確認しながらプログラムする

1 **プログラムしたいチャプター、またはトラックを再生中にProgramを1秒以上押す**
以下の画面が表示されるまで押し続けてください。
さらにプログラムに追加したいときはこの操作を繰り返します。

チャプター　07 ► プログラム　03

2 **Programを押す**
プログラム画面の内容を確認します。再生を始めるにはENTERを押します。
プログラム再生しないでプログラム画面を終了するにはProgramを押します。

お知らせ

- すでに『プログラムタイトル』または『プログラムグループ』が入力されているときは、チャプターやトラックではなくタイトルやグループがプログラムされます。
- チャプタープログラムされているタイトルと現在再生しているタイトルが異なるときは🚫が表示され、プログラムを入力することができません。
- すでにプログラムが入力されているときは、そのプログラムの後ろに追加されます。
- すべてのプログラム（24ステップ）が入力されているときは🚫が表示され、プログラムを追加することはできません。

■プログラムの内容を確認する

Programを押す
DVDでは、◄/►ボタンで『プログラムチャプター』／『プログラムタイトル』、または『プログラムトラック』／『プログラムグループ』を選びます。

■プログラムを挿入する

1 **プログラム入力画面で挿入したい場所を▲/▼/◄/►で指定する**
2 **数字ボタンでプログラムしたいタイトル、チャプター、グループ、トラックを選ぶ**

■一時停止をプログラムする

プログラム入力画面でⅡを押す
「Ⅱ」が表示されます。一時停止をプログラムすると、次にプログラムしたタイトル、チャプター、グループ、トラックの始めで一時停止します。

お知らせ

- プログラムの最初と最後に一時停止をプログラムすることはできません。
- 一時停止を連続して2回以上プログラムすることはできません。

■通常の再生に戻す

プログラム再生中にClearを押す

■プログラムを消去する

プログラムの内容を1つずつ消去するには

1 **プログラム入力画面で消去したい番号を▲/▼/◄/►で選ぶ。**
2 **Clearを押す。**
指定された番号が消去され、後ろの番号が1つ前に移動します。

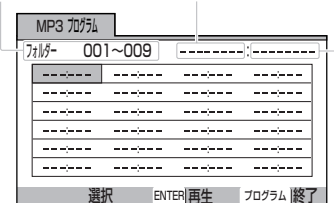
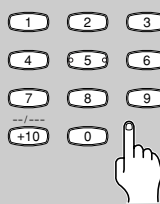
プログラムした内容をすべて消去するには

以下のいずれかの操作をします。

- **ディスクを取り出す。**
- **停止中にClearを押す。**

DVD-V

DVDビデオのプログラムを記憶する（プログラムメモリー）

本機はディスクを取り出しても、最大24枚までDVDビデオのプログラムを記憶することができます。プログラムを記憶すると、次に同じディスクを再生したとき、プログラム再生を開始します。記憶されたディスクが24枚を超えると、自動的に古いディスクの記憶から消去されます。

1

プログラム画面で『プログラムメモリー』の『オン』を▲/▼/◀/▶で選ぶ

2

ENTERを押す

プログラム画面が自動的に消えたときはプログラムの内容が無効になります。有効にするにはENTER、または►を押してプログラム再生を始めるか、またはProgramを押してプログラム画面を終了してください。

■ 記憶したプログラムを消去するには

以下の手順で操作します。

1 **『プログラムメモリー』の『オフ』を選ぶ。**

2 **ENTERを押す。**

プログラム入力画面に数字は残ったままです。

MP3

MP3をプログラム再生する

1

Program PGM

Programを押す

プログラム画面が表示されます。

すでにMP3ナビゲーターでトラックをプログラムしているときはフォルダー、およびトラック番号がプログラム画面に表示されます。

総フォルダー数　フォルダー名　トラック名

2

プログラム再生したい順にフォルダー／トラック番号を数字ボタンで指定する

フォルダー5、トラック8をプログラムするには

以下の手順で操作します。

1 数字ボタンの5を押す。

フォルダー5がプログラムされます。

2 数字ボタンの8を押す。

トラック8がプログラムされます。

さらにプログラムするには手順2の操作を繰り返します。

3

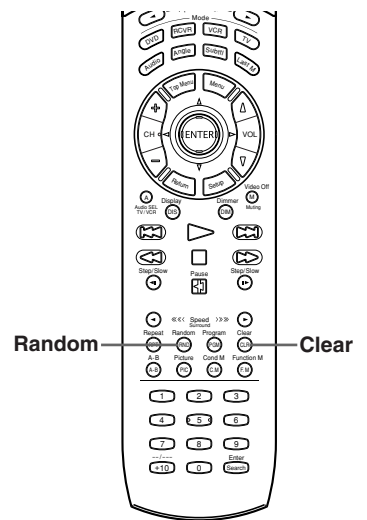
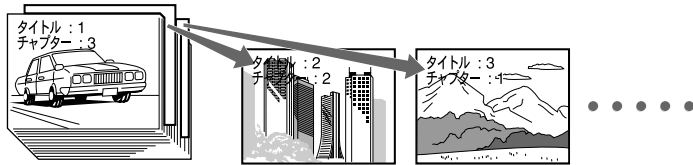
ENTERを押す

プログラムした順に再生を始めます。プログラム再生をしないでプログラム画面を終了するときはProgramを押します。

お知らせ

- MP3ナビゲーターでもトラックをプログラムすることができます（☞33ページ）。
- フォルダー名、またはトラック名が半角英数字以外でつけられているときは、「F_001」、「T_001」のように番号で表示されます。半角英数字以外を表示することはできません。

順不同で再生する– ランダム再生

タイトルや、グループ、チャプター、トラック、また、特定のタイトル内のチャプター、特定のグループ内のトラックをランダムに再生することができます。

DVD

DVDを順不同に再生する

再生中のタイトル内のチャプター(場面)や、再生中のグループ内のトラックを順不同に再生するには

Randomを押す

すべてのチャプターの再生が終了すると自動的に停止します。

再生中のタイトルやグループを順不同に再生するには

Randomを2回押す

すべてのタイトルの再生が終了すると自動的に停止します。

■通常の再生に戻す

Clearを押す

現在再生されているタイトルまたはチャプターから通常の再生に戻ります。

お知らせ

- ディスクによってはランダム再生できないものがあります。
- ランダム再生中に►►ıを押すと、順不同に次の曲または場面を選んで再生します。
- ランダム再生中にı◄◄を押すと、現在再生中のタイトルまたはチャプターを始めから再生し直します。
- チャプターをプログラム再生中（☞35ページ）にランダム再生することはできません。
- ランダム再生を繰り返すことはできません。
- SACDではランダム再生できません。

VCD　CD　MP3

CD／VIDEO CD／MP3を順不同に再生する

再生中にRandomを押す。

すべてのトラックの再生が終了すると自動的に停止します。

■通常の再生に戻す

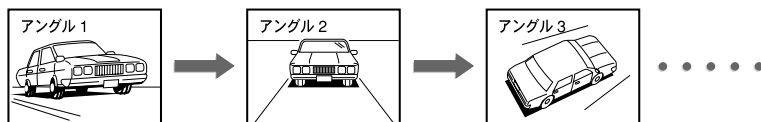
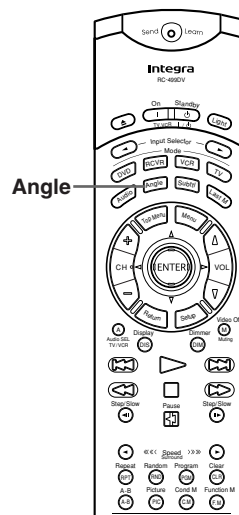
Clearを押す

現在再生されているトラックから通常の再生に戻ります。

お知らせ

- ランダム再生中に►►ıまたはRandomを押すと、順不同に次の曲または場面を選んで再生します。
- ランダム再生中にı◄◄を押すと、現在再生中のトラックを始めから再生し直します。
- ビデオCDのPBC再生中はランダム再生できません。PBC再生を解除してください（☞31ページ）。
- トラックをプログラム再生中（☞35ページ）にランダム再生することはできません。
- ランダム再生を繰り返すことはできません。
- SACDではランダム再生できません。

カメラアングルを切り換える

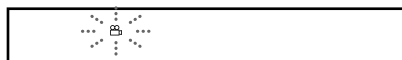
複数の方向（アングル）から映した映像を収録したDVDは、再生中にアングルを切り換えることができます。複数のアングルが収録されたDVDのジャケットにはマークが付いています。複数のアングルが収録されていないDVDでは、この機能ははたらきません。

DVD-V

映像のアングルを切り換える（マルチアングル）

1 再生中、マークが表示されたら、Angleを押す

2 さらにAngleを押して、お好みのアングルを選ぶ

押すたびに、アングルが切り換わります。

■テレビ画面にマークを表示させなくするには

マークを表示させたくないときは、初期設定画面の『アングルインジケーター』を『オフ』にします（☞54ページ）。この場合、本体の表示部のアングルインジケーターで確認します。複数のカメラアングルが記録されている画面では、本体表示部の『』が点滅します。

お知らせ

- ディスクによってはマークが表示されてもアングルを切り換えることができないものがあります。
- 複数のアングルが収録されている場所にくると、マークが画面に表示されます。
- 一時停止中にアングルを切り換えると、一時停止は解除されます。
- 一部のDVDでは、ディスクのメニュー画面でもアングルを切り換えることができます。

再生中に音声／字幕を切り換える

DVDの中には、再生中にリモコンのAudioまたはSubtitleで音声／字幕を切り換えることができないディスクがあります（画面に🚫が表示されます）。このようなときはディスクのメニュー画面で切り換えてください（☞31ページ）。

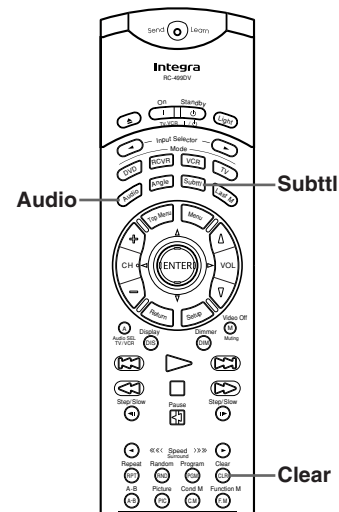
DVD-V

再生中に音声を切り換える

複数の言語で音声が記録されているDVDでは、再生する音声言語を変更することができます。ビデオCD、CD、またはMP3ではステレオ、1／L（左）、2／R（右）を切り換えることができます。

再生中にAudioを押す
現在選択している音声が表示されます。押すたびに音声が切り換わります。

お知らせ

- ここで切り換えた音声の設定は、以下のようなとき初期設定画面（☞46ページ）の設定に戻ります。
  - ●リジューム機能（☞29ページ）を解除したとき
  - ●ディスクを取り出したとき
- 再生中のディスクによっては音声を切り換えたときに一瞬静止画になることがあります。
- カラオケソフトなどで音声を伴奏だけにするには、ディスクのジャケットになど書かれている音声の種類に合わせて上記の操作をしてください。
- ディスクによっては、音声の切り換えはディスクメニューからしか行えません。この場合は、Menuを押して、ディスクメニューで切り換えてください。

DVD-V

再生中に字幕を切り換える

複数の言語で字幕が記録されているDVDでは、表示する字幕を変更することができます。

再生中にSubttlを押す
現在選択している字幕が表示されます。押すたびに字幕表示が切り換わります。

■ 字幕を消すには

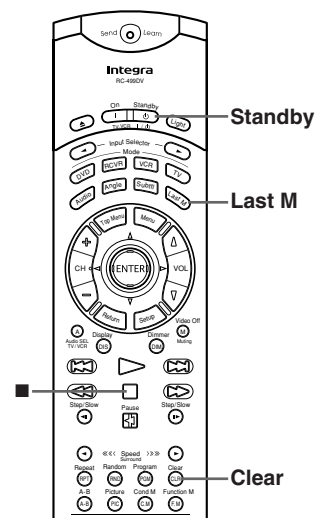
以下のいずれかの操作をします。

- **Subttlを押した後にClearを押す。**
- **Subttlを押してオフを選ぶ。**

お知らせ

- ここで切り換えた字幕の設定は、以下のようなとき初期設定画面（☞46ページ）の設定に戻ります。
  - ●リジューム機能（☞29ページ）を解除したとき
  - ●ディスクを取り出したとき
- ディスクによっては字幕の切り換えはディスクメニューからしか行えません。この場合は、Menuを押して、ディスクメニューで切り換えてください。

前に見たディスクのつづきを再生する– ラストメモリー

つづきから見る場所、およびそのときの設定内容をDVDは5枚まで記憶させておくことができます。リジューム機能（☞29ページ）と違い、ディスクを取り出しても記憶は消去されません。ビデオCDは1枚記憶させておくことができます。ビデオCDではディスクを取り出すと記憶が消去されます。

DVD-V VCD

つづきから見る場所を記憶する

1 **再生中にLast Mを押す**
画面に「ラストメモリー」と表示されます。
押すたびに記憶する場所が変わります。
ラストメモリーを記憶しているときに、表示窓にLASTインジケーターが点灯します。

2 **■を押す**

3 **Standbyを押して電源を切る**

お知らせ

- DVDにはラストメモリーできないものがあります。
- DVDでは、記憶された枚数が5枚を超えると古い記憶から消去されます。
- ビデオCDのPBC再生中は、ラストメモリー再生ができない場所があります。PBC再生を解除してください（☞31ページ）。

DVD-V VCD

つづきから見る

1 **つづきから見る場所を記憶させたディスクを入れる**
DVDにはディスクを入れると自動的に再生を始めるものがあります。このときは、■を押してください。

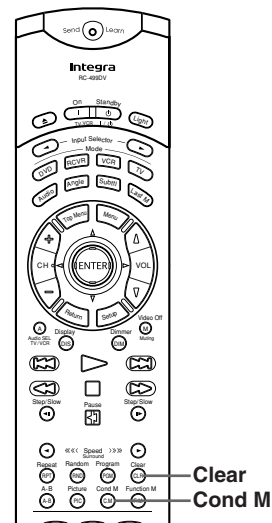
2 **Last Mを押す**

記憶している場所から再生を始めます。
ラストメモリーを記憶させたディスクでも►を押すとディスクの始めから再生されます。

■ラストメモリーを消去するには

1 **つづきから見る場所を記憶させたディスクを入れる**
DVDには、ディスクを入れると自動的に再生を始めるものがあります。このときは、■を押してください。
2 **Last Mを押す**
記憶している場所から再生を始めます。
3 **Last Mを押す**
画面に「ラストメモリー」と表示されます。
4 **画面に「ラストメモリー」と表示されている間にClearを押す**
表示窓のLASTインジケーターが消灯します。

よく見るDVDの設定を記憶させる – コンディションメモリー

よく見るDVDの設定内容を最大15枚まで記憶させることができます。電源を切ったり、ディスクを取り出しても記憶は消去されません。

DVD-V

DVDの設定内容を記憶する

ディスクが入っている状態でCond Mを押す

画面に「コンディションメモリー」と表示されます。記憶できる設定は以下の6つです。

●音声言語（☞40ページ）
●画質調整（☞53ページ）
●字幕言語（☞40ページ）
●画面表示（☞54ページ）
●マルチアングル（☞39ページ）
●視聴制限（☞58ページ）

記憶してあるディスクを入れると画面に「コンディションメモリー」と表示され、自動的に記憶された設定になります。コンディションメモリーを記憶しているときは、表示窓にCONDインジケーターが点灯します。

■ コンディションメモリーを消去するには

1 Cond Mを押す。
画面に「コンディションメモリー」と表示されます。

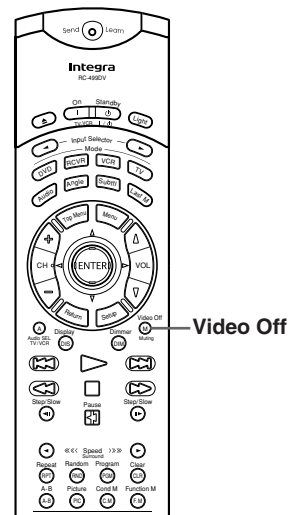
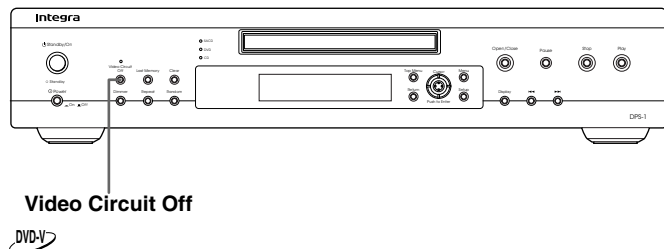
2 画面に「コンディションメモリー」と表示されている間にClearボタンを押す。
表示窓のCONDインジケーターが消灯します。

お知らせ

- DVDにはコンディションメモリーできないものがあります。
- 一度記憶された設定は、何度再生しても保持されます。
- 記憶された枚数が15枚を超えると古い記憶から消去されます。
- ディスクによってはコンディションメモリーで記憶された設定が自動的に切り換わるものがあります。
- コンディションメモリーの中の項目の設定を変更したいときは、再生中にCond Mを押して変更してください。

本機を音声の再生専用に使う

映像信号の処理を一時的に切っておくことで、より良い音質での再生ができます。（このときには、映像出力端子すべてから映像信号が出力されません。）

DVD-V

音声信号のみ再生する

本機のVideo Circuit Off（またはリモコンのVideo Off）を押す

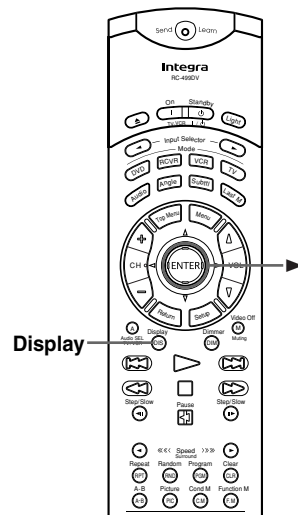
Video Circuit Offインジケーターが点灯し、本機は音声再生専用となります。

映像と音声を両方再生するには、もう一度Video Circuit Offを押します。

お知らせ

- ディスクによっては、画面上の操作が必要な場合があります。そのときは、Video Circuit Offを押してVideo Circuit Offインジケーターを消灯させて、映像が再生できるようにしてから画面上で操作してください。
- 本体の主電源を切ると、この機能の設定は解除されます。

ディスクの情報を見る

DVDビデオのタイトル／チャプター情報、DVDオーディオのグループ／トラック情報、SACD／ビデオCD／CDのトラック情報、またはMP3のフォルダー／トラック情報を見ることができます。停止中にはトータル情報が表示され、再生中にはより細かなディスク情報が見られます。表示される情報の内容はディスクの種類（DVD、SACD、ビデオCD、 CD、およびMP3）によって異なります。

DVD VCD CD SACD MP3

再生中にディスクの情報を見る

再生中にDisplayを繰り返し押す

押すたびに以下のようなディスク情報が画面上部に表示されます。Displayを押し続けている間、ディスクの残り時間を表示します。

■DVDビデオの情報を見る

タイトルによってはチャプターや時間が表示されないものがあります。

現在のタイトル番号－チャプター番号　現在のタイトル経過時間

タイトルの残り時間　タイトルの総時間

現在のタイトル番号－チャプター番号　現在のタイトル経過時間

チャプターの経過時間　チャプターの総時間

現在のタイトル番号－チャプター番号　現在のタイトル経過時間

チャプターの残り時間　チャプターの総時間

現在のタイトル番号－チャプター番号　現在のタイトル経過時間

転送レート*1のレベルメーター　転送レートのレベル

表示が消えます。

*1 転送レートとは、DVDに記録されている画像の情報量を示す値です。転送レートのレベルが高いほど情報量は多くなりますが、画質が良いとはかぎりません。

*2 24コマフィルムのプログレッシブ映像信号が記録されているときに表示されます。

ご注意

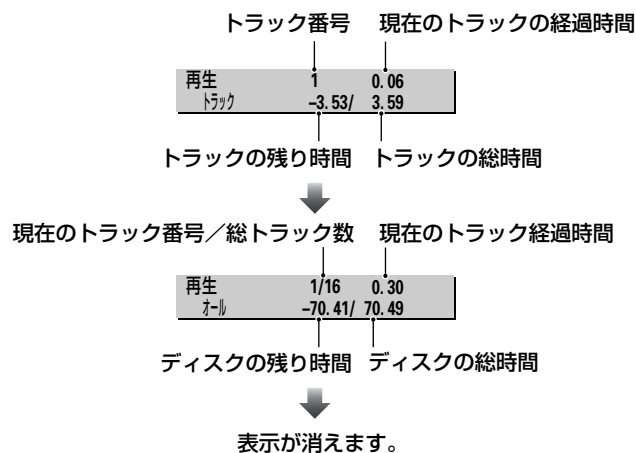
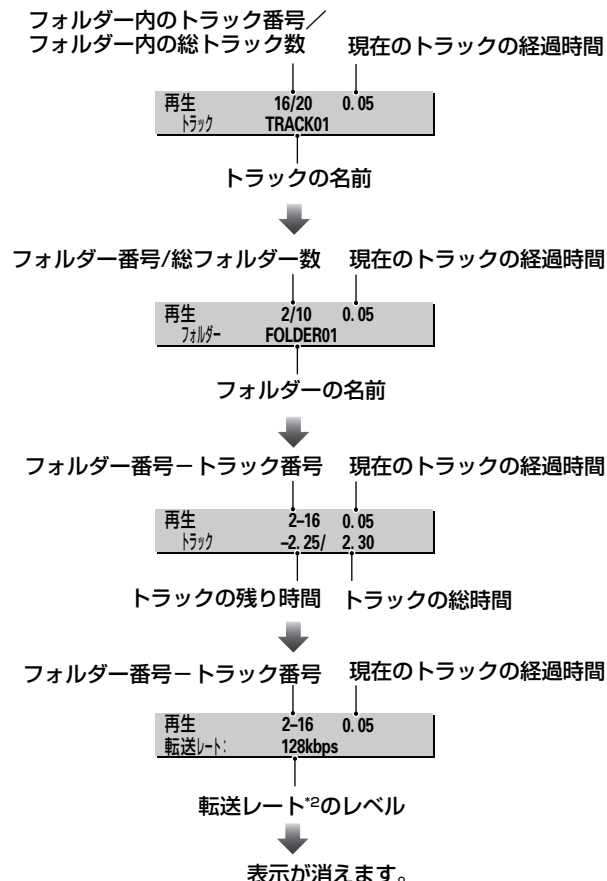
ディスクによっては経過時間や残り時間を表示できないものがあります。

■DVDオーディオの情報を見る

■ビデオCDの情報を見る

ビデオCDのPBC再生中は、表示されないディスク情報があります。

■SACD／CDの情報を見る

ファイナライズしていないCD-Rを再生中は、表示されないディスク情報があります。

■MP3の情報を見る

*2 転送レートとは、MP3情報量を示す値です。

DVD VCD CD SACD MP3

停止中にディスクの情報を見る

停止中にDisplayを繰り返し押す

ディスク情報の画面が表示されます。
ディスクの情報が2ページ以上ある時は、►を押すと次の画面が表示されます。

DVD-V

インフォメーション: DVD

タイトル	チャプター	タイトル	チャプター
01	1~30	06	1~10
02	1~21	07	1~13
03	1~46	08	1~ 5
04	1~12	09	1~ 4
05	1~ 8	10	1~ 3

1/2 ► 画面表示 終了

画面表示はDisplayに対応しています。

情報が2ページあり、現在の画面がその1ページ目であることを表します。

タイトル番号とそれぞれのタイトル内のチャプター数が表示されます。

DVD-A

インフォメーション: DVD

グループ	トラック	グループ	トラック
01	1~1	06	1~1
02	1~1	07	1~1
03	1~1	08	1~1
04	1~1	09	1~4
05	1~1		

1/1 画面表示 終了

グループ番号とそれぞれのグループ内のトラック数が表示されます。
ボーナスグループはキーナンバーを入力する前は灰色で表示されます、入力方法についてはP.60をご覧ください。

VCD
SACD

インフォメーション: コンパクトディスク

トータルタイム 70.49

トラック	タイム	トラック	タイム
01	3.59	06	4.20
02	5.04	07	5.05
03	4.53	08	4.02
04	4.11	09	4.07
05	3.56	10	3.45

1/2 ► 画面表示 終了

トラック番号とそれぞれのトラックの総時間が表示されます。

MP3

インフォメーション: MP3

フォルダー	トラック	フォルダー	トラック
01	1~30	06	1~10
02	1~21	07	1~13
03	1~46	08	1~ 5
04	1~12	09	1~ 4
05	1~ 8	10	1~ 3

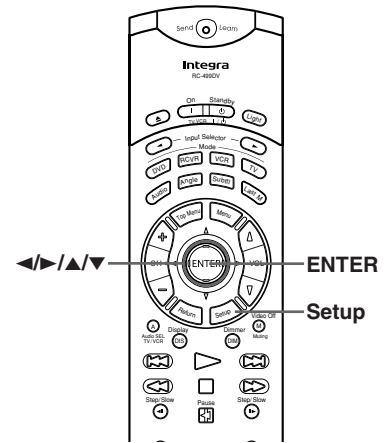
1/2 ► 画面表示 終了

フォルダー番号とそれぞれのフォルダー内のトラック数が表示されます。

■ディスク情報を消すには

Displayをもう一度押す

いろいろな設定

セットアップナビゲーター（☞25ページ）よりも多くの設定をすることができます。工場出荷時の設定を変更したいとき、またはお好みの設定にしたいときに行います。ここでは初期設定画面の基本的な操作方法や使用するボタンの位置について説明します。セットアップナビゲーターを使った設定を行っていないときはセットアップナビゲーターの画面が表示されます。セットアップナビゲーターの画面が表示されたときは25ページをご覧ください。

初期設定画面の操作のしかた

1

Setupを押す

初期設定画面が表示されます。

例

ENTERは決定、Setupは初期設定と表示されます。

2

◄/►でタグ（『音声1』、『音声2』、『映像1』、『映像2』、『言語』、『一般』）を選ぶ

3

▲/▼で設定したい項目を選ぶ

4

►で選択肢の欄にカーソルを移動させる

5

▲/▼で設定したい選択肢にカーソルを合わせる

6

ENTERを押す

他の項目の設定を変更するときは、手順2～7を繰り返します。

7

Setupを押す

お知らせ

- Setup（初期設定）の途中で電源を切ると設定途中のものは記憶されません。Setupを押して初期設定を終了してから電源を切ってください。
- 初期設定を操作すると、リジューム機能（☞29ページ）が解除される場合があります。
- 初期設定を終了してから再び初期設定画面を表示させると、前回設定していた初期設定画面を表示します。

■ディスクの種類によって変更することができる／できない設定

ディスクの種類（DVD／ビデオCD／CD／MP3）によって、変更できる設定が異なります。本機では選択項目の左にあるインジケーターの色で確認することができます。以下の表をご覧ください。

インジケーターの色	ディスクの種類
青色	DVDのみ
オレンジ	SACD／DVDオーディオ／CD
黄色	DVD／ビデオCD
緑色	ディスクの種類にかかわりません

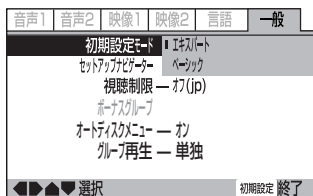
■DVDにのみ設定できる項目

DVD以外のディスク（SACD／ビデオCD／CD／MP3）が入っているとき、DVDにのみ設定できる項目を選ぶと、画面の右上に青いDVDマークが表示されます。

■再生中に変更できない項目

再生中に設定を変更できない項目は、灰色で表示されます。

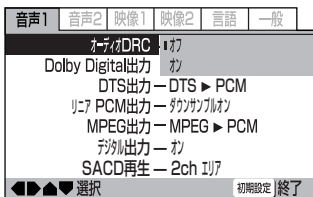
基本的な設定のみ表示する

初期設定画面には『ベーシック』と『エキスパート』の2種類があります。『初期設定モード』を『ベーシック』に設定すると、基本的な設定のみ表示します。この取扱説明書では、エキスパートで設定する項目にエキスパートがついています。初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

エキスパート：
より細やかな設定を表示します（出荷時の設定）。

ベーシック：
基本的な設定を表示します。選択している項目の簡単な説明（ⓘ）が表示されます。

『音声1』の調節をする

■ ドルビーデジタル音声のダイナミックレンジを調節する

音声の強弱の幅（ダイナミックレンジ）を調節します。オーディオDRC（ダイナミックレンジコンプレッション）を切り換えることで、大きい音を小さく、小さい音を大きくして再生する効果があります。例えば、テレビの会話などが聞きづらいときや深夜に映画を見るようなときに変更します。

オフ：
オーディオDRCを解除します。高音質のスピーカーで臨場感が得られます（出荷時の設定）。

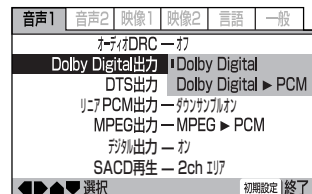
オン：
爆発音などの大音量を抑え、台詞などが聞きやすくなります。

お知らせ

- オーディオDRCはドルビーデジタル音声にのみ働きます。
- ディスクによっては効果の少ないものがあります。
- オーディオDRCはDIGITAL OUTPUT OPTICALまたはCOAXIAL端子から出力される音声にも効果があります。ただし、『ドルビーデジタル出力』を『Dolby Digital►PCM』に設定し（☞次項）、さらに『デジタル出力』を『オン』に設定（☞48ページ）してください。
- オーディオDRCの効果は、お使いのスピーカーまたはAVアンプの音量設定などによっても変わります。実際に設定を切り換えながら、一番効果的な設定をお選びください。

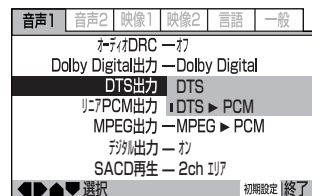
本機に接続したアンプが対応しているデジタル信号の種類を選択することができます。適切な設定をしないと、ノイズが発生することがありますので注意してください。お手持ちのアンプの取扱説明書もあわせてお読みください。初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

■ ドルビーデジタル出力

接続したアンプがドルビーデジタルに対応していない場合は、設定を『Dolby Digital►PCM』にします。

Dolby Digital：
ドルビーデジタル対応アンプまたはデコーダーと接続したときに選びます（出荷時の設定）。

Dolby Digital►PCM：
Dolby Digital信号をリニアPCM信号に変換して出力します。ドルビーデジタルに対応していないアンプと接続したときに選びます。

■DTS出力

接続したアンプがDTS対応のときは、設定を『DTS』にします。

DTS：
DTS対応アンプ、またはデコーダーと接続したときに選びます。

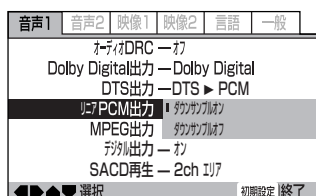
DTS►PCM：
DTS信号をリニアPCM信号に変換して出力します。
DTSに対応していないアンプと接続したときに選びます（出荷時の設定）。

いろいろな設定

『音声1』の調節をする

エキスパートはより専門的な設定です。項目が表示されていない場合は47ページを参照して表示させてください。

■リニアPCM出力

接続したアンプが96kHz対応のときは、設定を『ダウンサンプルオフ』にします。

ダウンサンプルオン：

96kHzの信号を48kHz／44.1kHzに変換して出力します。96kHzに対応していないアンプと接続したときに選びます（出荷時の設定）。

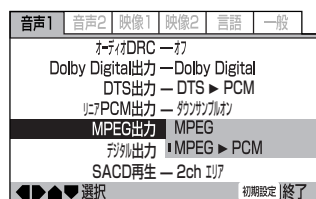
ダウンサンプルオフ：

96kHz対応アンプまたはデコーダーと接続したときに選びます。

お知らせ

- 『ダウンサンプルオフ』に設定していても、ディスクによっては、48kHz/44.1kHzに強制的に変換されたり、デジタル出力されないことがあります。
- DVDオーディオの192/176.4kHzサンプリング音声のとき、『ダウンサンプルオフ』に設定していてもデジタル出力は強制的に96/88.2kHzにダウンサンプルされます。

■MPEG出力

接続したアンプがMPEG対応のときは、設定を『MPEG』にします。

MPEG：

MPEG対応アンプまたはデコーダーと接続したときに選びます。

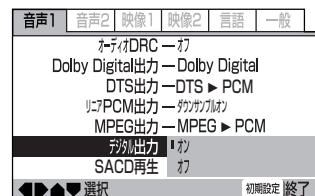
MPEG▶PCM：

MPEG信号をリニアPCM信号に変換して出力します。MPEGに対応していないアンプと接続したときに選びます（出荷時の設定）。

お知らせ

DVDオーディオではダウンミックスを禁止しているものがあります。この場合デジタル音声は出力されません。

■デジタル出力をオン/オフする エキスパート

デジタル音声出力端子から音声信号を出力しないように設定することができます。

オン：

後面のデジタル出力端子から音声を出力します（出荷時の設定）。

オフ：

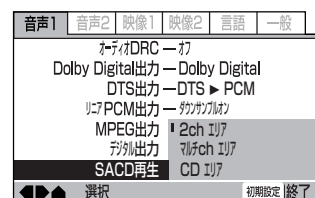
後面のデジタル出力端子から音声が出力されません。

お知らせ

SACDではデジタル音声を出力することができません。

■SACDの再生層を切り換える エキスパート

SACDは、2チャンネルと5.1チャンネルのエリアが別々になっています。

ハイブリッドSACDはSACD層とCD層の2層構造になっています。ここでは、SACDの再生するエリアを切り換えます。

2chエリア：

2チャンネルエリアを再生します（出荷時の設定）。

マルチchエリア：

マルチチャンネルエリアを再生します。

マルチチャンネルで楽しむには、音声出力を「5.1チャンネル」に設定してください（☞49ページ）。

CDエリア：

CD層を再生します。

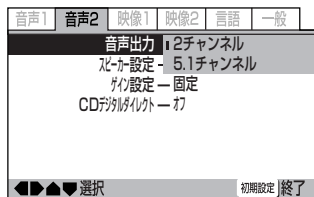
お知らせ

再生するSACDに『SACD再生』で選択したエリアがないときは他のエリアを再生します。例えば、『CDエリア』を選択しているとき、CD層がないSACDを再生したときは2チャンネルエリアを再生します。

『音声2』の調節をする

初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

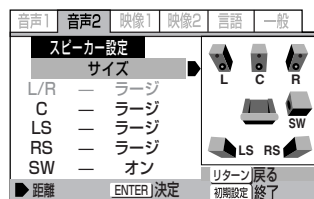
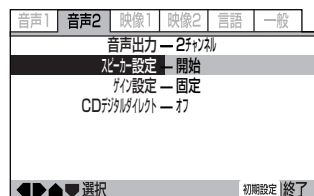
■音声出力

本機の5.1チャンネルアナログ出力端子（フロント、サラウンド、センター、サブウーファー）を使ってアンプに接続したときは、設定を『5.1チャンネル』にします。ステレオ出力のみのアンプに接続したときは、設定を『2チャンネル』にします。

2チャンネル：
2チャンネルのアンプに接続したときに選びます（出荷時の設定）。
5.1チャンネル：
5.1チャンネルのアンプに接続したときに選びます。

お知らせ

- 『音声出力』を『5.1チャンネル』に設定しても、すべてのスピーカーから音が出るのはマルチチャンネルのDVDオーディオ、SACD、あるいは、ドルビーデジタル、DTS、またはMPEGで記録されたDVDの再生時のみです。
- 『2チャンネル』に設定したときは、ドルビーデジタル、DTS、またはMPEGで記録された音声信号は2チャンネルにダウンミックスされます。
- DVDオーディオディスクによっては、ダウンミックスが禁止されています。そのようなディスクを再生するときは、『音声出力』の設定にかかわらず、つねにマルチチャンネルで出力されます。また、ダウンミックスを禁止しているディスクではデジタル音声は出力されません。

■スピーカー設定

本機の5.1チャンネルアナログ出力端子を使ってアンプに接続したときのみ設定します。初期設定画面に表示されている項目にしたがって使用しているスピーカーの位置や大きさを設定します。
『サイズ』画面でスピーカーの大きさを設定します。左／右フロントスピーカー（L／R）は『ラージ』に固定されています。センタースピーカー（C）、左サラウンドスピーカー（LS）、右サラウンドスピーカー（RS）は、『ラージ』、『スモール』、『オフ』に設定できます。スピーカーのコーン部が12cm以上のときは『ラージ』、12cm未満のときは『スモール』に設定します。ただし、LSとRSは別々の設定にすることができません。
サブウーファーは『オン』、『オフ』に設定できます。
画面の右側の絵は、選んだスピーカー設定を表しています。
現在選ばれているスピーカーの名前が青色で表示され、『オン』に設定されたスピーカーが黄色で表示されます。
次に『距離』画面で、リスニングポジションからそれぞれのスピーカーへの距離を設定します。『サイズ』画面で『オフ』に設定されたスピーカーの名前は灰色で表示されます。それ以外のスピーカーについては、0.1m（10cm）単位でスピーカーの距離を入力します。L／Rは、0.3m〜9mの範囲で設定できます。CとSWはL／Rの設定よりも2m以内でのみ設定できます。LSとRSはL／Rの設定よりも−6m〜+2mの範囲内でのみ設定できます。
画面の右側の絵は、選んだスピーカー設定を表しています。
現在選ばれているスピーカーの名前が青色で表示され、『オン』に設定されたスピーカーが黄色で表示されます。

出荷時の設定

センター：	ラージ
サブウーファー：	オン
サラウンド：	ラージ
距離：	3m

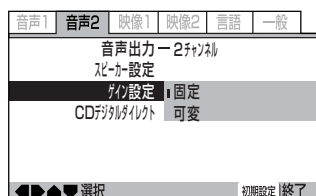
お知らせ

- サブウーファーが、設定可能範囲（L／R±2m）外に設置されているときは、一番近い数字に設定してください。サラウンド効果にはそれほど影響がありません。
- SACDでは距離の設定は無効です。
- 『SW（サブウーファー）』を『オン』にすると、LFE（超低音の効果音）はサブウーファーから出力します。
- DVDオーディオの場合は、スピーカーの設定に関係なく、常に『ラージ』で再生されます。
- DVDオーディオの場合は、『C（センター）』、『LS（左サラウンド）』、および『RS（右サラウンド）』のいずれかを『オフ』に設定すると、強制的に2CHにダウンミックスされた音声が出力されます（ただしダウンミックスを禁止しているDVDオーディオを除く）。

『音声2』の調節をする

エキスパートはより専門的な設定です。項目が表示されていない場合は47ページを参照して表示させてください。

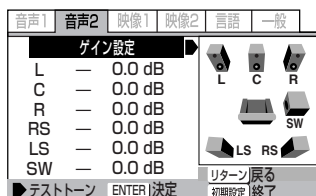
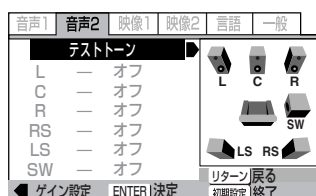
■ゲイン設定 エキスパート

本機の5.1チャンネルアナログ出力端子を使ってアンプに接続したとき、お好みに応じて設定します。出荷時の設定では、すべてのチャンネルからは録音されたとおりの音量で出力されます。それぞれのスピーカーから出力される音量を変えたいときは『可変』に設定します。−6dB〜+6dBの範囲内で0.5dBごとに設定できます。
『可変』に設定したときは、『固定』に設定したときよりも全体のスピーカーからの音量が小さく感じられるかもしれませんが、これは故障ではありません。

固定：
すべてのスピーカーからは、録音されたとおりの音量で出力されます（出荷時の設定）。

可変：
それぞれのスピーカーからの音量を変えるときに選びます。

お知らせ

- 『CDデジタルダイレクト』が『オン』に設定されているときは、ゲイン設定の効果は得られません。
- 『可変』を選んだとき、すべてのスピーカーの出力レベルは一律−6.0dBに設定されます。その数値から『C（センター）』、『LS（左サラウンド）』、『RS（右サラウンド）』および『SW（サブウーファー）』の各出力レベルを−6.0dB〜6.0dBの範囲で調整します。したがって、『可変』で設定できる最大出力レベル（6.0dB）とは、『固定』と同じ出力レベルになります。
そのため、『可変』を選んだときはほとんどの場合、『固定』の出力レベルより小さくなります。

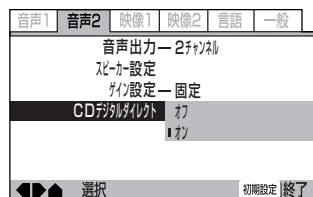
「可変」を選ぶと次の画面が表示されます。

右カーソル►ボタンを押すと、テストトーン画面が表示されます。

ゲインレベルを正しく設定するために、『テストトーン』を『オン』（選んだスピーカーからのみテストトーンを出す）または『オート』（サブウーファー以外のスピーカーから順番にテストトーンを出す）に設定し、リスニングポジションからそれぞれのスピーカーの音量が同じに聞こえるようにゲインレベルを設定します。
▲カーソルボタンで、テストトーンを選び◄カーソルボタンを押して、ゲイン設定を選びます。
設定画面にしたがってスピーカーを選び、音量を調節します。

- 本機が停止中のみ『テストトーン』を設定できます。
- ほとんどのAVアンプでは、アンプ側でゲインレベルを調節できます。この場合、本機またはアンプのどちらかでゲインレベルを調節してください。両方では調節しないでください。
- テストトーンが出ている間、テストトーンが出ているスピーカーの名前が画面上では黄色で表示されます。

お知らせ

『音声出力』（☞49ページ）が『2チャンネル』に設定されているときは、テストトーンは働きません。また、ディスクトレイが開いているとき、ディスクを再生中のときはテストトーンは出力されません。

■CDデジタルダイレクト エキスパート

『オン』に設定すると、『オフ』に設定したときに通る特定のオーディオ回路を通さない、高品質のCD音声をお楽しみいただけます。ただし、DTS記録されたCDを正しく再生するときは『オフ』に設定してください。

オン：
特定のオーディオ回路を通さないときに選びます。

オフ：
オーディオ回路の設定を変えないときに選びます（出荷時の設定）。

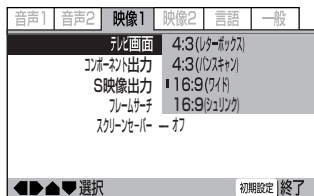
お知らせ

DTS記録されたCDを再生するときに『オン』に設定すると、ノイズが発生します。

『映像1』の設定をする

初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

■テレビにあわせて映像の縦横比を選ぶ

本機に接続したテレビにあわせて設定します。ワイドテレビに接続しているときは『16:9（ワイド）』に設定します。DVDの映画の多くは、ワイドテレビに対応しており、画面の比率（一般にアスペクト比と呼ばれています）が横16：縦9で記録されています。従って、DVDを従来サイズのテレビで見ると、映像が横4：縦3となり縦長になってしまいます。このような見えかたをなくすために、従来サイズのテレビをお使いのときは、『4:3（レターボックス）』、または『4:3（パンスキャン）』に設定してください。この設定を再生中に変更することはできません。
テレビの側の設定によっては、ここで設定した画面にならないことがあります。お手持ちのテレビの取扱説明書もご覧ください。

4:3（レターボックス）：
従来サイズのテレビと接続し、レターボックス方式で見たいときに選択します。

4:3（パンスキャン）：
従来サイズのテレビと接続し、パンスキャン方式で見たいときに選択します。

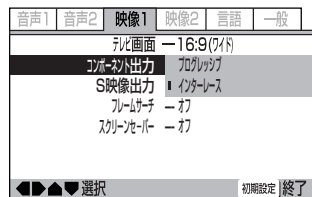
16:9（ワイド）：
ワイド（16:9）テレビと接続したとき選択します（出荷時の設定）。

16:9（シュリンク）：
接続しているプログレッシブ対応テレビでアスペクトの切り換えができないとき選択します（4:3の映像が横長（16:9の映像）になってしまっているが、テレビ側で4:3の映像に切り換えることができないとき）。

お知らせ

アスペクトの切り換えができるか、できないかはディスクによって異なります。詳しくはディスクのジャケットなどで確認してください。

■コンポーネント出力を設定する

本機のコンポーネント映像出力端子、またはD2/D1出力端子でプログレッシブ入力対応のテレビと接続しているとき、インターレーススキャンとプログレッシブスキャンのどちらの方式で出力するかを切り換えます。

プログレッシブ：
きめ細かな映像が得られる高画質モードで、プログレッシブ入力対応のテレビまたはプロジェクターのときに設定します。

インターレース：
プログレッシブ入力対応でないテレビまたはプロジェクターのときに設定します(出荷時の設定）。

お知らせ

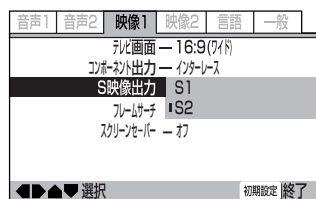
プログレッシブ入力対応でないテレビと接続しているときは、『プログレッシブ』を選択しないでください。映像が出力されません。選択してしまったときは映像出力、またはS1/S2映像出力端子に一度、映像ケーブルを接続してください。

本機とプログレッシブ対応テレビの互換性について
現在一部のプログレッシブ対応テレビは当プレーヤーと完全な互換が取れていない為、画像に乱れが生じる場合があります。プログレッシブ再生時に不具合が生じた場合は当プレーヤーの出力をインターレースに切り換えてください。

『映像1』の設定をする

エキスパートはより専門的な設定です。項目が表示されていない場合は47ページを参照して表示させてください。

■S映像出力を切り換える エキスパート

S映像出力端子から出力される映像信号を切り換えることができます。本機とテレビをS映像端子でつないでいるとき、映像を横方向に引き伸ばしてしまうことがあります。このようなときは『S1』を選択してください。

S2：

S2映像信号が出力されます(出荷時の設定)。

S1：

S1映像信号が出力されます。

■スクリーンセーバーを設定する エキスパート

スクリーンセーバーは、一時停止中など同じ画像が長時間表示されるときの画像の焼き付き(残像現象）を防ぐための機能です。約5分同じ画像が表示されるとスクリーンセーバー機能が働きます。

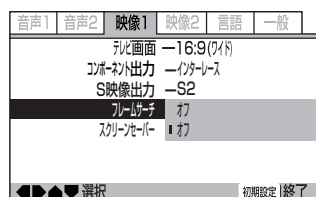
オン：

スクリーンセーバー機能が働きます。

オフ：

スクリーンセーバー機能が働きません(出荷時の設定)。

■フレームサーチのオン/オフを切り換える エキスパート

フレームサーチ（☞32ページ）をするときに[オン]に切り換えます。

オン：

フレームサーチをします。テレビの画面にフレーム番号が表示されます。本体表示窓にフレーム番号は表示されません。

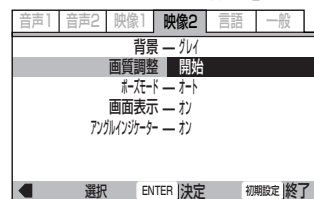
オフ：

フレームサーチをしません(出荷時の設定)。

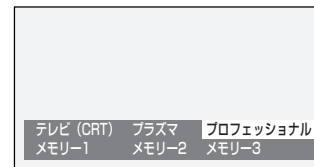
画質を調整する

映像（映画、アニメなど）に合わせた画質を選ぶことができます。また画質の設定項目をそれぞれお好みに調整して、さらにその設定を記憶しておくこともできます。再生中にテレビの画面を見ながら画質を調整することができます。初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

■あらかじめ設定されている画質を選ぶ

1 ▲/▼/◄/►で『映像2』➡『画質調整』➡『開始』と選ぶ

2 ENTERを押す

画質調整画面が表示されます。

3 『ビデオメモリー選択』を選び、ENTERを押す

4 ▲/▼/◄/►で好みの画質を選ぶ

TV（CRT）：

通常のテレビに適した画質です。

PDP（プラズマ）：

プラズマディスプレイに適した画質です。

プロフェッショナル：

業務用のモニターに適した画質です。

メモリー1／メモリー2／メモリー3：

好みで調整した画質設定を記憶させることができます。次項の「好みの画質に調整する」をご覧ください。

5 ENTERを押す

画質調整画面が消えます。自動的に画質調整画面が消えたときは設定した内容が無効になります。

■好みの画質に調整する

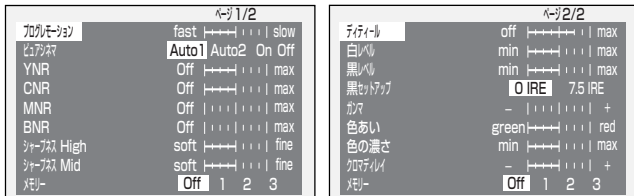
1 ▲/▼/◄/►で『映像2』➡『画質調整』➡『開始』と選び、ENTERを押す

画質調整画面が表示されます。

画質を調整する

2 ▲/▼で『ビデオ設定』を選び、ENTERを押す

3 ▲/▼で調整する項目を選ぶ

Displayを押すと、調整項目の一覧を画面に表示します。もう一度押すと上の画面に戻ります。

■設定項目一覧

プログレモーション：
プログレッシブスキャン映像に効果を与える設定で、動画向き、静止画向きの映像に調整します。プログレッシブが出力されているときのみ調整することができます。

ピュアシネマ：
プログレッシブスキャン回路とDNRの動作をフィルム素材のDVDの再生に最適な設定にします。通常は『Auto1』に設定しますが、映像が不自然なときは『Auto2』、『On』、または『Off』にします。

YNR：
輝度（Y）信号のノイズを軽減します。

CNR：
色（C）信号のノイズを軽減します。

MNR：
映像のモスキートノイズ（MPEG圧縮時に映像の輪郭部分に発生するノイズ）を軽減します。

BNR：
映像のブロックノイズを軽減します。

シャープネス High：
高域の周波数に対して画像の鮮明度を調整します。

シャープネスMid：
中域の周波数に対して画像の鮮明度を調整します。

ディテール：
画像の輪郭を強調します。

白レベル：
白色のレベルを調整します。

黒レベル：
黒色のレベルを調整します。

黒セットアップ：
黒色の浮きを補正し、立体感のある引き締まった映像を再現します。

ガンマ：
画像の暗い部分の見えかたを強調します。

色あい：
緑色と赤色のバランスを調整します。

色の濃さ：
色の濃さを調整します。色のりの多いアニメなどで効果があります。

クロマディレイ：
映像の輝度（Y）信号と色（C）信号のずれを調整します。
プログレッシブ映像にのみ効果があります。

4 ◄/►で各項目のレベルを調整する
『ファインフォーカス』の設定では『オン』、または『オフ』を選びます。

5 手順3〜4を繰り返してすべての項目を調整する
設定した内容を記憶させたいときは▲/▼で『メモリー』を選び、◄/►で『1』、『2』、『3』のいずれかを選んで記憶させてください。すでに画質設定が記憶されているときは新しい設定内容が上書きされます。

6 ENTERを押す
画質調整画面が消えます。なお、ENTERを押さないと、調整した内容を『メモリー』に記憶することができません。

お知らせ

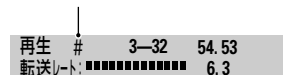
- ディスクやテレビ（モニター）によっては効果がはっきりしないことがあります。
- 『テレビ画面』の設定を『レターボックス（4:3）』または『パンスキャン（4:3）』にしてDVDを再生しているときに調整項目一覧を表示させると、画面が『ワイド（16:9）』に切り換わることがあります。これは故障ではありません。画面を閉じると元の設定に戻ります。

■ピュアシネマモードについて

DVDの映像信号には次の2種類があります。

- 『ビデオ素材』といわれる映像情報を毎秒30コマで記録した信号
- 『フィルム素材』といわれる映像情報を毎秒24コマで記録した信号

フィルム素材である映画フィルムは毎秒24コマ（24Hz）で記録されており、この『ピュアシネマ』モードは、そのような毎秒24コマで記録された映像情報を毎秒60コマのプログレッシブ画面に変換する際に、ディスクに記録された処理情報をもとにオリジナルの映画フィルムに忠実な走査線の構成をします。それにより原画に近い鮮明な映像を楽しむことができます。
この設定は通常、『Auto1』でお楽しみください。ディスクによっては輪郭がギザギザになったり、ブレて見えたりすることがあります。そのような場合は設定を『Auto2』、『Off』、または『On』に変更してご覧ください。
フィルム素材の（毎秒24コマで記録された）DVDが再生されているときは、それをディスクの情報画面で確認することができます。

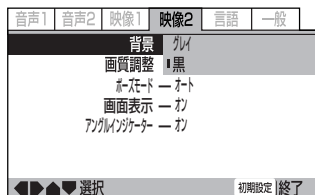
24コマフィルムのプログレッシブ映像信号が記録されている場合に、「#」が表示されます。

ディスクの情報画面を表示するには、画面表示ボタンを押します。繰り返し押すと上記の画面（転送レート表示画面）になります（詳しくは45ページをご覧ください）。

いろいろな設定

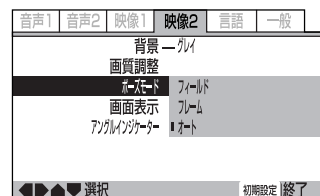
『映像2』の設定をする

エキスパートはより専門的な設定です。項目が表示されていない場合は47ページを参照して表示させてください。
初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

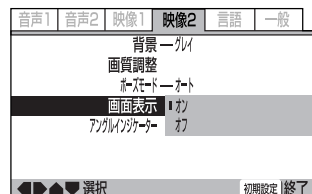
■背景を選ぶ

ディスクが停止しているときの画面の背景を選びます。

グレイ：
灰色の背景色を表示します（出荷時の設定）。
黒：
黒色の背景色を表示します。

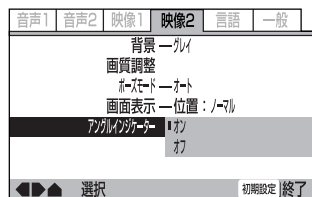
■静止画像を切り換える エキスパート

DVDを一時停止したときの画像のブレをなくし、画像を鮮明に見ることができます。ディスクによっては『フィールド』を選択しても画質が鮮明にならないことがあります。

フィールド：
静止画状態のとき、画像のブレをなくします。
フレーム：
通常モードです。
オート：
フィールドとフレームを自動的に切り換えます（出荷時の設定）。

■画面表示を選択する エキスパート

本機が表示する初期設定画面などの表示をするかしないかを設定します。

オン：
画面表示をします（出荷時の設定）。
オフ：
画面表示をしません。

■アングルマークを表示する エキスパート

再生中に画面に表示されるマークを表示させたくないとき設定を変更します。

オン：
画面にマークを表示します（出荷時の設定）。
オフ：
画面にマークを表示しません。

言語の設定をする

エキスパートはより専門的な設定です。項目が表示されていない場合は47ページを参照して表示させてください。
DVDの中には1枚のディスクに複数の字幕や音声を収録し、ユーザーが目的に合わせて好きなように選べる機能を持っているものがあります。ここでは初期設定画面の『言語』にあるさまざまな言語と字幕に関する設定を行います。初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

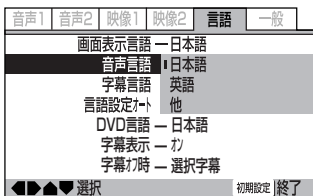
■画面表示言語を設定する

初期設定画面などに表示する言語を切り換えます。

日本語：
画面表示の言語が日本語になります（出荷時の設定）。

English：
画面表示の言語が英語になります。

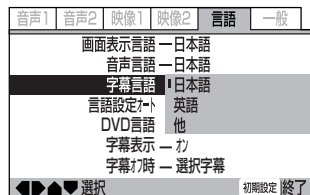
■音声言語を設定する

音声言語を選びます。この設定を再生中に変更することはできません。

日本語：
音声言語が日本語になります（出荷時の設定）。

英語：
音声言語が英語になります。

他：
136言語の中から任意の音声を選びます。詳しくは56ページの「字幕言語／音声言語／DVD言語の設定で『他』を選んだとき」をご覧ください。

■字幕言語を設定する

表示する字幕言語を選びます。この設定を再生中に変更することはできません。

日本語：
日本語の字幕を表示します（出荷時の設定）。

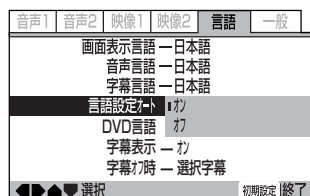
英語：
英語の字幕を表示します。

他：
136言語の中から任意の字幕を選びます。詳しくは56ページの「字幕言語/音声言語/DVD言語の設定で『他』を選んだとき」をご覧ください。

お知らせ

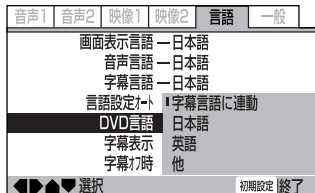
音声、または字幕言語の設定で選択した言語がディスクに記録されていないときはディスクのオリジナルの言語が選択されます。

■音声と字幕を自動的に設定する

音声と字幕を自動設定にするか、または初期設定で設定した音声/字幕にするかを選びます。この設定を再生中に変更することはできません。

オン：
『音声言語』と『字幕言語』が同じとき、および字幕表示がオンのとき有効となります（出荷時の設定）。一般の洋画DVDでは音声はオリジナル言語、字幕は日本語が選択され、邦画DVDでは音声は日本語、字幕はオフになります。ただし、ディスクによってはこのように動作しないものもあります。

オフ：
再生中の音声のオート設定が解除され、『音声言語』と『字幕言語』で設定している音声と字幕になります。

■DVDのメニュー言語を設定する エキスパート

DVDの中にはメニューを持っているものがあります。そのメニューを表示するときの言語を選びます。この設定を再生中に設定することはできません。

字幕言語に連動：

『字幕言語』で選択されている言語でメニュー画面が表示されます（出荷時の設定）。

日本語：

日本語でメニュー画面が表示されます。

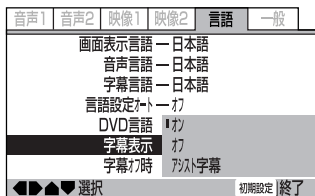
英語：

英語でメニュー画面が表示されます。

他：

136言語の中から任意の言語を選びます。詳しくは右の「字幕言語／音声言語／DVD言語の設定で『他』を選んだとき」をご覧ください。

■字幕表示をオン/オフする エキスパート

字幕を表示する、字幕を表示しない、またはアシスト字幕を表示するのいずれかを選びます。この設定を再生中に変更することはできません。

オン：

字幕を表示します（出荷時の設定）。

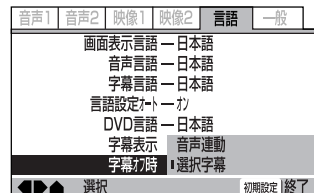
オフ：

字幕を表示しません。ただし、DVDの中には強制的に字幕を表示するものがあります（右の段落）。

アシスト字幕：

『アシスト字幕』は例えば、耳の不自由な方のために場面の状況を説明する字幕です。この項目を選ぶと、アシスト字幕を表示します。ただし、アシスト字幕はディスクに収録されている場合のみ表示します。

■強制的に表示される字幕の言語を設定する エキスパート

DVDの中には、『字幕表示』を『オフ』にしても、強制的に字幕が表示されるものがあります。そのときの字幕の言語を選びます。この設定を再生中に変更することはできません。

音声連動：

再生されている音声の言語で字幕を表示します。

選択字幕：

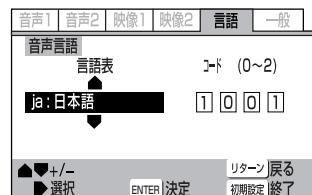
初期設定画面の『字幕言語』で選択されている言語で字幕を表示します（出荷時の設定）。

■字幕言語／音声言語／DVD言語の設定で『他』を選んだとき

57ページの言語コード表を見ながら操作します。DVDに収録されていない言語を設定したときは、収録されているいずれかの言語でメニュー画面が表示されます。

1 **『他』を選び、ENTERを押す**

言語選択画面が表示されます。

例　音声言語の場合

2 **『言語表』、または『コード』を選ぶ**

言語によっては言語コードしか表示されないものがあります。詳しくは言語コード表（☞57ページ）をご覧ください。

コードの（　）の中の数字は、設定できる数字の範囲を示しています。

『コード』で言語を選ぶとき

以下のいずれかの操作をします。

例　フランス語を選ぶ場合

- **数字ボタンの0、6、1、8を押す**
- **1ケタごとに▲/▼を押して数字を選択する(◄/►を押してケタを移動します)**

『言語表』で言語を選ぶとき

例　フランス語を選ぶ場合

▲を2回押します。

3 **ENTERを押す**

■言語コード表

言語名(言語コード)	入力コード
Japanese (ja)	1001
English (en)	0514
French (fr)	0618
German (de)	0405
Italian (it)	0920
Spanish (es)	0519
Chinese (zh)	2608
Dutch (nl)	1412
Portuguese (pt)	1620
Swedish (sv)	1922
Russian (ru)	1821
Korean (ko)	1115
Greek (el)	0512
Afar (aa)	0101
Abkhazian (ab)	0102
Afrikaans (af)	0106
Amharic (am)	0113
Arabic (ar)	0118
Assamese (as)	0119
Aymara (ay)	0125
Azerbaijani (az)	0126
Bashkir (ba)	0201
Byelorussian (be)	0205
Bulgarian (bg)	0207
Bihari (bh)	0208
Bislama (bi)	0209
Bengali (bn)	0214
Tibetan (bo)	0215
Breton (br)	0218
Catalan (ca)	0301
Corsican (co)	0315
Czech (cs)	0319
Welsh (cy)	0325
Danish (da)	0401
Bhutani (dz)	0426
Esperanto (eo)	0515
Estonian (et)	0520
Basque (eu)	0521
Persian (fa)	0601
Finnish (fi)	0609
Fiji (fj)	0610
Faroese (fo)	0615
Frisian (fy)	0625
Irish (ga)	0701
Scots-Gaelic (gd)	0704
Galician (gl)	0712
Guarani (gn)	0714

言語名(言語コード)	入力コード
Gujarati (gu)	0721
Hausa (ha)	0801
Hindi (hi)	0809
Croatian (hr)	0818
Hungarian (hu)	0821
Armenian (hy)	0825
Interlingua (ia)	0901
Interlingue (ie)	0905
Inupiak (ik)	0911
Indonesian (in)	0914
Icelandic (is)	0919
Hebrew (iw)	0923
Yiddish (ji)	1009
Javanese (jw)	1023
Georgian (ka)	1101
Kazakh (kk)	1111
Greenlandic (kl)	1112
Cambodian (km)	1113
Kannada (kn)	1114
Kashmiri (ks)	1119
Kurdish (ku)	1121
Kirghiz (ky)	1125
Latin (la)	1201
Lingala (ln)	1214
Laothian (lo)	1215
Lithuanian (lt)	1220
Latvian (lv)	1222
Malagasy (mg)	1307
Maori (mi)	1309
Macedonian (mk)	1311
Malayalam (ml)	1312
Mongolian (mn)	1314
Moldavian (mo)	1315
Marathi (mr)	1318
Malay (ms)	1319
Maltese (mt)	1320
Burmese (my)	1325
Nauru (na)	1401
Nepali (ne)	1405
Norwegian (no)	1415
Occitan (oc)	1503
Oromo (om)	1513
Oriya (or)	1518
Panjabi (pa)	1601
Polish (pl)	1612
Pashto, Pushto (ps)	1619
Quechua (qu)	1721

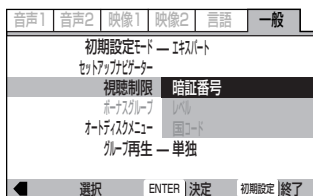
言語名(言語コード)	入力コード
Rhaeto-Romance (rm)	1813
Kirundi (rn)	1814
Romanian (ro)	1815
Kinyarwanda (rw)	1823
Sanskrit (sa)	1901
Sindhi (sd)	1904
Sangho (sg)	1907
Serbo-Croatian (sh)	1908
Sinhalese (si)	1909
Slovak (sk)	1911
Slovenian (sl)	1912
Samoan (sm)	1913
Shona (sn)	1914
Somali (so)	1915
Albanian (sq)	1917
Serbian (sr)	1918
Siswati (ss)	1919
Sesotho (st)	1920
Sundanese (su)	1921
Swahili (sw)	1923
Tamil (ta)	2001
Telugu (te)	2005
Tajik (tg)	2007
Thai (th)	2008
Tigrinya (ti)	2009
Turkmen (tk)	2011
Tagalog (tl)	2012
Setswana (tn)	2014
Tonga (to)	2015
Turkish (tr)	2018
Tsonga (ts)	2019
Tatar (tt)	2020
Twi (tw)	2023
Ukrainian (uk)	2111
Urdu (ur)	2118
Uzbek (uz)	2126
Vietnamese (vi)	2209
Volapük (vo)	2215
Wolof (wo)	2315
Xhosa (xh)	2408
Yoruba (yo)	2515
Zulu (zu)	2621

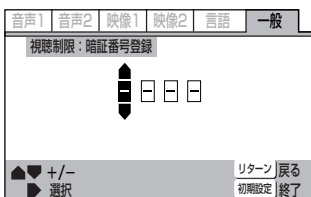
視聴制限をする（パレンタルロック）

暴力シーンなどを含むDVDの中には、視聴制限のレベルを設けたものがあります（ディスクのジャケットなどの表示で確認できます）。本機のレベルをディスクのレベルより小さく設定しておくと、これらのディスクの視聴を制限することができます。例えば、本機のレベルを6に設定しておくと、レベル7、レベル8のディスクを再生するためにはあらかじめ登録した暗証番号の入力が必要です。初期設定画面の操作のしかたについては46ページをご覧ください。

■暗証番号を登録する

1 ◄/►/▲/▼で『一般』➡『視聴制限』➡『暗証番号』を選ぶ

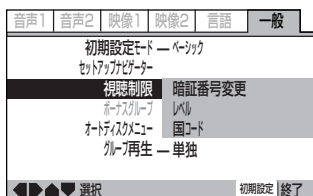
最初に暗証番号を登録します。暗証番号を登録していないと『レベル』、および『国コード』を選択することはできません。

2 ENTERを押す

『暗証番号登録』の画面が表示されます。

3 暗証番号を4桁で入力する

以下のいずれかの操作をします。

- 数字ボタンを押す
- ▲/▼で1ケタごとに数字を選ぶ（◄/►でケタを移動します）

4 ENTERを押す

以下の初期設定画面が表示されます。

暗証番号変更：

暗証番号を変更します。

レベル：

視聴制限のレベルを変更します。

国コード：

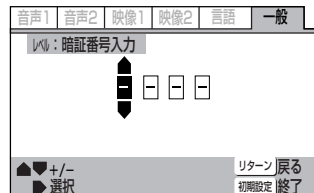
国コードを変更します。

お知らせ

- 暗証番号はメモしておくことをおすすめします。
- 暗証番号を忘れてしまったときは、出荷時の設定に戻して（☞61ページ）、再度設定してください。
- ディスクによっては、視聴制限されたシーンのみをとばして再生するものもあります。詳しくはディスクに添付されている操作方法をご覧ください。

■レベルを変更する

1 『レベル』を選び、ENTERを押す

『暗証番号入力』の画面が表示されます。

2 すでに登録している暗証番号を4桁で入力する

3 ENTERを押す

視聴制限レベルの設定画面が表示されます。出荷時は『オフ』に設定されています。

4 ◄/►でレベルを選び、ENTERを押す

視聴制限のレベルが設定されます。

視聴制限できるDVDを再生するには

視聴制限されたディスクを再生すると暗証番号の入力を求める画面が表示されることがあります。暗証番号を入力しないと再生することができません。以下の手順で操作します。

1 数字ボタンを押して、4桁の暗証番号を入力する。

2 ENTERを押す。

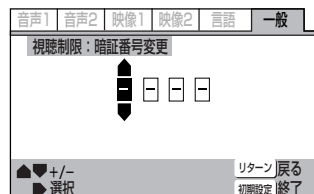
暗証番号を変更するには

1 『暗証番号変更』を選び、ENTERを押す

暗証番号入力の画面が表示されます。

2 すでに登録している暗証番号を4桁で入力する

3 ENTERを押す

暗証番号変更の画面が表示されます。

4 新しい暗証番号を4桁で入力する

5 ENTERを押す

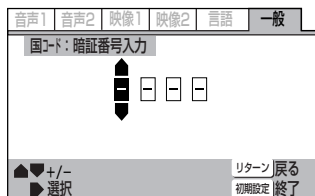
暗証番号が変更されます。

視聴制限をする（パレンタルロック）

■国コードを変更する

右の国コード表を見ながら操作します。

1 『国コード』を選び、ENTERを押す

『暗証番号入力』の画面が表示されます。

2 すでに登録している暗証番号を4桁で入力する

3 ENTERを押す

国コード設定画面が表示されます。

4 『コード表』、または『コード』を選ぶ

コードの（　）の中の数字は、設定できる数字の範囲を示しています。

『コード』で国コードを選ぶとき

以下のいずれかの操作をします。

例　日本を選ぶ場合

- **数字ボタンの1、0、1、6を押す。**
- **▲/▼を押して数字を選択する（◀/▶を押してケタを移動します）**

『コード表』で国コードを選ぶとき

例　日本を選ぶ場合

▼で『jp』を選びます。

5 ENTERを押す

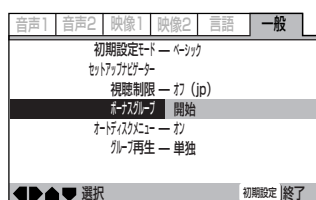
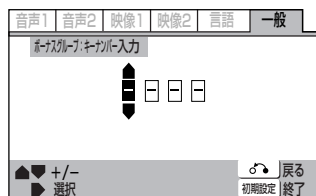
■国コード表

	入力コード	国コード
アメリカ	2119	us
アルゼンチン	0118	ar
イギリス	0702	gb
イタリア	0920	it
インド	0914	in
インドネシア	0904	id
オーストラリア	0121	au
オーストリア	0120	at
オランダ	1412	nl
カナダ	0301	ca
韓国	1118	kr
シンガポール	1907	sg
スイス	0308	ch
スウェーデン	1905	se
スペイン	0519	es
タイ	2008	th
台湾	2023	tw
中国	0314	cn
チリ	0312	cl
デンマーク	0411	dk
ドイツ	0405	de
日本	1016	jp
ニュージーランド	1426	nz
ノルウェー	1415	no
パキスタン	1611	pk
フィリピン	1608	ph
フィンランド	0609	fi
ブラジル	0218	br
フランス	0618	fr
ベルギー	0205	be
ポルトガル	1620	pt
香港	0811	hk
マレーシア	1325	my
メキシコ	1324	mx
ロシア	1821	ru

その他の設定をする

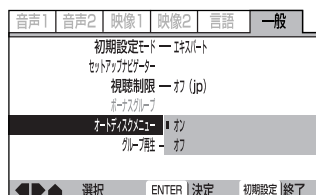
エキスパートはより専門的な設定です。項目が表示されていない場合は47ページを参照して表示させてください。

■ボーナスグループの設定をする エキスパート

DVDオーディオの中には、『ボーナスグループ』とよばれるグループを持つものがあります。このボーナスグループを再生しようとすると、4桁のキーナンバーの入力を求める画面が表示されますが、この設定であらかじめキーナンバーを入力しておくことができます。この設定は再生中に選択することができません。

キーナンバー入力画面

お知らせ

ディスクが取り出されるか、または電源が切られると、入力されたキーナンバーの記憶は消去されます。ボーナスグループを再生するときはもう一度キーナンバーを入力してください。

■オートディスクメニュー エキスパート

ディスクを読み込んだときに自動的に表示されるメニュー（トップメニュー）を表示させたくないときに設定を変更します。

オン：
ディスクを読み込んだときに自動的にメニューを表示します（出荷時の設定）。

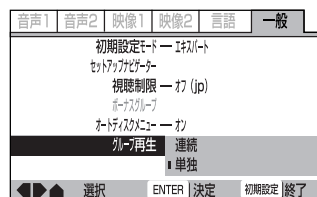
オフ：
自動的にメニューを表示しません。

お知らせ

ディスクによってはこの設定にかかわらず自動的にメニューを表示します。また、ディスク読み込み時に►を押すと、この設定は無視されます。

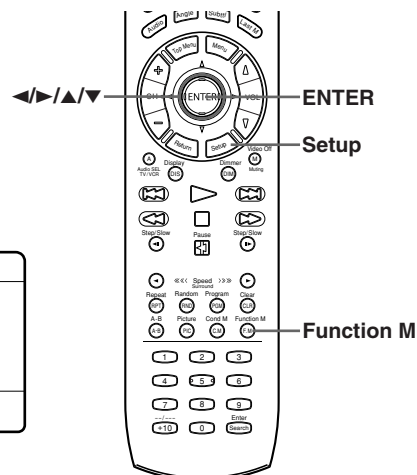
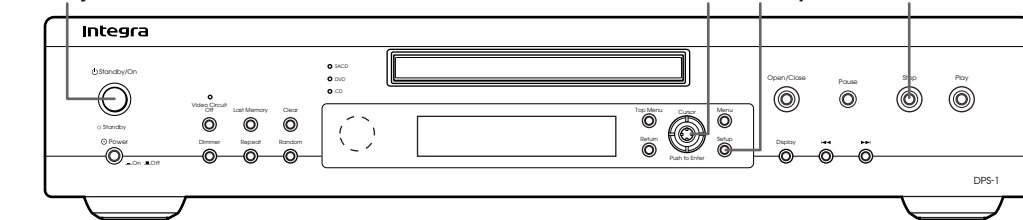
DVD-A

■グループ再生 エキスパート

DVDオーディオのディスクには最大で9つのグループが記録されます。この設定を『単独』にすると、グループを最後まで再生したあとでメニュー画面に戻ります。再生するグループを選ぶときは、グループサーチ（☞32ページ）を使います。（⏮/⏭や◀◀/▶▶は使えません。）
ディスクに記録されたすべてのグループを連続して再生したいときは、設定を『連続』にしてください。

連続：
1つのグループの再生が終わっても再生を続けます。

単独：
1つのグループの再生が終わると再生を停止します（出荷時の設定）。

お知らせ

- ディスクのメニュー画面からも再生したいグループだけを選択することができます。
- 『単独』を選択しているとき、ディスクのメニュー画面からすべてのグループを再生する項目を選択しても、1つのグループのみを再生することがあります。
- 『グループ再生』の設定で『単独』を選択しているとき、早戻し／早送り（◀◀/▶▶）ボタン、またはダウン／アップ（⏮/⏭）ボタンを使って、他のグループをまたいで早戻し／早送り、または頭出しすることはできません。グループサーチでグループを選択してください。
- 『連続』を選択していても、ディスクのメニュー画面から再生を始めたときは、すべてのグループを再生することができません。このようなときは、ディスクを停止してから再生を始めてください。

初期設定項目を登録する

初期設定項目を5つまで登録することができます

1 **Setupを押す**
初期設定画面が表示されます。

2 **◀/▶でタグ（『音声1』、『音声2』、『映像1』、『映像2』、『言語』、『一般』）を選ぶ**

3 **▲/▼で登録したい項目を選ぶ**

4 **Function Mを押す**
FMマークが表示され、設定内容が登録されます。

■登録を取り消すには

もう一度Function Mを押す
FMマークが消え、登録が取り消されます。

お知らせ

初期設定の中には登録できないものもあります。

登録した項目を呼び出す

1 **初期設定画面が表示されていないときにFunction Mを押す**
登録した項目だけが表示されます。

2 **▲/▼で項目を選ぶ**

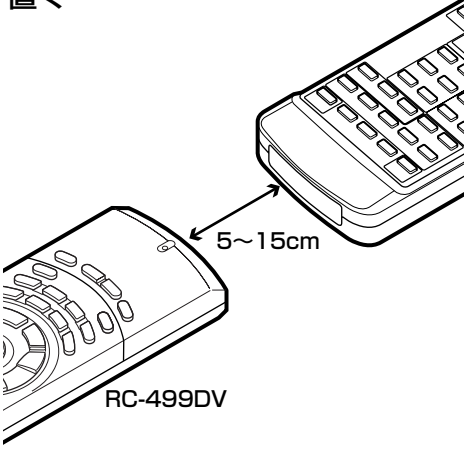
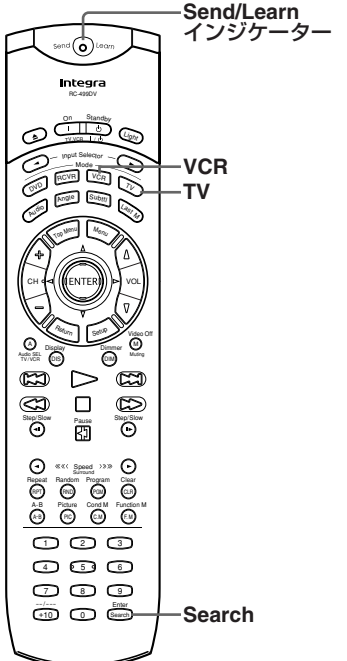
3 **ENTERを押す**

すべての設定を出荷時に戻す

すべての設定内容を出荷時の状態に戻します。

1 **本機を待機状態（スタンバイ状態）にする**
2 **■を押しながら、本体のStandby/Onを押す**
すべての設定内容が出荷時の状態に戻ります。

ご注意

この操作を行うと、プログラムメモリー（☞37ページ）、ラストメモリー（☞41ページ）、コンディションメモリー（☞42ページ）、ビデオメモリー（☞52ページ）、および初期設定項目など記憶していたすべてのメモリーも同時に消去されます。操作を行う前に十分にご注意ください。

他の機器のリモコン信号を記憶させる

本機のリモコンには学習機能が付いています。他の機器のリモコン信号を記憶させ、他の機器も本機に付属のリモコンで操作できます。リモコンはDVDモードでもレシーバーモードでも記憶させることができます。

学習のさせ方

他の機器のリモコン信号をRC-499DVリモコンに学習させる場合、まずどのModeボタンに信号を学習させるか選択します。転送元の機器に合ったModeボタンを選択するのが一般的です。たとえば、テレビのリモコン信号を学習させる場合は、TV Modeを押します。TV Modeを押すと、RC-499DVリモコンのボタンにテレビのリモコン信号を登録できるようになります。使用するModeボタンが決まったら、RC-499DVリモコンのボタンにテレビのリモコン信号を1つずつ転送します。テレビの各リモコン信号は、RC-499DVリモコンのボタンに登録されます。
電池切れなど何らかの理由でリモコン信号が消えてしまった場合のために、テレビのリモコンは大切に保管しておいてください。

1

学習させたいリモコンとRC-499DVを5〜15cm離して置く

5〜15cm

RC-499DV

Send/Learn インジケーター

VCR

TV

Search

2

RC-499DVの学習させたいModeボタン（VCRまたはTV）を押しながらSearchを押し、指を離す

Modeボタンを押し続けると、Send/Learnインジケーターが点灯し、Searchを押すと消灯します。指を離すとSend/Learnインジケーターが再度点灯します。

3

RC-499DVの学習させたい操作ボタンを押して指を離す

それぞれのModeによってMode（DVD、RCVR、TV、VCR）ボタンとLightボタン以外に記憶させることができます。
押すボタンを間違えたときは、その同じボタンをもう一度押してください。 Send/Learnインジケーターが3回点滅し、学習モード から抜けます。この場合はもう一度手順1から行ってください。

4

学習させたい他の機器のリモコンのボタンをSend/Learnインジケーターが2回点滅するまで押し続ける

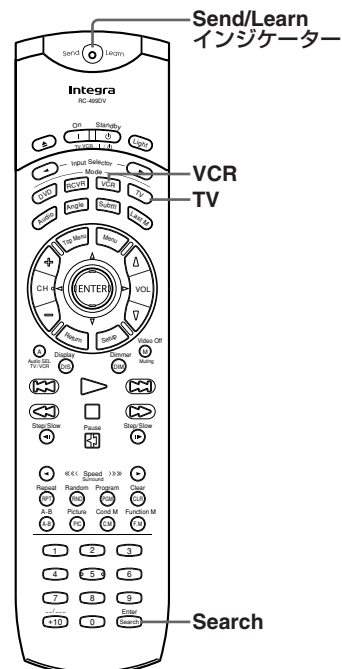
Send/Learnインジケーターが2回点滅した後、再度点灯します。

5

同じMode内の異なるボタンを続けて学習させる場合は、手順3〜4に戻ります

異なるModeボタンに続けて学習させる場合は、手順2〜4に戻ります

6

学習を終了する場合は、手順2で押したのと同じModeボタンを押す

学習のさせ方

7	記憶させたボタンで動作することを確認する

お知らせ

- このリモコンには、あらかじめオンキヨー製AVアンプ／レシーバーを操作する信号がいくつかプログラムされています（☞19ページ）ので、オンキヨー製AVアンプ／レシーバーのリモコン信号を記憶させる場合は、これ以外の操作を選んで記憶させることをおすすめします。
- 30秒以上ボタン操作がない場合は、Send/Learnインジケーターが早く3回点滅し、もとの状態に戻ります。その時は手順2からやり直してください。
- 操作途中で間違った場合は、Send/Learnインジケーターが早く3回点滅し、もとの状態に戻ります。その時は手順2からやり直してください。
- あらかじめ学習されているボタンに異なる信号を上書きする場合も、上記の操作で行なうことができます。
- 本リモコンは赤外線を利用しています。ほとんどのリモコン信号は、この赤外線方式で記憶が可能です。しかし、方式の違いによって、記憶することができない場合もあります。
- リモコンによっては、ボタンを押すたびに信号が変わるなどのように、1個だけのボタンで各種のリモコン信号を送るものがあります。このようなリモコンをお使いの場合には、リモコンの各ボタンにリモコン信号を1種類ずつ記憶させてください。
- 他社製の機器の操作方法の詳細については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のリモコンおよび記憶させたいリモコンの電池は新しいものをお使いください。
  消耗したり寿命のなくなった電池をお使いになると記憶させることができなかったり、記憶させたボタンで機器が正常に動作しないことがあります。
- リモコンの電池を約10分間取り出したままにすると、リモコンに記憶させた信号は、すべて消去されます。

記憶させた信号を消去する

消去できるのは学習させた信号のみです。あらかじめプリセットされている信号を消すことはできません。

1	**消したいボタンのあるModeを押しながら、Searchを押した後、指を離す** 指を離すと、Send/Learnインジケーターが点灯します。
2	**消したいボタンを押して指を離す** ボタンを押すとSend/Learnインジケーターが消灯し、指を離すと再びインジケーターが点灯します。
3	**消したいボタンをもう一度押して指を離す** Send/Learnインジケーターが2回点滅します。これで消去が完了し、もとの状態に戻ります。

お知らせ

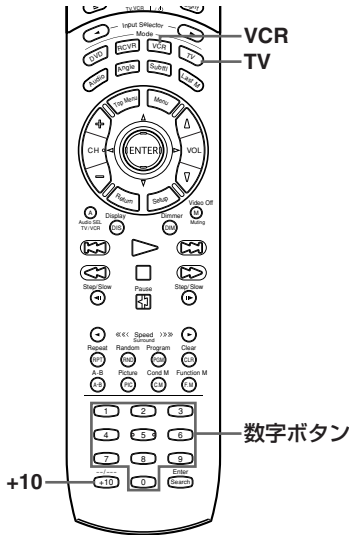
30秒以上ボタン操作がない場合は、Send/Learnインジケーターが早く3回点滅し、もとの状態に戻ります。この時は手順1から操作しなおしてください。

Modeボタンに記憶させた信号をすべて消去する

1	**消したいModeボタンを押しながら、Searchを2回押した後、指を離す** 指を離すとSend/Learnインジケーターが2回ゆっくりと点滅した後、再度点灯します。
2	**もう一度消したいModeボタンを押した後、指を離す** 指を離すとSend/Learnインジケーターが2回ゆっくりと点滅します。これで消去が完了し、もとの状態に戻ります。

お知らせ

- 30秒以上ボタン操作がない場合は、Send/Learnインジケーターが早く3回点滅した後、もとの状態に戻ります。この時は手順1からやり直してください。
- 操作を間違った場合は、Send/Learnインジケーターが早く3回点滅し、もとの状態に戻ります。その時は手順1からやり直してください。
- Modeボタンへの登録ボタンの数が多い場合は手順2でSend/Learnインジケーターが点灯し続けることがありますが、故障ではありません。

他の機器のリモコンコードを登録する

他の機器（テレビまたはビデオデッキ）のリモコンコードを登録する

あらかじめ登録したいテレビまたはビデオデッキのコード番号（☞66ページ）をお調べください。

1

登録したいMode（VCRまたはTV）ボタンを押しながら＋10ボタンを押して、両方から指を離す

Modeボタンを押すとSend/Learnインジケーターが点灯し、Displayボタンを押すと消えます。
Send/Learnインジケーターが消えてから指を離してください。指を離すと、再びSend/Learnインジケーターが点灯します。

2

数字ボタンで登録したいビデオまたはテレビのコード番号（3桁）を入力する

Send/Learnインジケーターが2回ゆっくり点滅します。3回すばやく点滅したときは、登録に失敗しているのでもう一度操作してください。

登録したボタンを押して、他機を操作する

もし他機が操作できないときは、もう一度登録をやり直してみてください。

■機能に対するボタンの割り付け

RC-499DVのボタン名	TV	VCR
I (On)	POWER	POWER
⏻ (Standby)	POWER	POWER
CH＋	Program Channel ＋	Program Channel ＋
CH－	Program Channel －	Program Channel －
VOL△	Volume ＋	
VOL▽	Volume －	
A/Audio SEL/TV/VCR	TV/VCR	TV/VCR
Video Off/M/Muting	Mute	
►		Play
■		Stop
►►		FF
◄◄		FR
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	4
5	5	5
6	6	6
7	7	7
8	8	8
9	9	9
＋10	＋10, --/---	＋10
0	0	0
Enter/Search	ENT, OK	ENT, OK
⏸ (Pause)		PAUSE

■登録したコードを消去する

1 リモコンの電池を取り出す
2 OnボタンとStandbyボタンを押しながら、電池を入れる
3 Searchボタンを押す

ご注意

学習させたコードも全て消去されます。

他の機器のリモコンコードを登録する

リモコンコード番号表

■TV（テレビ）

ブランド名	コード番号
AIWA	100, 101
AKAI	102, 103, 104
AUDIO SONIC	105
BELL&HOWELL	106
BLAUPUNKT	107
BRIONVEGA	108, 109
CENTURION	110
COLTINA	111, 112, 113
CORONAD	114
CROWN	115, 116
DAEWOO	117, 118, 119, 120, 121
DUAL	122
EMERSON	123, 124, 125, 126, 127
FENNER	128, 129
FERGUSON	130, 131
FISHER	132
FUNAI	133, 134, 135
FUJITSU GENERAL	136, 137, 138
GE･PANA	139, 140
GE･RCA	141
GOLD STAR	142, 143
GOODMANS	144
GRUNDIG	145, 146
HITACHI	147, 148, 149, 150
HYPER	151
INNO-HIT	152
IRRADIO	103
JVC (VICTOR)	153, 154, 155, 156, 157
KENDO	158
KTV	159, 160
LUXOR	161
MAGNAVOX	162, 163
MARANTZ	164
MARK	165
MATSUI	166, 167, 168, 169
MITSUBISHI	170, 171, 172, 173
MIVAR	174, 175
NEC	176, 177
NOKIA	178, 179, 180, 181
NOKIA OCEANIC	181
NORDMENDE	182, 183
OKANO	152
ORION	184, 185, 186
PANASONIC	187, 188, 189, 190
PHILIPS	162, 191, 152
PIONEER	192, 193
PROSCAN	194
QUASAR	195
RADIOSHARK	196
RCA	141, 197, 198, 110, 199, 200

ブランド名	コード番号
SABA	201, 182, 183
SAMSUNG	202, 203, 204, 205, 206, 207, 208
SANYO	209, 210, 211, 212
SCHNEIDER	103
SEARS	213
SELECO	214, 215
SHARP	216, 217
SONY	218, 219, 220, 221, 222, 223
SYMPHONIC	224, 225
TELEFUNKEN	201, 226, 227
THOMSON	228
TOSHIBA	213, 229
UNIVERSUM	230
ZENITH	231, 232

ご注意

複数のコード番号があるときは、1つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

■VCR（ビデオデッキ）

ブランド名	コード番号
AIWA	300, 301, 302
AKAI	303, 304, 305, 306, 307
BAIRD	308
BELL&HOWELL	309
BLAUPUNKT	310
CGM	311, 312, 313
COLTINA	314
DAEWOO	315, 316
DIGTAL	317
EMERSON	318, 319, 320, 321, 322
FENER	323
FISHER	324, 325, 326, 327
FUJITSU GENERAL	328
FUNAI	329
G.E.	331, 330
GO VIDEO	332, 336, 337
GOLDSTAR	333, 334
GOODMANS	335
GRUNDIG	338
HITACHI	331, 382, 339, 340, 341
JVC (VICTOR)	342, 343, 344, 345, 346, 347, 348, 349, 350
LOEWE	351, 352
MAGNAVOX	353, 354, 355
MITSUBISHI	356, 357, 358, 359, 360, 361, 362, 363, 364
NEC	365, 366, 367
NOKIA	313
NORDMENDE	368, 369, 370
OKANO	371, 372
ORION	319, 373
PANASONIC	374, 375, 376, 377, 378
PHILIPS	353, 379, 380
PHONOLA	311
PIONEER	381
RCA	382
SABA	383
SAMSUNG	384, 385, 386, 387, 388, 389, 390
SANYO	391, 392, 393
SCOTT	394
SELECO	395
SHARP	396, 397, 398, 399
SHINTOM	400
SIEMENS	401
SONY	402, 403, 404, 405, 406, 407, 408, 409 410, 411, 412, 413, 423
SYMPHONIC	414
TEKNICA	414, 415
TELEFUNKEN	416, 417
TOSHIBA	418, 419, 420
WHITE WESTINGHOUSE	333
WATSON	421
ZENITH	422

故障? と思ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もあります。他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。

表や他機の取扱説明書で点検しても正常に動作しないときは、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店、または当社サービスセンターまでご連絡ください。その際に「お名前」「おところ」「電話番号」「製品名（DPS-1）」と、「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお知らせください。

	症 状	原 因	処 置	参照ページ
本体	● 電源が入らない。	● 電源プラグの差し込みが不完全になっている。 ● 主電源がOFFになっている。 ● 本機内蔵のコンピューターが、外部からのノイズに影響を受けた。	● 電源プラグをコンセントにしっかりと差し込んでください。 ● 主電源をONにしてください。 ● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	24 24 24
	● ディスクトレイを閉めても出てきてしまう。	● ディスクがディスクトレイに正しくセットされていない。 ● ディスクが汚れている。 ● ディスクのリージョン番号が本機に合っていない。	● ディスクをディスクトレイに正しくセットしてください。 ● ディスクを取り出して、手入れしてください。 ● 本機では、リージョン番号「2」または「ALL」のディスクを再生してください。	28 12 9
	● ディスクの再生ができない。	● ディスクが入っていない。 ● 再生できないディスクを入れた。 ● ディスクの裏表が逆になっている。 ● ディスクがディスクトレイのガイド内に収まっていない。 ● ディスクが汚れている。 ● パレンタルロックがはたらいている。	● ディスクを入れる。（入れたディスクによって、本体の表示部に『SACD』、『DVD』または『VCD』、『CD』の表示がでます。確認してください。 ● 本機で再生できるディスクを入れてください。 ● 再生面を下にしてディスクトレイに置いてください。 ● 正しいガイドの内側に置いてください。 ● ディスクを取り出して、手入れしてください。 ● パレンタルロックを解除するか、パレンタルロックのレベルを変えてください。	28 9 28 28 12 58
	● 再生画像が時々乱れる。	● ディスクが汚れている。 ● 早送り、早戻しをしている。	● ディスクを取り出して、手入れしてください。 ● 早送り、早戻しをすると画像が多少乱れることがあります。これは本機の故障ではありません。	12 –
	● 再生画像の明るさが一定しない。または、再生画像にノイズが入る。	● コピープロテクト（コピー防止機能）がはたらいている。	● 本機を直接テレビに接続してください。本機をカセットビデオデッキ経由で接続しないでください。	20、21
	● 本機で再生した映像がテレビ画面にあらわれない。	● テレビが本機を接続した入力に設定されていない。 ● 接続に問題がある。	● テレビの入力を、本機を接続した入力端子に対応した入力に切り換えてください。 ● 接続を点検してください。	– 20、21
	● 設定内容が消える	● 電源が入っているときに、停電や電源コードが抜かれて電源が切れてしまった。	● 電源が入っているときに、停電や電源コードが抜かれて電源が切れてしまったときは、設定内容が消えてしまいます。電源コードは必ず本体のSTANDBY/ON、またはリモコンのSTANDBYを押して、表示窓の「--OFF--」表示が消えてから抜いてください。	–
	● ディスクの再生順序で再生されない。	● リピート再生、メモリー再生、ランダム再生などが設定されている。	● 特別な再生モードを解除してください。	34、35、38
	● 画面が止まり、操作ボタンを受け付けない。	● 静電気やノイズなどの影響により本機が動作しない。	● 電源ボタンを押し、電源を入り切りしてください。または電源プラグを抜きもう一度差し込んで下さい。	–
	● マークが画面に出る。	● ディスクが禁止している操作をした。	–	–
	● マークが画面に出る。	● 本機が禁止している操作をした。	–	–
	● 設定中にDVDマークが画面に出る。	● CDやSACD、ビデオCD、MP3ファイルを記録したディスクが入っているとき、DVDでしか働かない項目を設定しようとしている。	● DVDを入れて操作してください。	–

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
本体	● 初期設定画面に設定項目が出てこない。	● 初期設定モードが『ベーシック』になっている。	● 初期設定モードを『エキスパート』にしてください。	47
	● フレームサーチができない。 フレーム番号が表示できない。	● フレームサーチはDVDでのみ行うことができます。 ● フレーム番号はDVDでのみ表示させることができます。 ● フレーム番号はDVDの一時停止、またはコマ送り再生時に表示されます。	● 初期設定画面で「フレームサーチ」を「オン」にしてください。	52
	● 指定したフレームにサーチできない。 コマ送り再生時、フレームが抜けてしまう。	● 24コマフィルムのプログレッシブ映像が記録されているディスクの場合、24コマを0～29フレームの30フレームにあてはめるため本機では、5フレームに1度の割り合いで指定したフレーム番号が抜けます。抜けているフレーム番号にサーチを行うと、次のフレーム番号にサーチされます。また、コマ送り再生中も指定したフレーム番号が抜けます。	● 表示はフレーム番号が抜けますが動作上コマ落ちしているわけではありません。これは故障ではありません。	–
	● SACDの音声がデジタル出力できない。	–	● SACDはデジタル音声は出力されません。 本機とアンプがアナログ接続されていることを確認し、アンプの入力をアナログ接続している入力に切り換えてください。	23
	● サラウンドの音声が出ない。	● SURR 2端子に接続されている。	● SURR 1端子に接続してください。	23
	● サラウンドの音声が小さい。	● SURR切り換えスイッチが「1＋2」に設定されている。	● SURR切り換えスイッチを「1」に設定してください。	23
	● 192/176.4kHz音声がデジタル出力できない。	● DVDオーディオの192/176.4kHz音声はデジタル出力できません。	–	48
	● 96/88.2kHz音声でデジタル出力できない。	● 著作権保護がされているディスクでは96/88.2kHz音声のデジタル出力が禁止されています。 ● 初期設定画面の「音声1」の「リニアPCM出力」の設定が「ダウンサンプルオン」になっていないか確認してください。	– ● 接続したアンプが96kHz対応のときは、設定を「ダウンサンプルオフ」にします。	– 48
	● DTS音声が出ない。	● 本機とDTS音声に対応していないアンプ、またはデコーダーをデジタル音声ケーブルで接続している。 ● DTS音声対応アンプ、またはデコーダーとデジタル接続しているときはアンプの設定、およびデジタル音声ケーブルが正しく接続しているか確認してください。	● 「DTS出力」の設定を「DTS ► PCM」にしてください。「DTS」を選択しているとノイズが発生することがあります。	47 22、47
	● DVDやSACD、CDで音量差を感じる。	● ディスクの記録方式の違いによるものです。	–	–
	● DVD再生中に画像が乱れる、または暗い。	● 本機はアナログコピープロテクト方式のコピーガードに対応しています。ディスクによってはコピー禁止信号が入っているものがあります。 ● 一部のプログレッシブ対応テレビは本機と完全な互換が取れていないために、画像が乱れることがあります。	● そのようなディスクを再生した場合、一部画像に横縞が入るなどの症状が出るものもありますが、故障ではありません。 ● 本機の「コンポーネント出力」の設定を「インターレース」にしてください。	– 51

故障? と思ったときは

	症　状	原　因	処　置	参照ページ
本体	● 再生しているディスクの音声が出ない。	● 初期設定画面の『音声1』の『リニアPCM出力』の設定が『ダウンサンプルオフ』になっている。	● ディスクによっては、リニアPCMの96kHzデジタル出力を禁止しているものがあります。『ダウンサンプルオン』に設定してください。	48
		● 初期設定画面の『音声1』の『デジタル出力』の設定が『オフ』になっている。	●『オン』に設定してください。	48
		●『音声1』の設定と音源の音声方式が合っていない。	● 設定と音声方式を確認してください。	48
		● 一時停止またはスロー再生になっている。	● 通常の再生にしてください。	30
		● テレビまたはアンプなどの音量が最小になっている。	● ボリュームを上げてください。	—
		● DTS収録のDVDまたはCDを再生している。	● 本機とDTS対応アンプまたはデコーダーの接続と『音声1』の設定を確認してください。	22、47
	● 画面が縦または横に伸びている。	●『テレビ画面』の設定がテレビに合っていない。	● 設定を確認してください。	51
		● 本機とテレビをS映像端子で接続している。	● 本機とテレビをS映像端子で接続しているとき、テレビ側の処理信号により映像が横方向に伸びてしまうことがあります。このときは『S映像出力』の設定を『S1』にしてください。	52
	● MP3ファイルを記録したディスクを再生することができない。	● 記録したディスクがISO9960フォーマットに準拠していない。	● ディスクを確認してください。	10
		● MPEG1オーディオレイヤー3のサンプリング周波数44.1kHz、または48kHzの固定ビットレートで記録されていない。	● ディスクに記録されているデータを確認してください。	10
	● ディスクに記録されているトラック（MP3ファイル）を選択することができない。	●「.mp3」または「.MP3」以外の拡張子がついている。	● 本機では「.mp3」または「.MP3」以外の拡張子が付いているファイルを認識することができません。拡張子を「.mp3」または「.MP3」に変更してください。	10
		● 251以上のフォルダーまたはトラックが記録されている。	● 本機では251以上のフォルダーまたはトラックを認識することはできません。	10
		● マルチセッションディスクを入れた。	● 本機はマルチセッションに対応していません。再生するディスクがマルチセッションディスクのときは最初のセッションのみ再生します。	10
	● リモコンのボタンも、本体のボタンもはたらかない。	● 電源の電圧の変動や、静電気などによって動作がおかしくなった。	● 一度主電源を切ってから、主電源を入れ直してください。それでも回復しない場合は、電源コードを一度抜いてから、再度コンセントに接続してください。	24
リモコン	● 本体のボタンははたらくが、リモコンのボタンがはたらかない。	● リモコンに乾電池が入っていないか、電池が切れている。	● 新しい乾電池をリモコンに入れてください。	14
		● リモコンの先が本体の受光部に向けられていない。	● リモコンの先を本体の受光部に向けて操作してください。	14
		● リモコンが本体から遠すぎる。	● リモコンは、本体から5m以内のところで操作してください。	14

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害については保証対象になりません。大事な録音・録画をするときには、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

主な仕様

■ 一般仕様

電源	AC100V 50/60Hz
消費電力	34W
質量	5.0kg
外形寸法	435（幅）×91（高さ）×317（奥行き）mm

■ 本体部

信号方式	日米標準NTSCカラーテレビジョン方式
使用レーザー	半導体レーザー　波長650nm
音声周波数特性（デジタル音声）	DVDリニア音声：　48kHz サンプリング4Hz～22kHz 96kHz サンプリング4Hz～44kHz 192kHz サンプリング4Hz～96kHz CDオーディオ：　4Hz～20kHz SACD：　4Hz～96kHz
信号対雑音比（SN比）（デジタル音声）	118dB以上
ダイナミックレンジ（デジタル音声）	100dB以上
全高調波ひずみ率（デジタル音声）	0.001%以下
ワウ・フラッタ	測定限界［±0.001%（W. PEAK）以下］
使用条件	温度：5℃～35℃、動作姿勢：水平

■ 端子部

映像出力	1.0V（p-p）、75Ω、同期負、ピンジャック×2
S映像出力	（Y）1.0V（p-p）、75Ω、同期負、ミニDIN4ピン×2 （C）0.286V（p-p）、75Ω
色差出力	（Y）1.0V（p-p）、75Ω、ピンジャック×1、BNCジャック×1 （CB）／（CR）0.7V（p-p）、75Ω
D1／D2出力	（Y）1.0V（p-p）、75Ω （CB）／（CR）0.7V（p-p）、75Ω
音声出力（光デジタル音声）	－22.5dBm×2
音声出力（同軸デジタル音声）	0.5V（p-p）、75Ω、ピンジャック ×1
音声出力（アナログ音声）	2.0 V（rms）、440Ω、ピンジャック（L、R）×2 2.0 V（rms）、440Ω、ピンジャック（Lo/Lt、Ro/Rt、SL1、SR1、C、SW）×1 1.4 V（rms）、440Ω、ピンジャック（SL2、SR2）×1

※ 仕様および外観は予告なく変更することがあります。

用語解説

アスペクト比
テレビ画面の横と縦の比率をいいます。通常のテレビでは、4：3ですが、ハイビジョンテレビやワイドテレビは16：9の比率となっています。横に広がった臨場感溢れる映像が楽しめるようになっています。

拡張子
OSやアプリケーションソフトで管理されているファイルの種類を表わす文字符号です。ピリオドと3文字のアルファベットで構成されています。

スクリーンセーバー
同じ静止画を長時間再生し続けると画面に焼きつき現象が出ることがあります。
これを避けるため、本機ではスクリーンセーバー機能を持っています。基本的には画面の輝度を落とせば同様の効果が得られますが、他のDVDプレーヤーのスクリーンセーバーでは一定時間操作しないと自動的に画面を暗くするもののほか、常に動画を表示して、画面の一カ所に強い光線（明るい色）が集中しないようにするものもあります。

ダイナミックレンジ
ひずみ無く信号を伝送、変換する最大のレベルと雑音その他、機器の性質で制限される最小レベルの差をいいます。単位はデシベル（dB）を使います。

パレンタル（視聴制限）
国ごとの規正レベルに合わせて視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDプレーヤーの機能のひとつです。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがあります。

ビットストリーム
ドルビーデジタルやDTSフォーマットのデジタルデータです。

ビットレート（Bit Rate）
DVDビデオに圧縮して記憶されている画像の1秒あたりの情報量を示す値です。単位はMbps（Mega bit per second）で、1Mbpsは1秒あたりの情報量が1,000,000ビットであることを表します。
この値が大きいほど画像の情報量は多くなりますが、必ずしも画質とは直接関係しません。

ビデオCD
MDと同等の音質とVHS並みの画質で動画再生が楽しめるディスクです。デジタル信号の圧縮技術（MPEG1方式）により最大74分のデジタル画像と音声が連続再生できます。
ビデオCDにはメニュー画面で見たい場面を選んだり、静止画を再生できる「プレイバックコントロール（PBC）」対応のディスクがあります。

プログレッシブ
映像の1フレーム（コマ）を2つの画像を続けて表示し人間の目の残像効果で1枚の画像に見せているインターレース方式に対して、1フレームを1つの画像で表示する方式。インターレースが1秒を30フレームで構成するのに対してプログレッシブは1秒を60フレームで構成するため、大画面でも静止画や文字などが多い場面、激しい動きのある場面でも画面のちらつきが気にならない高品質な画像を再現できる。

マルチアングル
DVDビデオの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていることです。

マルチセッション
CD-RやCD-RWにデータを記録するとき、その記録の始めから記録の終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1枚のディスクに2つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リジューム機能
DVD再生中にSTOPボタンを押した位置を記憶し、PLAYボタンを押すと停止した部分から再生をはじめる機能。

DVDオーディオ
DVDビデオ規格をベースに、音質を特化したディスクです。音質を良くするために、192kHzサンプリングに対応しています。

DVDビデオ
CDと同じ直径で、最大8時間までの動画が記録できるディスクです。
片面一層で4.7GB（Giga Byte）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できます。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2」（エムペグ2）を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録します。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されています。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタルを用いて記録でき、より臨場感のある音声が楽しめます。
またマルチアングル、マルチランゲージなどさまざまな付加機能も用意され、より高度な楽しみかたができます。

PBC（プレイバックコントロール）
ビデオCD（バージョン2.0）に記録されている、再生をコントロールするための信号です。
PBC対応ビデオCDに記録されているメニュー画面（選択画面）を使って、簡単な対話型ソフトや、検索機能を持ったソフトなどを楽しめます。

PCM
Pulse Code Modulationの略でデジタル音声のことをいいます。CDやLD、DVDビデオのデジタル音声がPCMです。

SACD
CDの規格をベースに、多くのデータが記録された高音質規格です。
SACDには、1層ディスク、2層ディスク、ハイブリッドディスクの3種類があります。
ハイブリッドディスクはSACDとCDの両方の構造を持ち合わせています。

S1映像信号
S1とは、アスペクト比（4:3、16:9）の認別信号の入ったS映像信号です。

S2映像信号
S1に加えアスペクト比4:3レターボックス信号の認別の入ったS信号です。S2対応のワイドテレビでは、適切な映像モードに自動的に切り替わります。

ONKYO

オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内

オンキヨー製品についてのご購入相談はお近くの販売店へ、修理については、お買い求めの販売店へご依頼ください。
万一お困りの場合には、下記の窓口へご相談くださるようお願いいたします。

お 客 様 ご相談窓口	カスタマーセンター　受付　9:30～17:30（土日祝、弊社休日除く） ■カタログのご請求、製品についてのご相談 ＊e–mail ：　ホームシアター/オーディオ製品　→　customer@onkyo.co.jp ＊TEL.　：　ナビダイヤル 0570－01－8111（全国どこからでも市内料金で通話いただけます） または 072－831－8111（携帯電話、PHSから）へどうぞ。 ＊FAX.　：　072－831－8124 ＊はがき　：　〒572－8540 大阪府寝屋川市日新町２－１ オンキヨー株式会社　カスタマーセンター行

オンキヨー製品情報、ユーザー登録ホームページへ　→　http://www.onkyo.co.jp

快適なオーディオライフをお手伝い。ネットショップへ　→　http://www.e–onkyo.com

修理窓口 修理のご依頼は、取扱説明書の「困ったときは」、「故障かな？と思ったときは」または「故障？と思ったときは」の項目をご確認のうえご依頼ください。転居されたり、贈物でいただいたものの故障で、お困りの場合は、下記へご相談ください。

東京サービスセンター TEL 03-3861-8121　FAX 03-3861-8124 〒111-0054 東京都台東区鳥越 1-2-3 ハマスエビル	大阪サービスセンター TEL 06-6576-7620　FAX 06-6576-7604 〒552-0013 大阪市港区福崎 3 丁目1番１４８号

2002年9月現在　お客様相談窓口・修理窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがございますのでご了承ください。

Integra

修理について

◆ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より3年間です。

◆ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

◆ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスセンターにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

◆ 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名（DPS-1）」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスセンターまでご連絡ください。

◆ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

◆ 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスセンターにご相談ください。

修理を依頼される時は、下の事項を販売店または当社サービスセンターまでお知らせください。

- ► お名前
- ► お電話番号
- ► ご住所
- ► 製品名（DPS-1）
- ► できるだけ詳しい故障状況

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

購入年月日：　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　（　　）

メモ：

Integra

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくはオンキヨーご相談窓口・修理窓口記載のサービスセンターへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 06(6576)7620

http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343367

W0209-1